
**第9期介護保険事業計画基礎調査
高齢者の生活に関する調査
報告書**

《 概要版 》

令和5年3月

目 黒 区

目 次

第1章 調査の概要

- 1 調査の目的 1
- 2 調査の種類と対象者 1
- 3 調査の方法等 2
- 4 回収状況 2
- 5 報告書の見方 2

第2章 要介護認定者調査

- 1 本人や家族の状況について 3
- 2 介護サービスの利用について 4
- 3 介護保険制度や保険料、利用料について 7
- 4 介護保険以外の高齢者在宅サービスなどについて 9
- 5 高齢者施策全般について 10

第3章 在宅介護実態調査

- 1 主な介護者の状況について 11
- 2 家族介護の状況について 13
- 3 主な介護者等の就労について 15
- 4 主な介護者の困りごと、介護者への支援などについて 17

第4章 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

- 1 本人や家族の状況について 19
- 2 からだを動かすことについて 21
- 3 食べることについて 22
- 4 毎日の生活について 23
- 5 地域での活動について 25
- 6 たすけあいについて 26
- 7 健康について 27
- 8 介護予防について 28
- 9 介護保険制度について 29
- 10 今後の暮らし方などについて 29
- 11 高齢者施策全般について 30
- 12 リスク項目該当者の判定結果 31

第5章 居宅介護支援事業所調査

- 1 事業所の概要について ……34
- 2 事業所運営における課題等について ……35
- 3 ケアマネジメントについて ……37
- 4 利用者の状況及び区の介護・福祉サービスについて ……40
- 5 災害対策について ……42
- 6 区に対する要望について ……43

第6章 サービス提供事業所調査

- 1 事業所の概要について ……44
- 2 人材確保や雇用管理について ……45
- 3 事業所運営の状況・課題等について ……47
- 4 サービス提供及び利用者の状況について ……49
- 5 介護サービス以外のことについて ……50
- 6 災害対策について ……51
- 7 区に対する要望について ……52

第7章 高齢者の生活に関する調査

- 1 本人や家族の状況について ……53
- 2 新型コロナウイルス感染症による影響について ……55
- 3 近隣や知人・友人との付き合いについて ……56
- 4 日常生活上で困っていることや不安について ……57
- 5 健康状態や在宅での療養などについて ……58
- 6 権利擁護について ……59
- 7 生きがい、社会参加について ……60
- 8 就労意向について ……61
- 9 デジタル技術の活用について ……62
- 10 地域での見守りや支え合いについて ……63
- 11 目黒区の高齢者への生活支援サービスについて ……63
- 12 家族介護について ……64
- 13 災害時の対応について ……65
- 14 高齢者施策全般について ……65

第1章 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、以下の目的で実施した。

(1) 第9期介護保険事業計画基礎調査

介護保険被保険者及び介護サービス事業者等に対して実態調査を行い、介護保険制度や介護保険料に対する区民の意向及び地域の実情等を把握し、第9期介護保険事業計画策定のための資料とする。

(2) 高齢者の生活に関する調査

高齢者の生活の実情や意向を把握し、保健医療福祉計画改定、第9期介護保険事業計画策定及び高齢者施策充実のための基礎資料とする。

2 調査の種類と対象者

調査は以下の6種類で実施した。

調査種別	調査対象	抽出方法	標本数
① 要介護認定者調査	要介護1～5の第1号・第2号被保険者（施設等への入居者は除く）	層化無作為抽出	2,500人
② 在宅介護実態調査	調査種別①の配布対象者を介護している家族等	調査①に同封	2,500人
③ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	区内在住の要支援2以下の第1号被保険者（要介護認定を受けていない被保険者を含む）	層化無作為抽出	4,000人
④ 居宅介護支援事業所調査	目黒区被保険者5人以上のケアプランを作成している区内居宅介護支援事業者	全事業所	66事業所
⑤ サービス提供事業所調査	目黒区被保険者5人以上に介護サービスを提供している区内事業者（みなし指定事業者を除く）	全事業所	221事業所
⑥ 高齢者の生活に関する調査	区内在住の65歳以上の高齢者（施設等への入居者は除く）	層化無作為抽出	3,000人

3 調査の方法等

(1) 調査の方法

郵送による調査票配布、郵送またはインターネットによる回収（無記名式）

(2) 調査期間

令和4年10月19日（水）から令和4年11月22日（火）まで

4 回収状況

調査種別	対象者数	配布数	有効回収数	有効回収率
①要介護認定者調査	6,335	2,500	1,398 (うちインターネット92)	55.9%
②在宅介護実態調査	6,335	2,500	1,018 (うちインターネット82)	40.7%
③介護予防・日常生活圏域二ーズ調査	46,433	4,000	2,681 (うちインターネット201)	67.0%
④居宅介護支援事業所調査	66	66	53 (うちインターネット22)	80.3%
⑤サービス提供事業所調査	221	221	152 (うちインターネット65)	68.8%
⑥高齢者の生活に関する調査	52,495	3,000	2,001 (うちインターネット177)	66.7%

※②在宅介護実態調査は、家族介護者の有無にかかわらず配布している。

5 報告書の見方

- ①回答比率（％）は、少数点以下第2位を四捨五入している。このため、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ②回答比率（％）は、その設問の回答者数を基数として算出している。このため、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- ③基数になる実数は設問に対する回答者数である。このため、設問によって異なる場合があり、同じ調査であっても実数が同じではない場合がある。
- ④各設問において、性別や年代など基本属性に「無回答」があるため、クロス集計の図表については、全体の数値と各項目の数値の合計が一致しないことがある。
- ⑤調査②在宅介護実態調査及び調査③介護予防・日常生活圏域二ーズ調査の性別「その他」においては、回答者の数が少ないため、「無回答」と合わせて集計している。
- ⑥図表中に「-」と表示してあるのは、回答者がいないことを表している。
- ⑦本文や図表中は、表示の都合上調査票の選択肢等の文言を簡略化している場合がある。

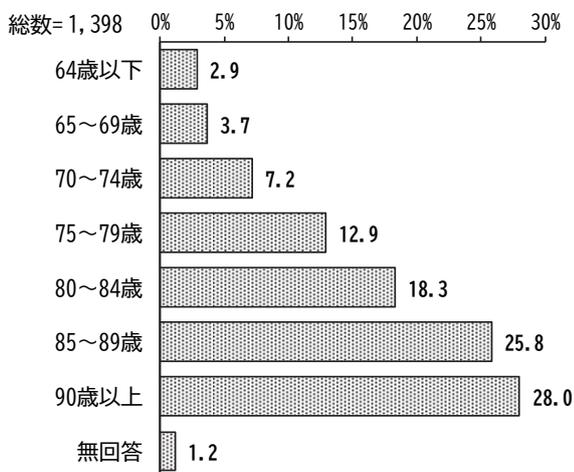
第2章 要介護認定者調査

1 本人や家族の状況について

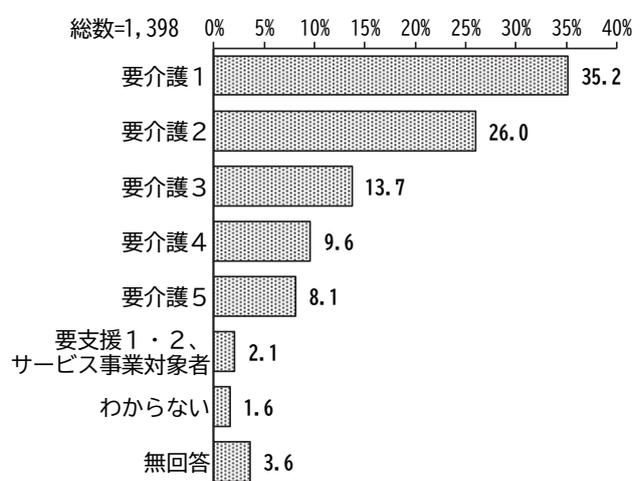
◆年齢、性別、要介護度

- 年齢は、「90歳以上」28.0%、「85～89歳」25.8%、「80～84歳」18.3%
 全体では、前期高齢者（74歳以下）10.9%、後期高齢者（75歳以上）85.0%
 ○性別は、「女性」63.1%、「男性」35.9%
 ○要介護度は、「要介護1」35.2%、「要介護2」26.0%、「要介護3」13.7%

図表2-1 年齢



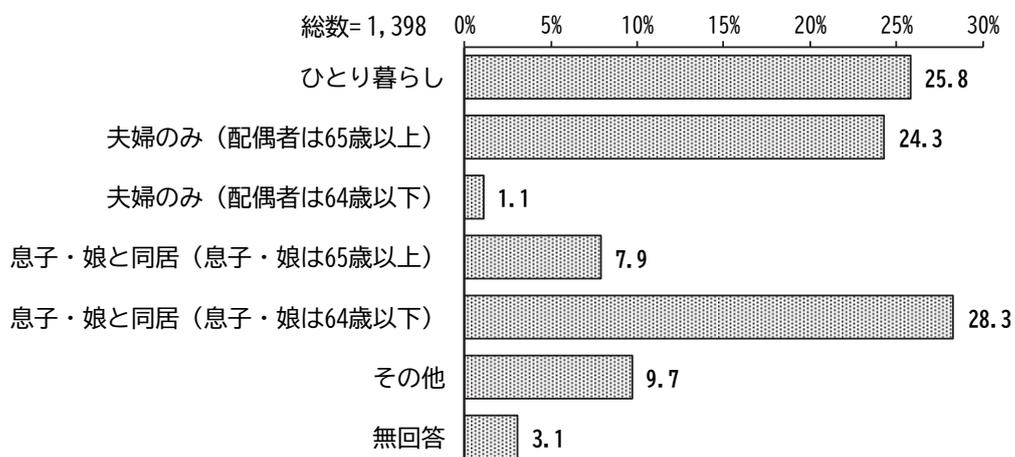
図表2-2 要介護度



◆家族構成

- 家族構成は、「息子・娘と同居（息子・娘は64歳以下）」28.3%、「ひとり暮らし」25.8%、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）」24.3%となっている。

図表2-3 家族構成

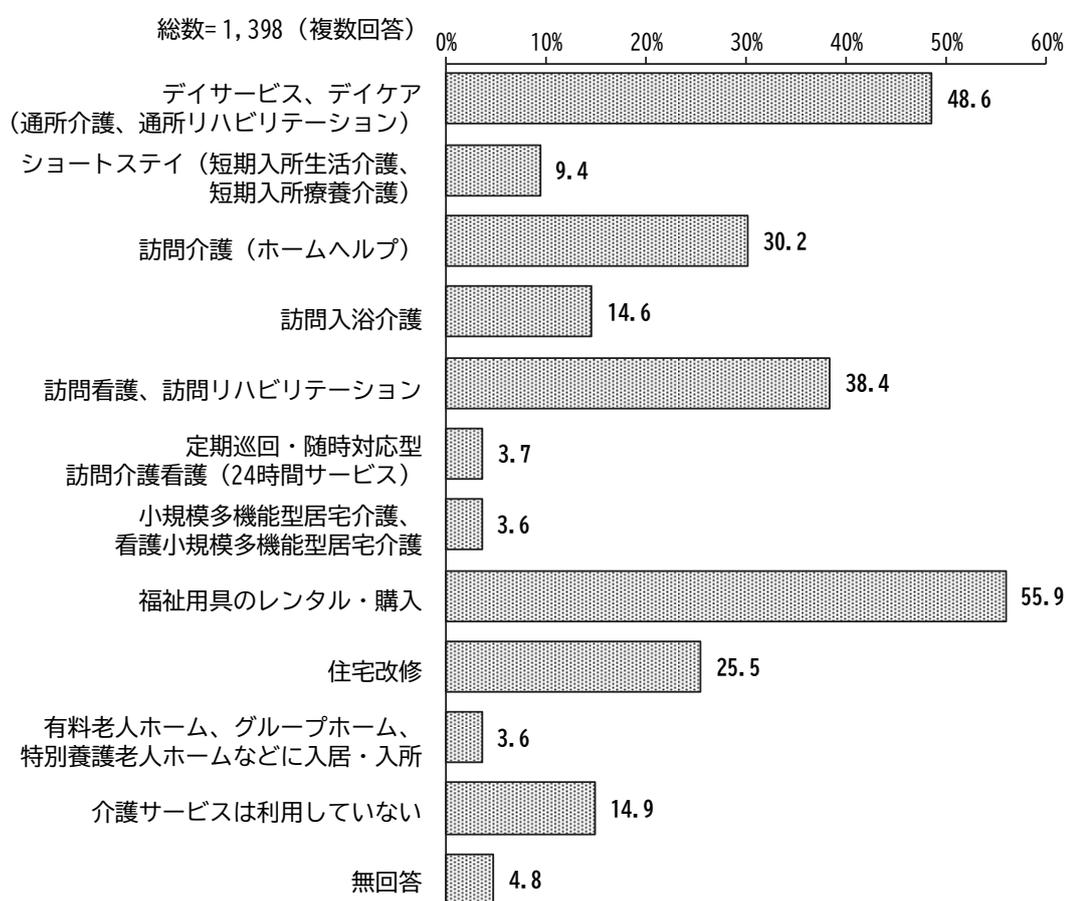


2 介護サービスの利用について

◆介護サービスの利用状況、利用していない理由

- 現在利用している介護サービスは、「福祉用具のレンタル・購入」55.9%、「デイサービス、デイケア（通所介護、通所リハビリテーション）」48.6%、「訪問看護、訪問リハビリテーション」38.4%となっている。
- 介護サービスを利用していない理由は、「介護サービスを利用するほどの状態ではない」48.8%、「家族などの介護を受けている」33.0%、「他人の世話にはなりたくない、他人が家に入ることに抵抗がある」17.2%となっている。

図表2-4 介護サービスの現在の利用状況



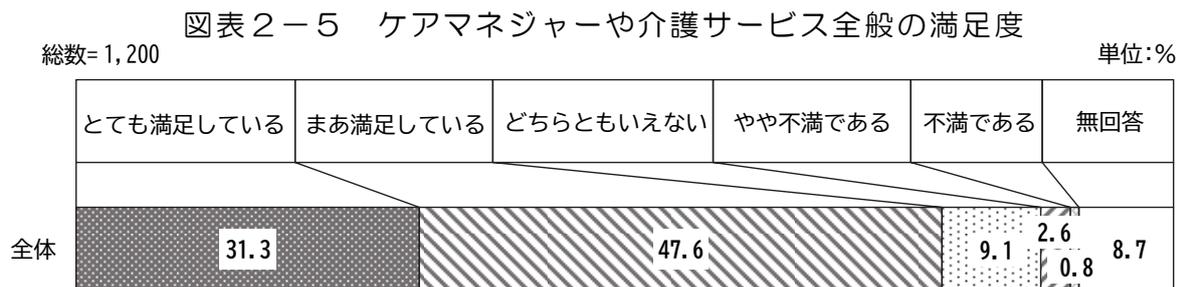
◆新型コロナウイルス感染症の影響

- 新型コロナウイルス感染症の感染への懸念による介護サービス利用への影響は、「以前と変わらずに利用している」69.8%、「介護サービスの利用を控えたが、今は利用を再開している」6.8%、「介護サービスの利用を中断している」2.1%となっている。

◆ケアマネジャーや介護サービス全般の満足度

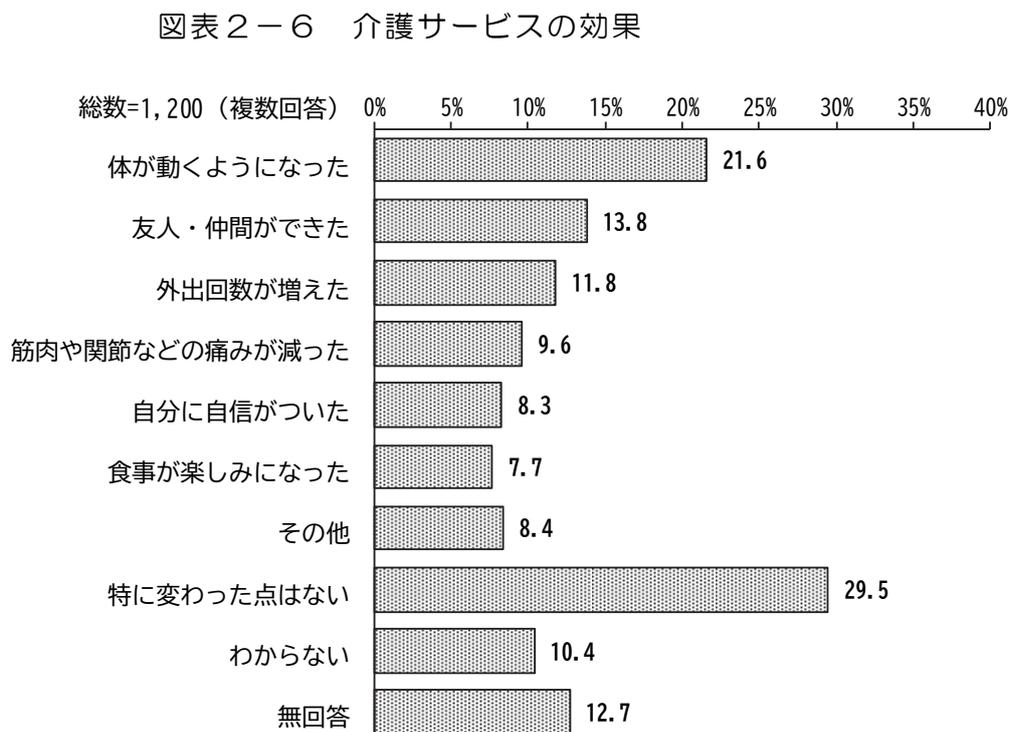
○ケアマネジャーや利用している介護サービス全般についての満足度は、「まあ満足している」47.6%、「とても満足している」31.3%、「どちらともいえない」9.1%となっている。

○ケアマネジャーや利用している介護サービスに対する不満の理由は、「サービス内容が希望に沿っていない」43.9%、「サービス内容についての説明がわかりにくい、きちんと説明してもらえない」36.6%、「担当者の対応がよくない（言動が乱暴、対応が雑など）」24.4%となっている。



◆介護サービスの効果

○介護サービスの利用による生活環境や身体状況への変化は、「特に変わった点はない」29.5%、「体が動くようになった」21.6%、「友人・仲間ができた」13.8%となっている。



◆介護サービスの今後の利用意向

- 今後の介護サービスの利用は、「いま使っている介護サービスを引き続き利用したい」66.3%、「いま使っている介護サービスの回数や日数を増やしたい」6.4%、「介護サービスの利用を開始・再開したい（現在利用していない方）」3.1%となっている。
- 介護サービスの内容を変更したい、または介護サービスの利用を開始・再開したいと回答した人が今後利用したいサービスは、「有料老人ホーム、グループホーム、特別養護老人ホームなどに入居・入所」32.9%、「デイサービス、デイケア（通所介護、通所リハビリテーション）」31.4%、「訪問看護、訪問リハビリテーション」25.7%となっている。
- 施設等へ入所・入居したいと回答した方の施設等への入居・入所の申込状況は、「申し込みを検討している」52.2%、「すでに申し込みをしている」26.1%、「いまは申し込みまない」21.7%となっている。

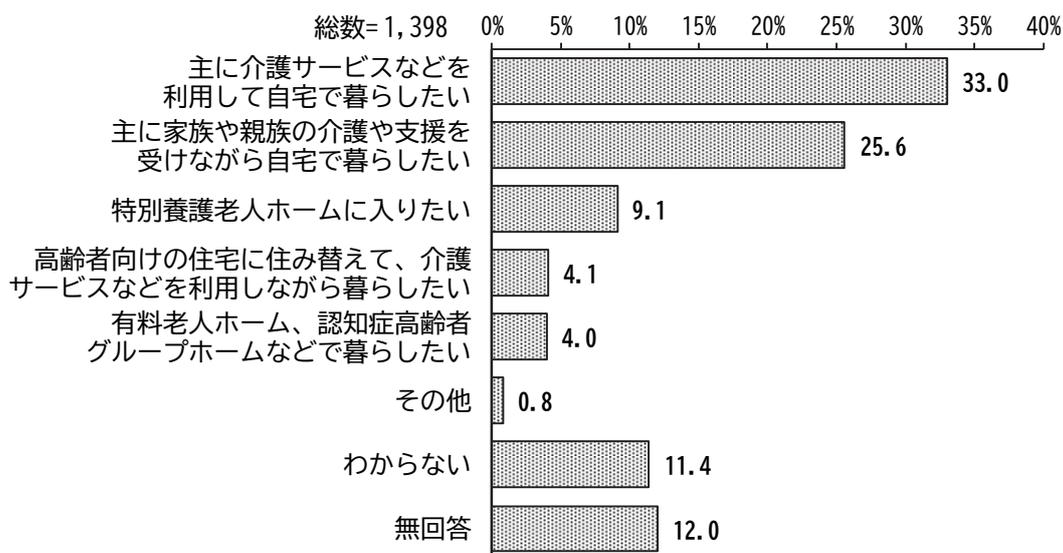
◆要介護状態の改善や重度化防止のために実施していること

- 要介護状態の改善や重度化防止のために実践していることは、「できるだけ体を動かす、体操をする」54.1%、「バランスのとれた食事をとる」47.8%、「規則正しい生活を送る」43.8%となっている。

◆今後の暮らし方

- 要介護度が重くなった場合に希望する暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」33.0%、「主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい」25.6%、「わからない」11.4%となっている。

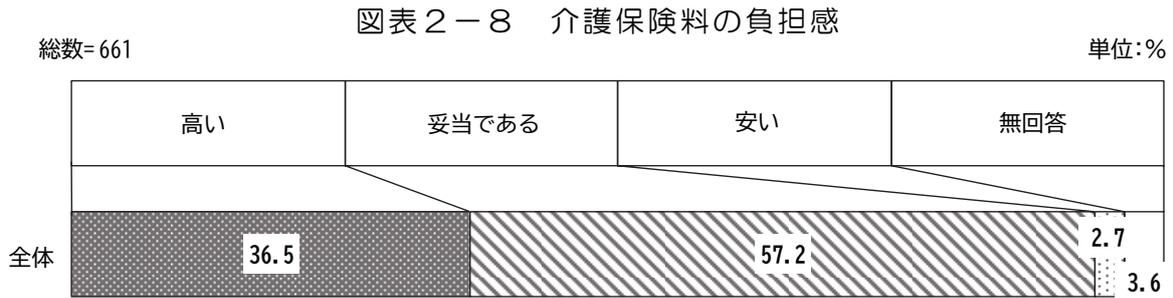
図表2-7 要介護度が重くなった場合に希望する暮らし方



3 介護保険制度や保険料、利用料について

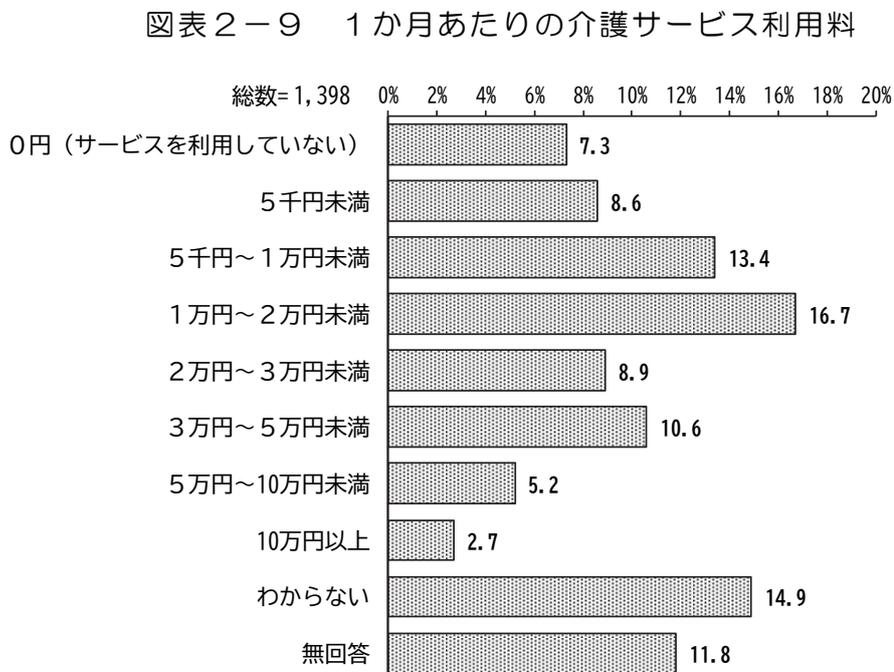
◆介護保険料の把握状況、介護保険料の負担感

○自身が負担する介護保険料の金額は、「把握している」47.3%、「把握していない」43.7%となっている。
 ○介護保険料についての考えは、「妥当である」57.2%、「高い」36.5%、「安い」2.7%となっている。



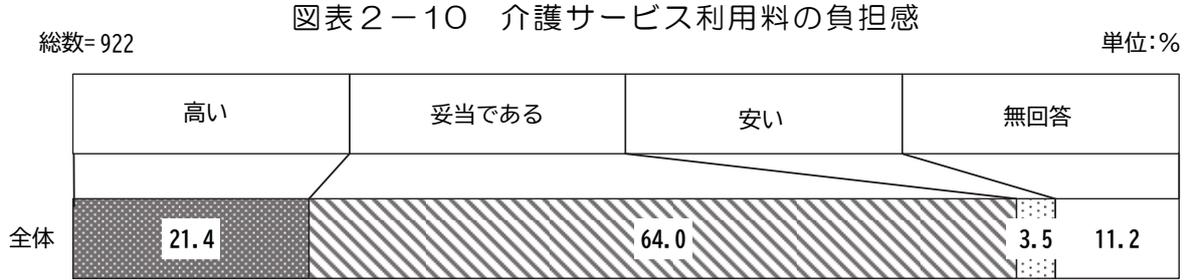
◆1か月あたりの介護サービス利用料

○1か月あたりの介護サービス利用料は、「1万円～2万円未満」16.7%、「5千円～1万円未満」13.4%、「3万円～5万円未満」10.6%となっている。



◆介護サービス利用料の負担感

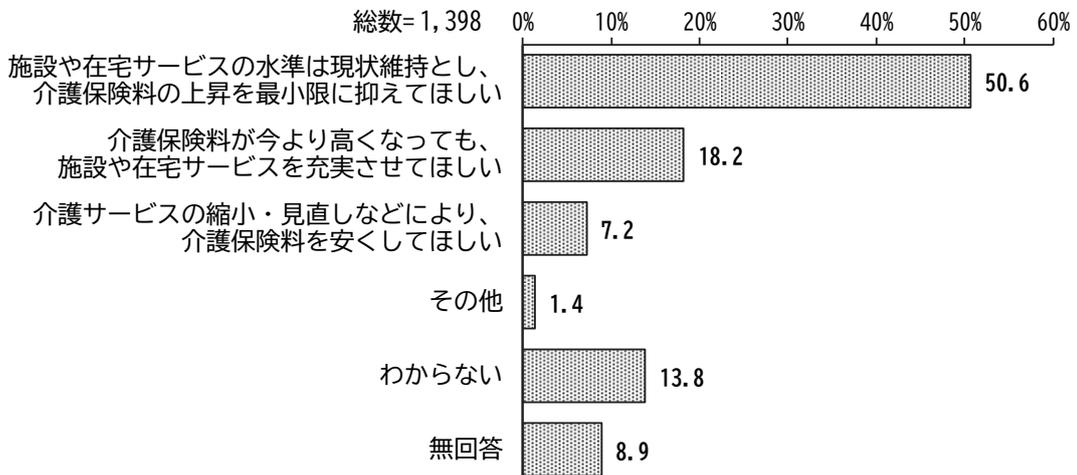
○介護サービス利用料の負担感は、「妥当である」64.0%、「高い」21.4%、「安い」3.5%となっている。



◆介護サービスと介護保険料の関係についての考え

○介護サービスと介護保険料の関係についての考えは、「施設や在宅サービスの水準は現状維持とし、介護保険料の上昇を最小限に抑えてほしい」50.6%、「介護保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスを充実させてほしい」18.2%、「わからない」13.8%となっている。

図表 2-11 介護サービスと介護保険料の関係についての考え

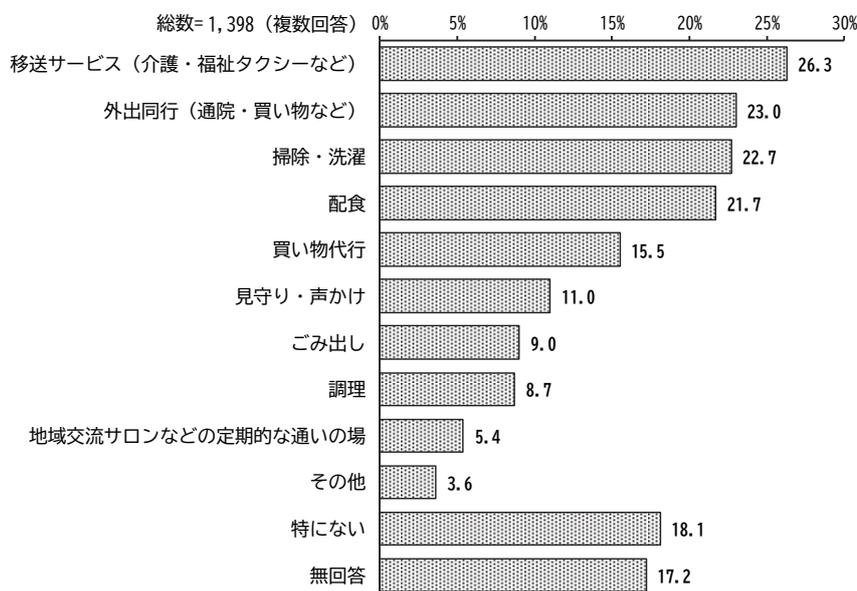


4 介護保険以外の高齢者在宅サービスなどについて

◆自宅での生活を続けるために必要な支援・サービス

- 自宅での生活を続けるために必要な支援・サービスは、「移送サービス（介護・福祉タクシーなど）」26.3%、「外出同行（通院・買い物など）」23.0%、「掃除・洗濯」22.7%となっている。
- 在宅療養のために必要なサービス・体制は、「医師の往診や訪問診療」55.3%、「訪問介護・訪問入浴介護などの介護サービス」42.1%、「訪問看護による医療的な支援」38.1%となっている。

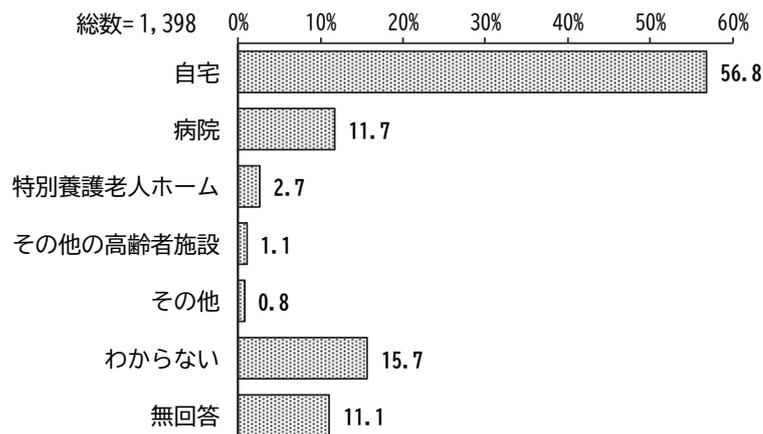
図表2-12 自宅での生活を続けるために必要な支援・サービス



◆人生の最期を迎えたい場所

- 人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」56.8%、「わからない」15.7%、「病院」11.7%となっている。

図表2-13 人生の最期を迎えたい場所



5 高齢者施策全般について

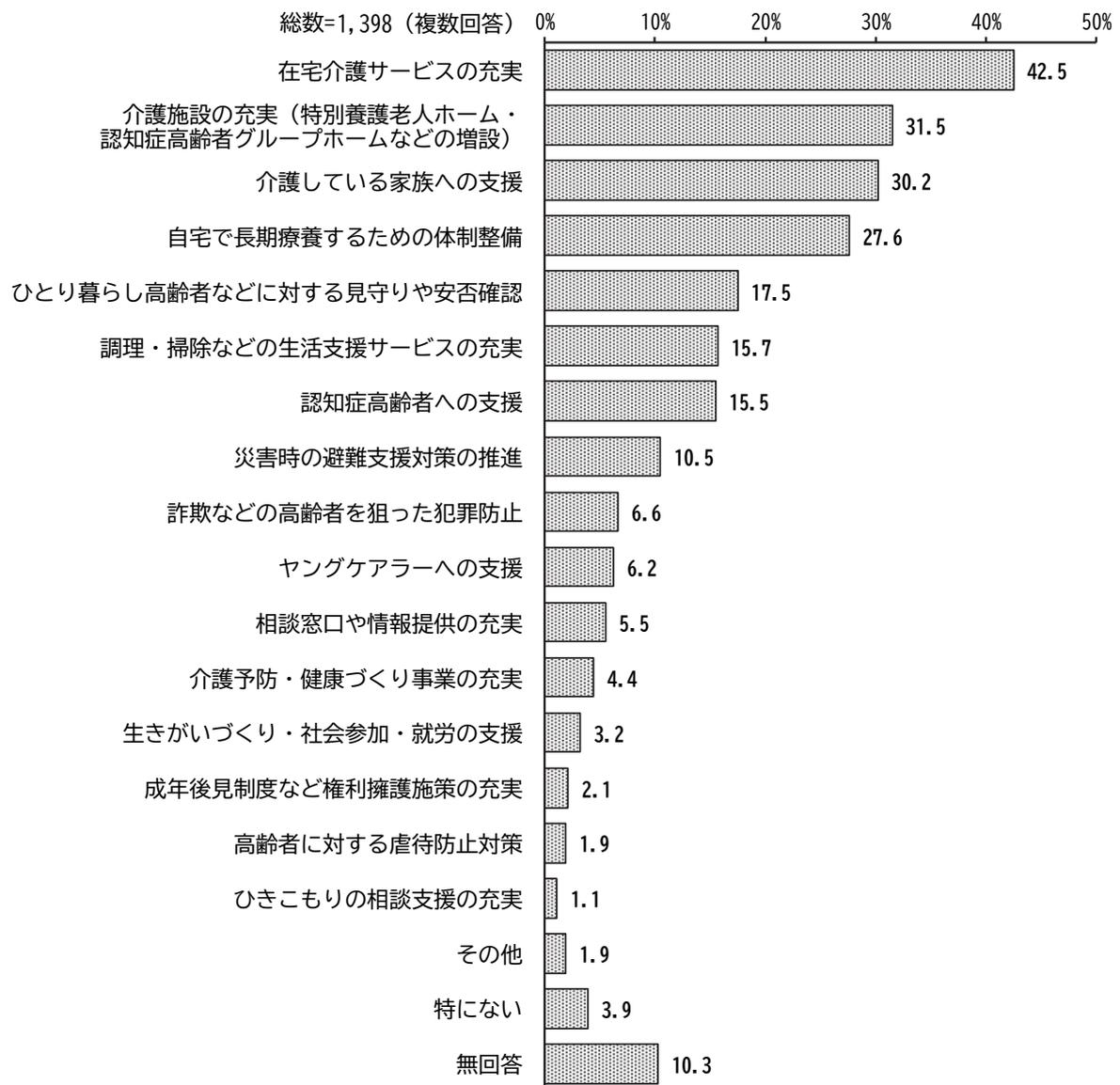
◆災害発生時や事前の備えに必要な支援

○災害発生時や事前の備えに必要な支援は、「避難所までの移動支援」62.8%、「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」57.7%、「安否確認の支援」50.6%となっている。

◆区で優先的に取り組む必要があると思う高齢者施策

○区で優先して取り組む必要があると思う高齢者施策は、「在宅介護サービスの充実」42.5%、「介護施設の充実（特別養護老人ホーム・認知症高齢者グループホームなどの増設）」31.5%、「介護している家族への支援」30.2%となっている。

図表 2-14 優先的に取り組む必要がある高齢者施策

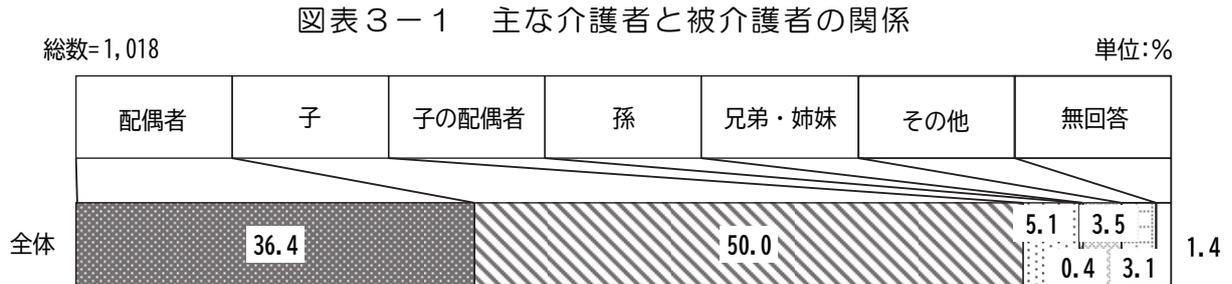


第3章 在宅介護実態調査

1 主な介護者の状況について

◆主な介護者と被介護者の関係

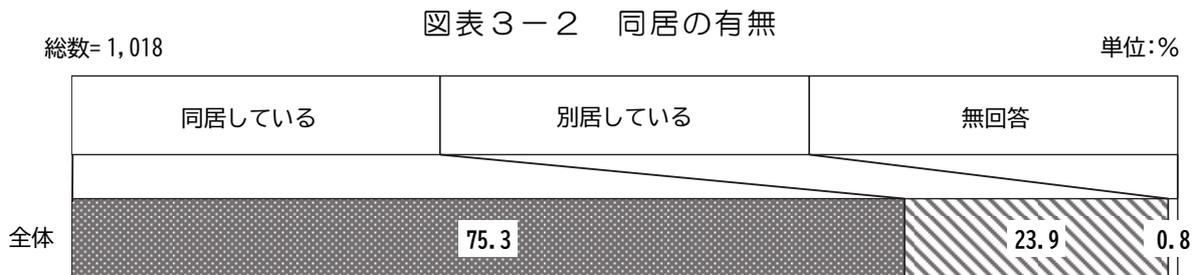
○調査①の対象者を主に介護している方(主な介護者)は、「子」50.0%、「配偶者」36.4%、「子の配偶者」5.1%となっている。



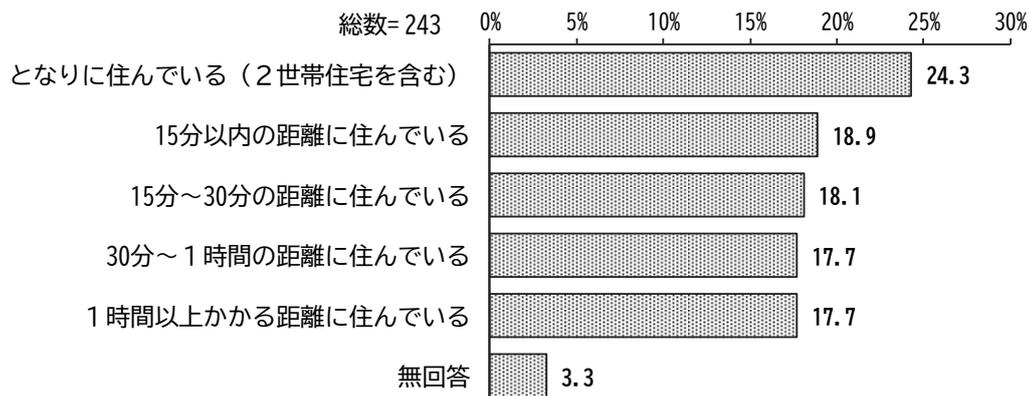
◆被介護者との同居の有無、別居している場合の距離

○主な介護者は被介護者と「同居している」75.3%、「別居している」23.9%となっている。

○別居している場合の主な介護者と被介護者との距離は、「となりに住んでいる(2世帯住宅を含む)」24.3%、「15分以内の距離に住んでいる」18.9%、「15分~30分の距離に住んでいる」18.1%となっている。



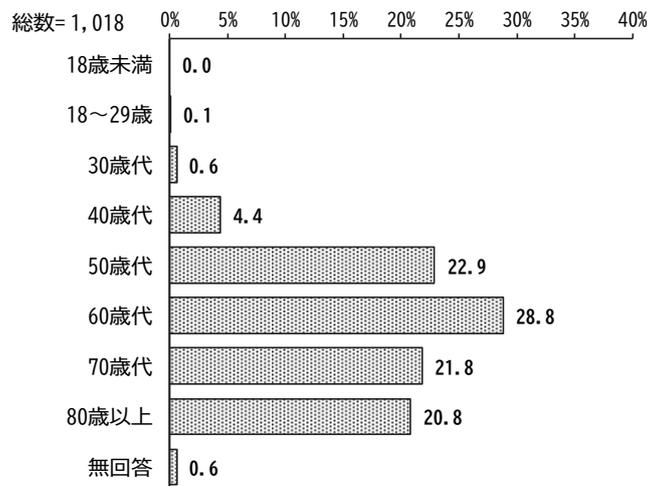
図表3-3 主な介護者と被介護者との距離



◆主な介護者の年齢、性別、被介護者の年齢階級

- 主な介護者の年齢は、「60歳代」28.8%、「50歳代」22.9%、「70歳代」21.8%、「80歳以上」20.8%
- 主な介護者の性別は、「女性」65.9%、「男性」33.0%
- 主な介護者が介護している被介護者の年齢階級の割合が最も高いのは、「50歳代」の介護者では「85～89歳」41.6%、「60歳代」の介護者では「90歳以上」52.6%、「70歳代」の介護者では「75～79歳」30.2%、「80歳以上」の介護者では「85～89歳」32.5%となっている。

図表3-4 主な介護者の年齢



図表3-5 被介護者の年齢階級（主な介護者の年代別）

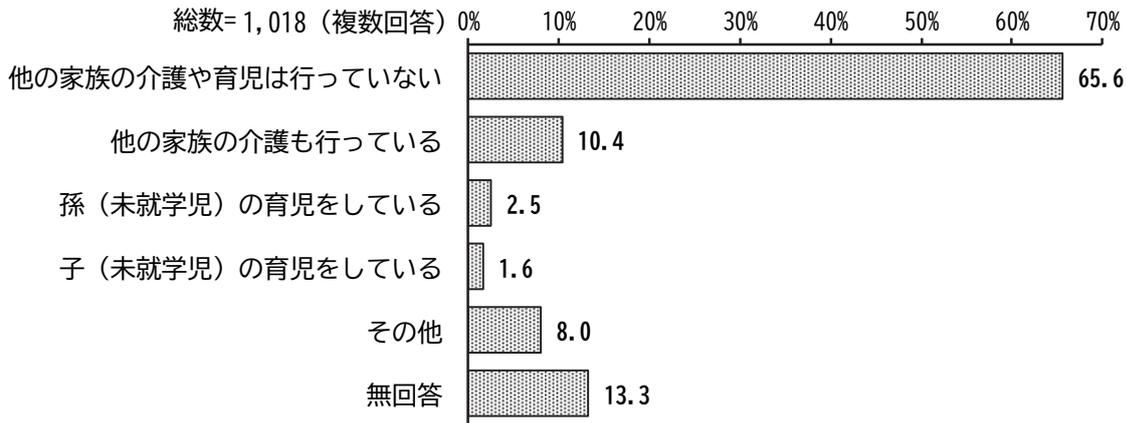
（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	被介護者の年齢階級								
		64歳以下	65 69歳	70 74歳	75 79歳	80 84歳	85 89歳	90歳以上	無回答	
全体	1,018 100.0	30 2.9	31 3.0	66 6.5	106 10.4	165 16.2	261 25.6	298 29.3	61 6.0	
主な介護者の年代	18歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	
	18~29歳	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0	
	30歳代	6 100.0	-	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	
	40歳代	45 100.0	3 6.7	1 2.2	5 11.1	10 22.2	13 28.9	5 11.1	3 6.7	
	50歳代	233 100.0	10 4.3	3 1.3	-	12 5.2	54 23.2	97 41.6	44 18.9	13 5.6
	60歳代	293 100.0	10 3.4	21 7.2	18 6.1	4 1.4	9 3.1	65 22.2	154 52.6	12 4.1
	70歳代	222 100.0	2 0.9	5 2.3	39 17.6	67 30.2	28 12.6	23 10.4	47 21.2	11 5.0
	80歳以上	212 100.0	5 2.4	-	2 0.9	11 5.2	61 28.8	69 32.5	44 20.8	20 9.4
	無回答	6 100.0	-	-	-	1 16.7	-	2 33.3	3 50.0	-

◆育児や他の家族の介護の状況

○主な介護者の育児や他の家族の介護の状況は、「他の家族の介護や育児は行っていない」65.6%、「他の家族の介護も行っている」10.4%、「孫（未就学児）の育児をしている」2.5%となっている。

図表3-6 育児や他の家族の介護の状況

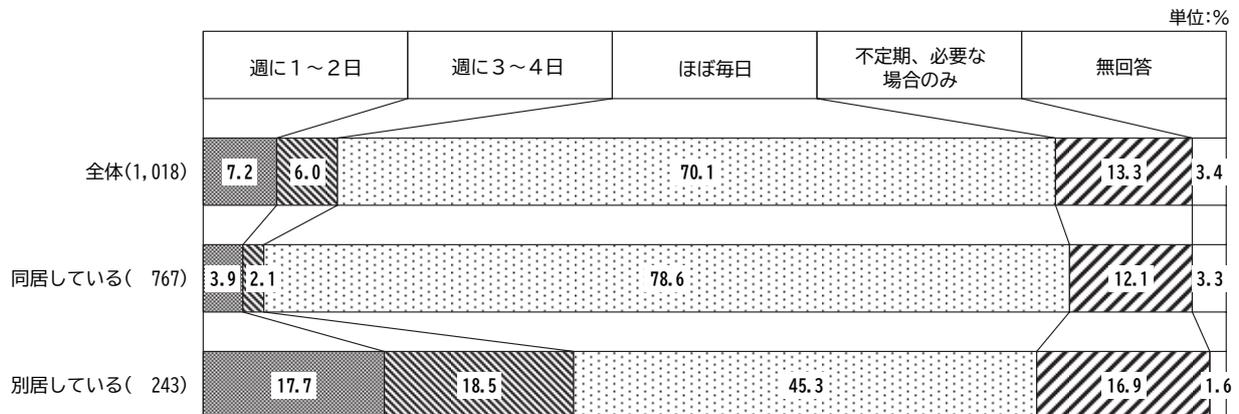


2 家族介護の状況について

◆週あたりの家族介護の日数（同居の有無別）

○調査①の対象者に対する週あたりの介護の日数を同居の有無別にみると、「同居している」では、「ほぼ毎日」78.6%、「不定期、必要な場合のみ」12.1%、「週に1～2日」3.9%。また、「別居している」では、「ほぼ毎日」45.3%、「週に3～4日」18.5%、「週に1～2日」17.7%となっている。

図表3-7 週あたりの家族介護の日数（同居の有無別）



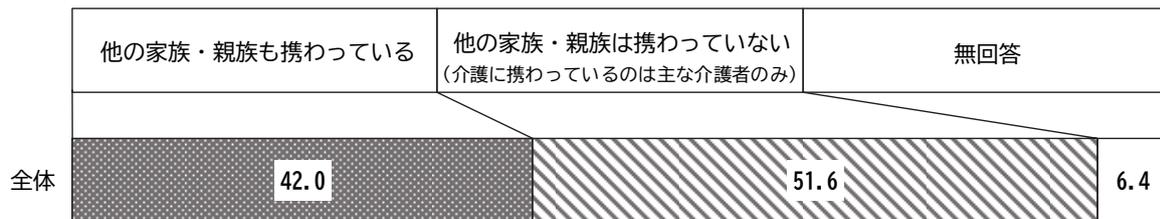
◆主な介護者以外の家族・親族の介護への関わり

- 主な介護者以外の家族・親族の介護への関わりは、「他の家族・親族は携わっていない（介護に携わっているのは主な介護者のみ）」51.6%、「他の家族・親族も携わっている」42.0%となっている。
- 主な介護者以外に介護に携わる家族・親族は、「子」67.5%、「子の配偶者」19.9%、「配偶者」15.0%となっている。

図表3-8 主な介護者以外の家族・親族の介護への関わり

総数=1,018

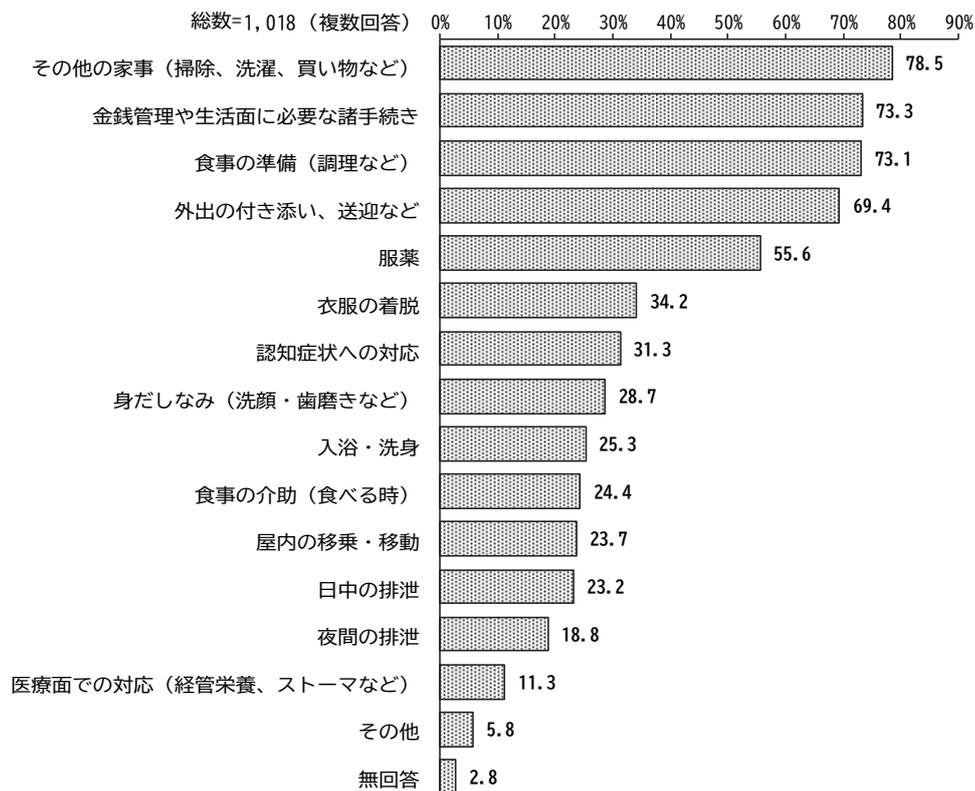
単位:%



◆主な介護者が行っている介護の内容、主な介護者が不安に感じる介護

- 主な介護者が行っている介護の内容は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）」78.5%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」73.3%、「食事の準備（調理など）」73.1%となっている。
- 主な介護者が不安に感じる介護内容は、「認知症状への対応」28.2%、「夜間の排泄」19.8%、「外出の付き添い、送迎など」16.0%となっている。

図表3-9 主な介護者が行っている介護の内容



3 主な介護者等の就労について

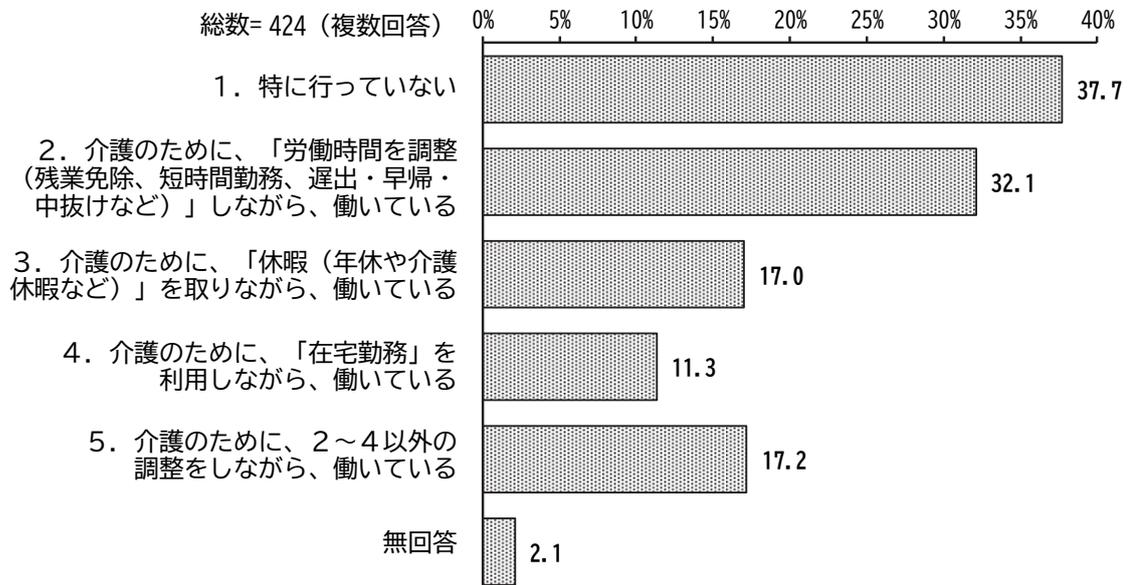
◆主な介護者の就労の状況、働き方の調整の有無

- 主な介護者の勤務形態は、「働いていない」49.6%、「フルタイムで働いている」25.1%、「パートタイムで働いている」16.5%となっている。
- 主な介護者の働き方の調整は、「特に行っていない」37.7%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出、早帰、中抜けなど）」しながら、働いている」32.1%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」17.2%となっている。

図表3-10 主な介護者の勤務形態



図表3-11 主な介護者の働き方の調整の有無



◆主な介護者が働きながら介護を続けていける見込み

○主な介護者が働きながら介護を続けていける見込みは、「問題はあるが、何とか続けていける」56.6%、「問題なく、続けていける」19.3%、「続けていくのは、やや難しい」13.0%となっている。

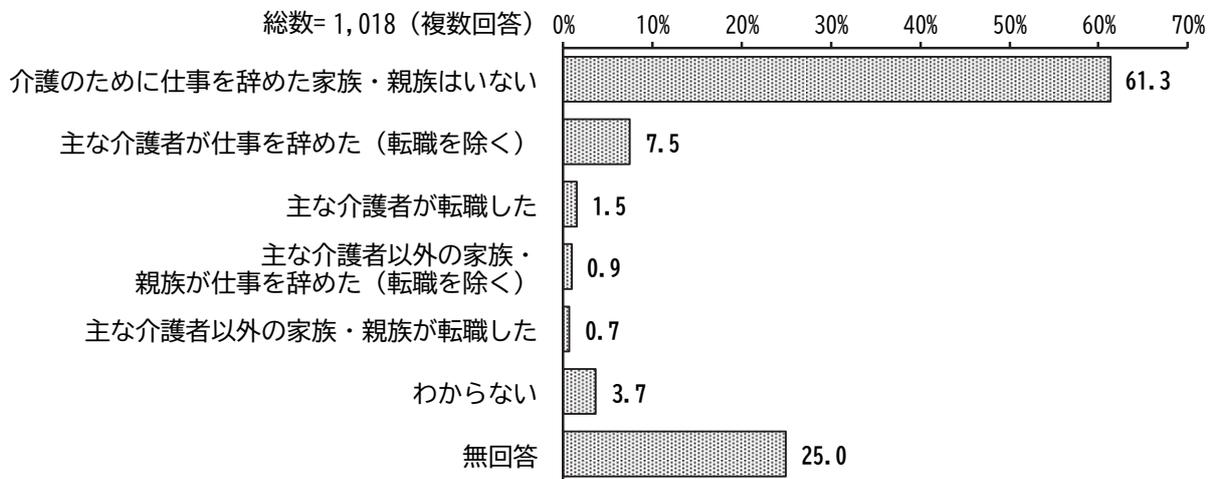
図表3-12 主な介護者が働きながら介護を続けていける見込み
(上段：回答数、下段：構成比)

		全体	問題なく、 続けていける	何とか 問題はあるが、 続けていける	続けていくのは、 やや難しい	続けていくのは、 かなり難しい	無回答
全体		424 100.0	82 19.3	240 56.6	55 13.0	27 6.4	20 4.7
勤務 形態	フルタイムで働いている	256 100.0	51 19.9	152 59.4	25 9.8	18 7.0	10 3.9
	パートタイムで働いている	168 100.0	31 18.5	88 52.4	30 17.9	9 5.4	10 6.0

◆介護離職の状況

○介護を理由とした離職・転職の状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」61.3%、「主な介護者が仕事を辞めた（転職を除く）」7.5%、「主な介護者が転職した」1.5%となっている。

図表3-13 介護を理由とした離職・転職の状況

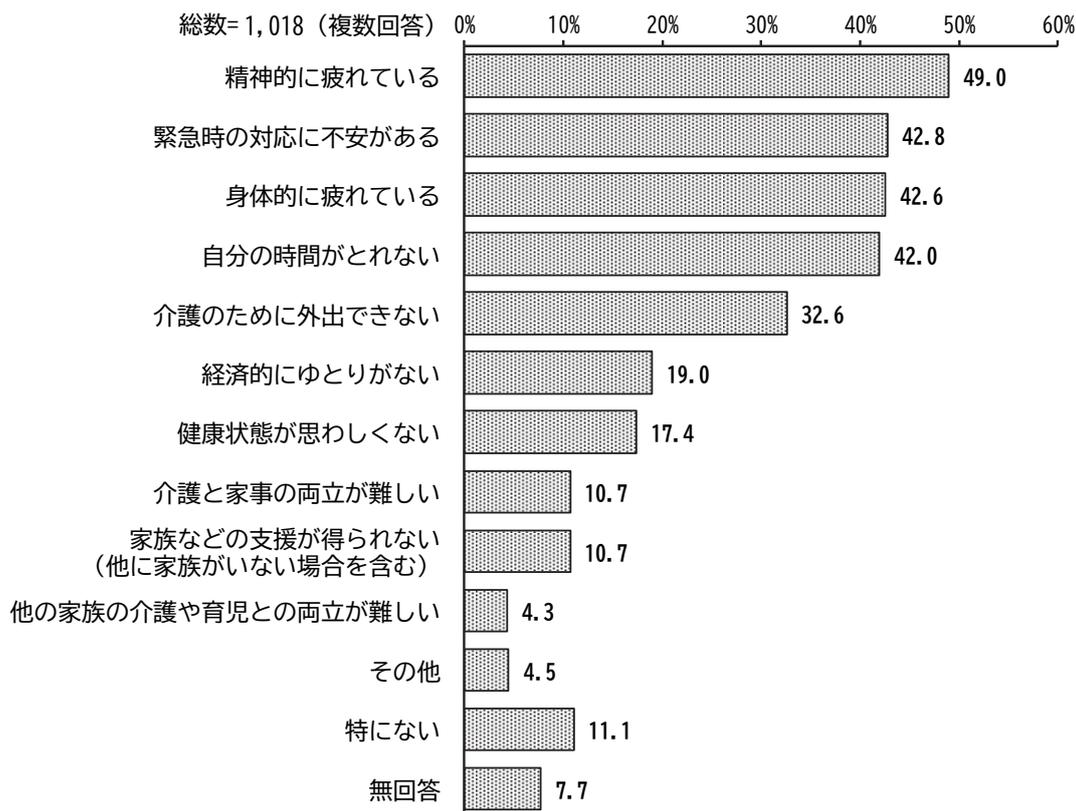


4 主な介護者の困りごと、介護者への支援などについて

◆主な介護者の介護と仕事の両立以外の困りごと

○主な介護者の介護と仕事の両立以外の困りごとは、「精神的に疲れている」49.0%、「緊急時の対応に不安がある」42.8%、「身体的に疲れている」42.6%となっている。

図表3-14 主な介護者の介護と仕事の両立以外の困りごと



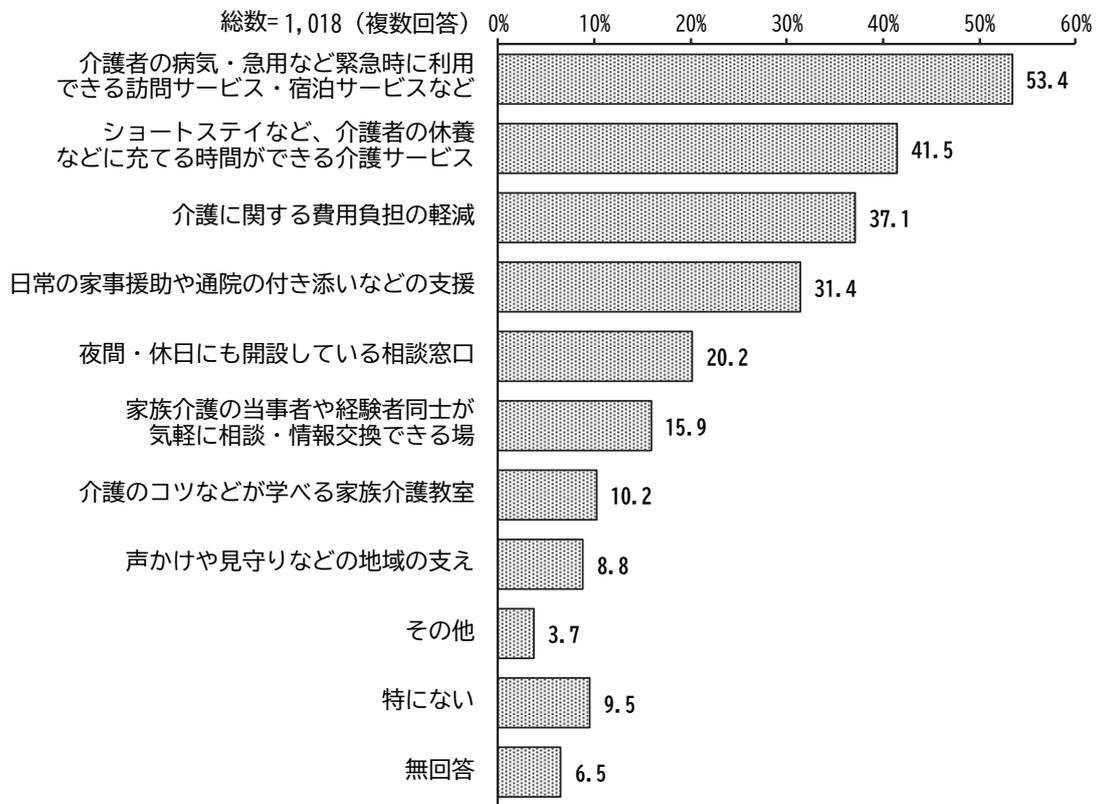
◆主な介護者の相談相手

○主な介護者の相談相手は、「家族・親族」62.2%、「ケアマネジャー」38.1%、「近所の人・友人」28.7%となっている。

◆主な介護者が求める支援

○主な介護者が必要と考えている支援は、「介護者の病気・急用など緊急時に利用できる訪問サービス・宿泊サービスなど」53.4%、「ショートステイなど、介護者の休養などに充てる時間ができる介護サービス」41.5%、「介護に関する費用負担の軽減」37.1%となっている。

図表3-15 主な介護者が求める支援



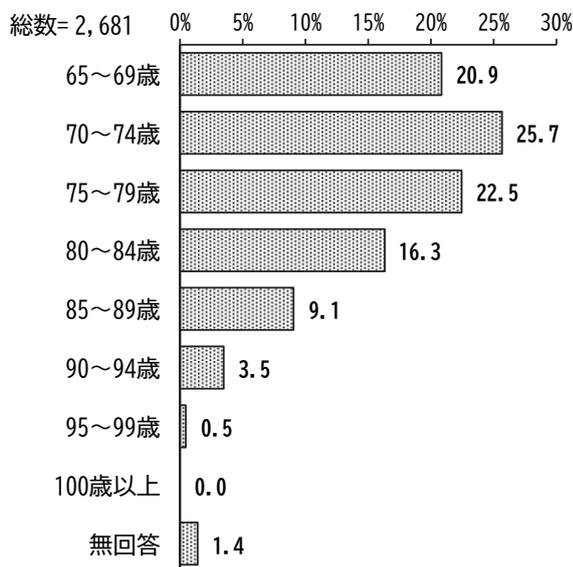
第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 本人や家族の状況について

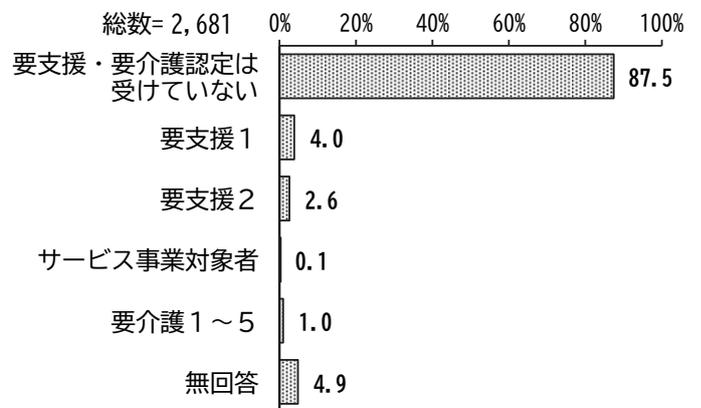
◆年齢、性別、要介護度

- 年齢は、「70～74歳」25.7%、「75～79歳」22.5%、「65～69歳」20.9%
 全体では、前期高齢者46.6%、後期高齢者51.9%
 ○性別は、「女性」57.3%、「男性」41.3%
 ○「要支援・要介護認定は受けていない」87.5%、「要支援1」4.0%、「要支援2」2.6%

図表4-1 年齢



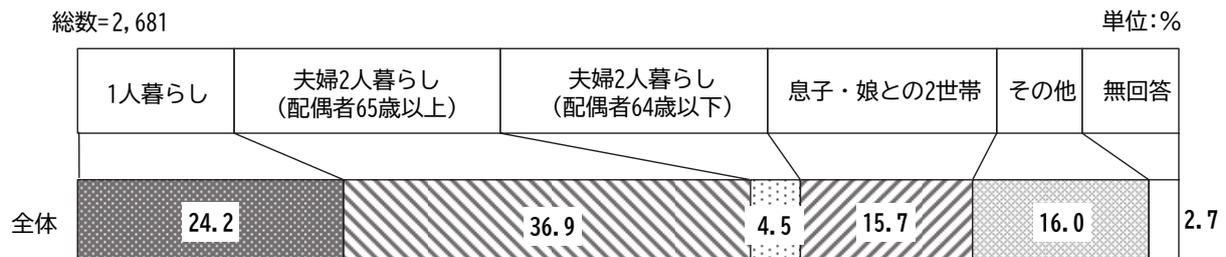
図表4-2 要支援・要介護認定の状況



◆家族構成

- 家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」36.9%、「1人暮らし」24.2%、「息子・娘との2世帯」15.7%となっている。

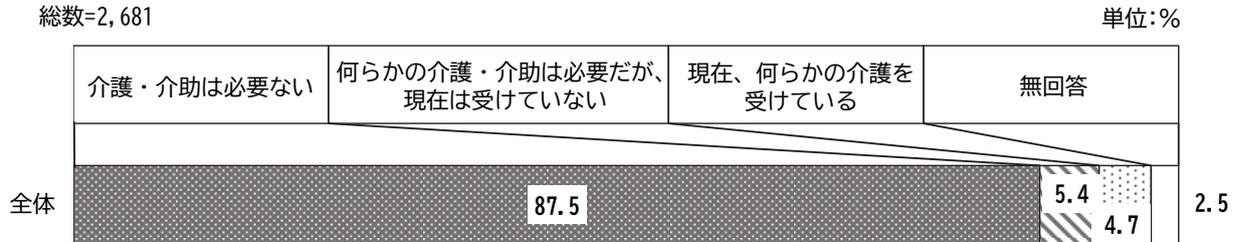
図表4-3 家族構成



◆介護・介助の状況

○介護・介助の状況は、「介護・介助は必要ない」87.5%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」5.4%、「現在、何らかの介護を受けている」4.7%となっている。

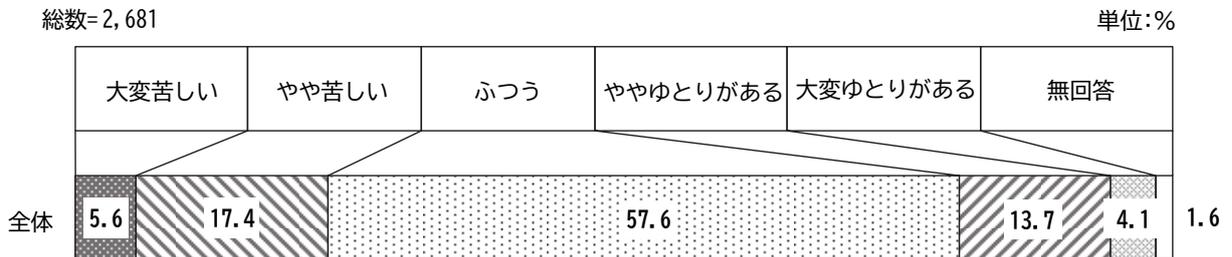
図表4-4 介護・介助の状況



◆経済的に見た暮らしの状況

○経済的に見た暮らしの状況は、「ふつう」57.6%、「やや苦しい」17.4%、「ややゆとりがある」13.7%となっている。

図表4-5 経済的に見た暮らしの状況

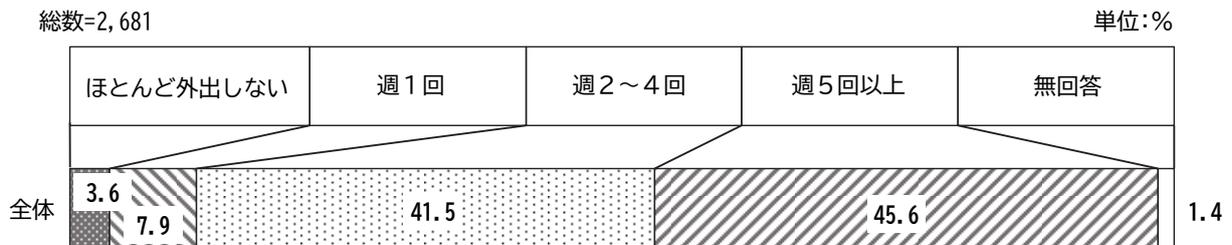


2 からだを動かすことについて

◆外出の状況

○週あたりの外出回数は、「週5回以上」45.6%、「週2～4回」41.5%、「週1回」7.9%、「ほとんど外出しない」3.6%となっている。

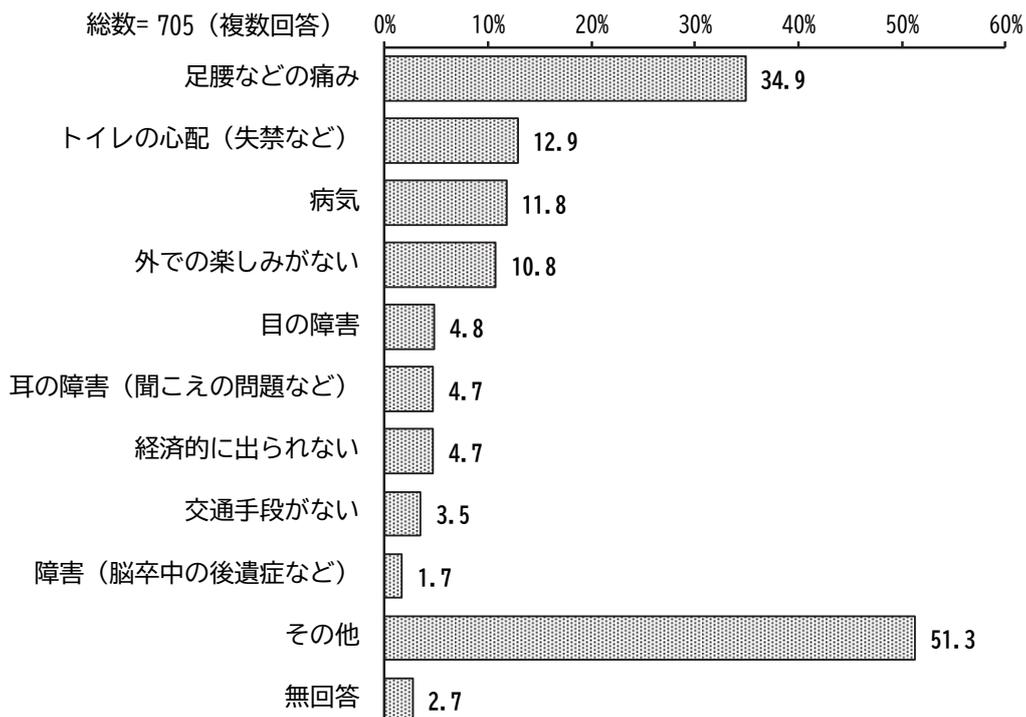
図表4-6 週あたりの外出回数



◆外出を控えているか

○外出を控えているかについては、「いいえ」69.7%、「はい」26.3%となっている。
 ○外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」34.9%、「トイレの心配（失禁など）」12.9%、「病気」11.8%、「外での楽しみがない」10.8%となっている。
 また、「その他」については、新型コロナウイルス感染症の感染予防や感染への不安を理由とする回答が多かった。

図表4-7 外出を控えている理由



3 食べることについて

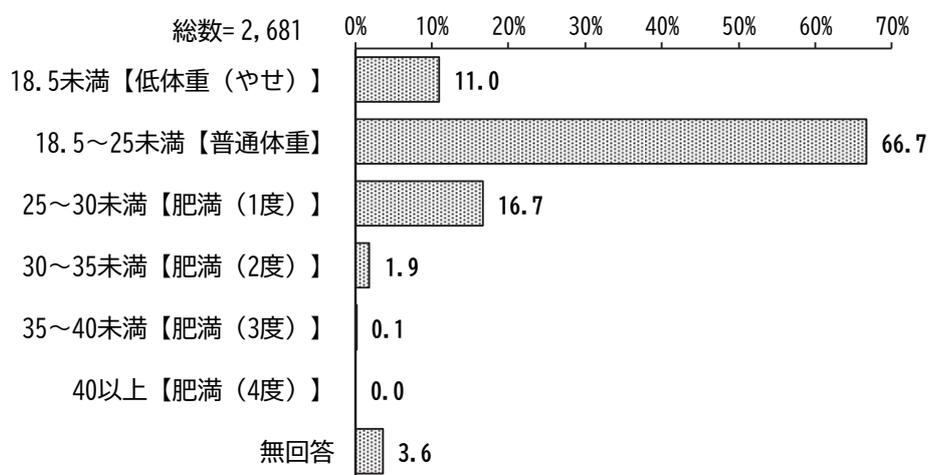
◆やせ・肥満の状況（BMI）

○BMIは、「18.5～25未満【普通体重】」66.7%、「25～30未満【肥満（1度）】」16.7%、「18.5未満【低体重（やせ）】」11.0%となっている。

※BMI = [体重 (kg)] ÷ [身長 (m) の2乗]

○6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無は、「いいえ（なし）」84.6%、「はい（あり）」13.7%となっている。

図表4-8 やせ・肥満の状況（BMI値）

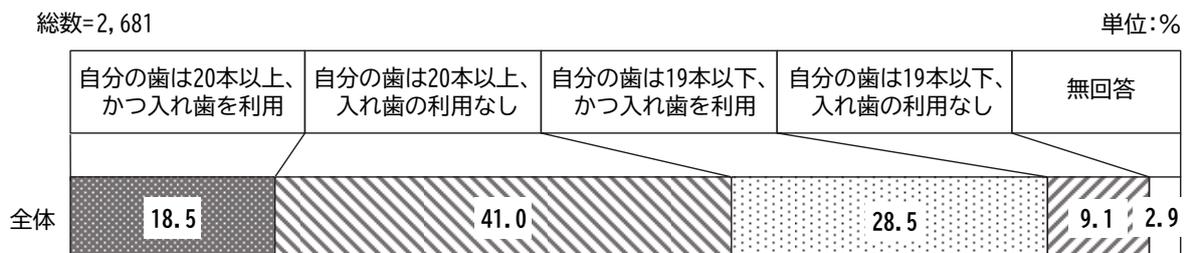


◆歯・口腔の状況

○毎日の歯磨き（人にやってもらう場合も含む）は、「はい（している）」92.5%、「いいえ（していない）」6.0%となっている。

○歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」41.0%、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」28.5%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」18.5%となっている。

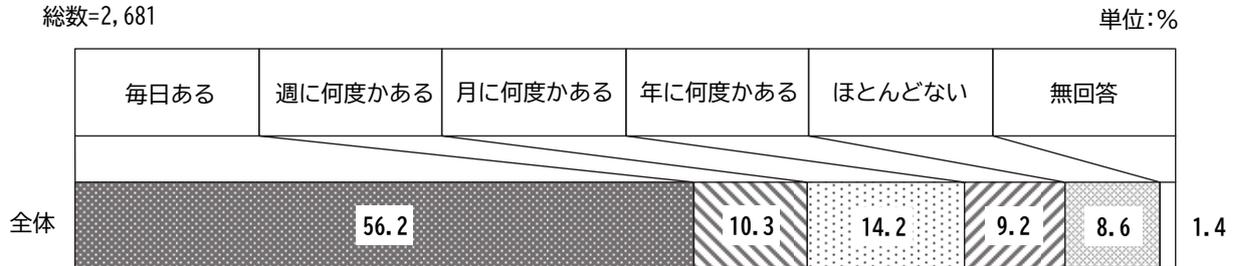
図表4-9 歯の数と入れ歯の利用状況



◆食事の状況

○誰かと食事をとる機会を、「毎日ある」56.2%、「月に何度かある」14.2%、「週に何度かある」10.3%となっている。

図表4-10 誰かと食事をとる機会

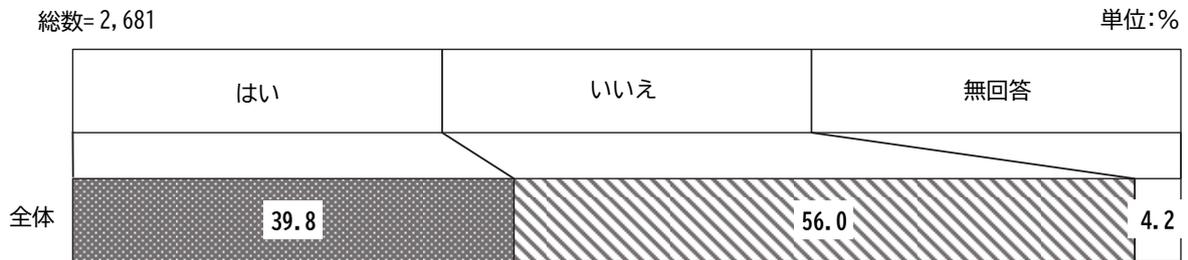


4 毎日の生活について

◆物忘れの状況

○物忘れの多さは、「いいえ（物忘れが多いと感じない）」56.0%、「はい（物忘れが多いと感じる）」39.8%となっている。

図表4-11 物忘れが多いと感じるか



◆日常生活の状況

○自分で食品・日用品の買い物を、「できるし、している」85.8%、「できるけどしていない」7.9%、「できない」2.6%となっている。

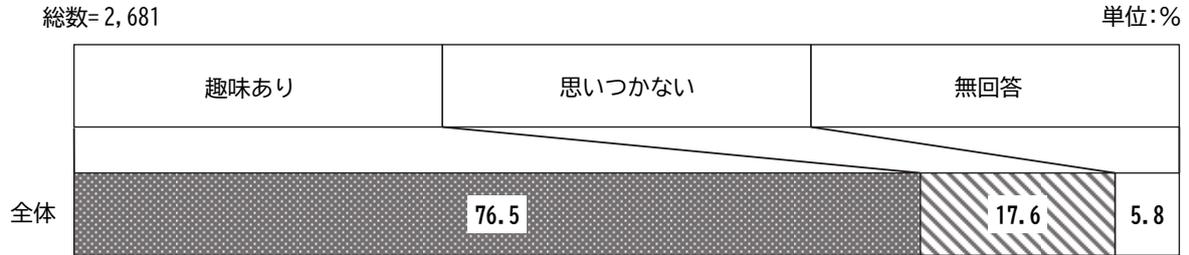
図表4-12 自分で食品・日用品の買い物をしているか



◆趣味、生きがい

○趣味の有無は、「趣味あり」76.5%、「思いつかない」17.6%となっている。
 ○生きがいの有無は、「生きがいあり」64.2%、「思いつかない」27.3%となっている。

図表4-13 趣味はあるか



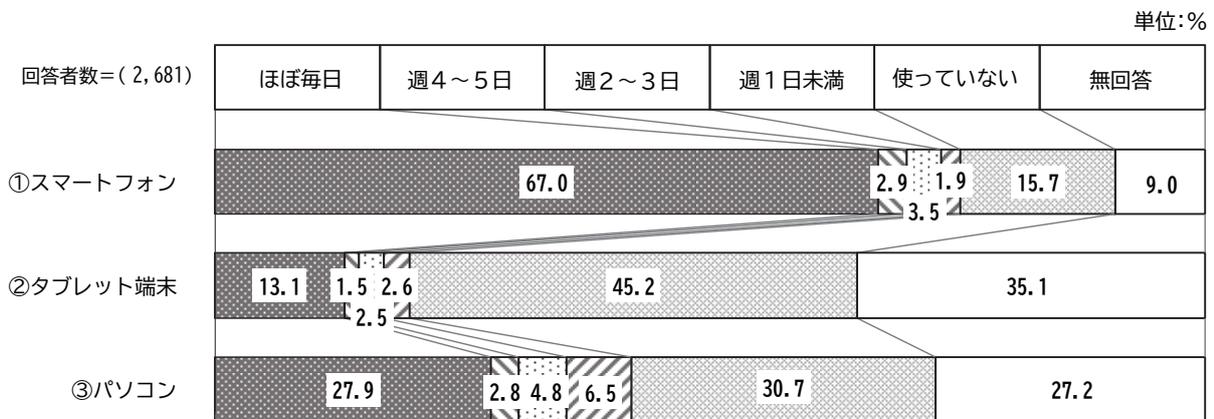
図表4-14 生きがいはあるか



◆スマートフォン・パソコンの使用状況

○スマートフォン・パソコンの使用状況は、「ほぼ毎日」から「週1日未満」を合わせた『使っている』は、①スマートフォン75.3%、②タブレット端末19.7%、③パソコン42.0%となっている。

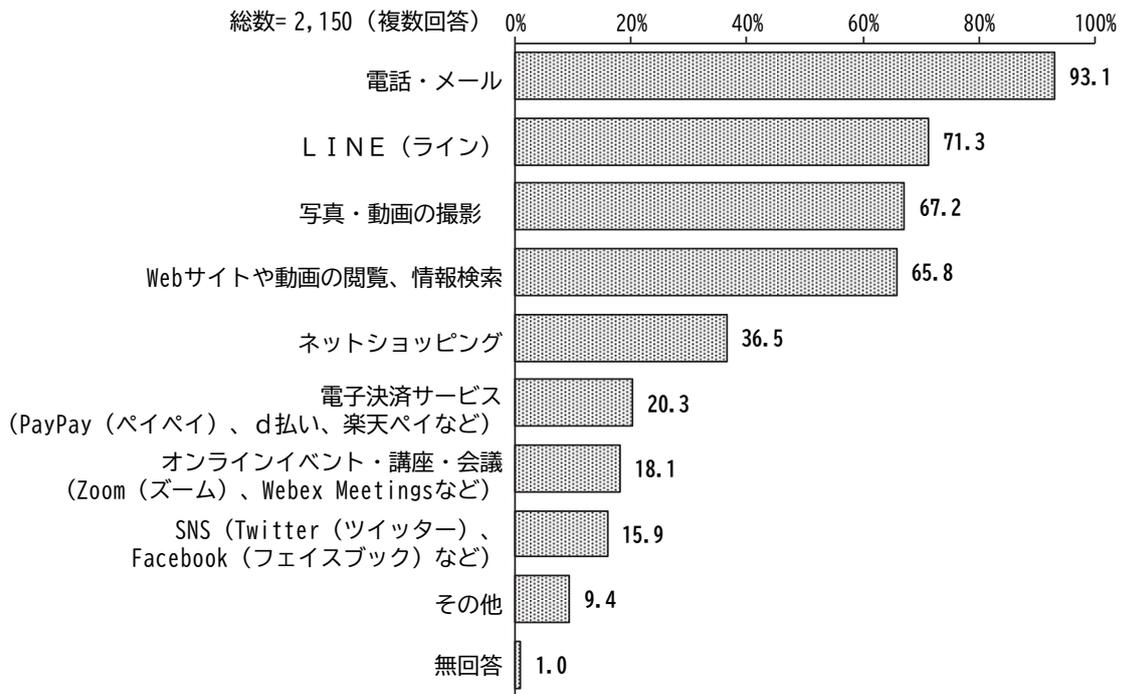
図表4-15 スマートフォン・パソコンの使用状況



◆スマートフォン・パソコンの使い道

○スマートフォン・パソコンの使い道は、「電話・メール」93.1%、「LINE（ライン）」71.3%、「写真・動画の撮影」67.2%、「Webサイトや動画の閲覧、情報検索」65.8%となっている。

図表4-16 スマートフォン・パソコンの使い道



5 地域での活動について

◆地域活動への参加の意向

地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に、
 ○参加者として参加する意向のある人は、「参加してもよい」47.2%、「是非参加したい」5.0%、合わせて52.2%であり、半数以上の方に参加意向がある。
 ○地域活動に企画・運営役として参加する意向のある人は、「参加してもよい」29.0%、「是非参加したい」2.0%、合わせて31.0%であり、参加者としての参加意向を21.2ポイント下回っている。

6 たすけあいについて

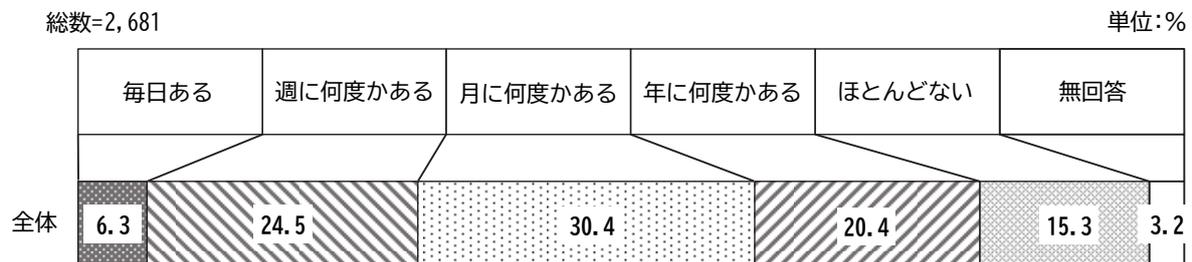
◆困ったときに頼る相手または頼られる相手

- 心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「友人」54.6%、「配偶者」51.5%、「別居の子ども」34.2%となっている。
- 心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」55.7%、「配偶者」49.2%、「別居の子ども」32.9%となっている。
- 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」54.2%、「別居の子ども」28.4%、「同居の子ども」23.9%となっている。
- 看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」55.6%、「別居の子ども」23.0%、「同居の子ども」21.6%となっている。

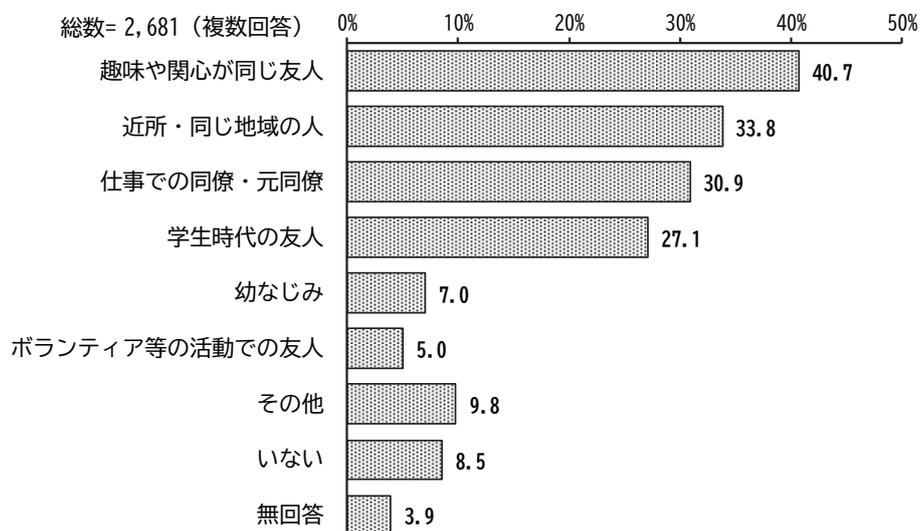
◆友人・知人との交流

- 友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」30.4%、「週に何度かある」24.5%、「年に何度かある」20.4%となっている。
- よく合う友人・知人との関係は、「趣味や関心が同じ友人」40.7%、「近所・同じ地域の人」33.8%、「仕事での同僚・元同僚」30.9%となっている。

図表4-17 友人・知人と会う頻度



図表4-18 よく合う友人・知人との関係



7 健康について

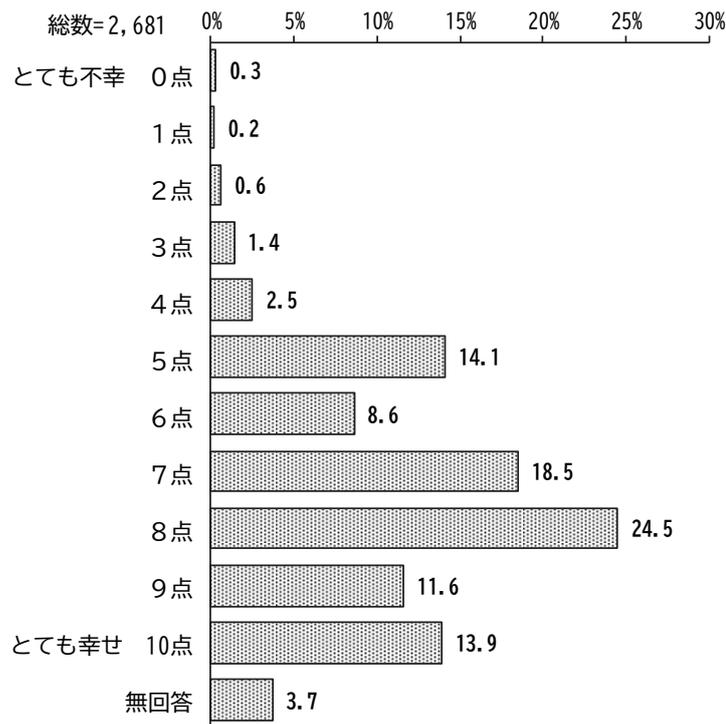
◆現在の健康状態

- 現在の健康状態は、「まあよい」66.6%、「とてもよい」14.1%、「あまりよくない」14.0%となっている。
- 現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」38.9%、「高脂血症（脂質異常）」18.1%、「目の病気」17.9%、「ない」17.0%となっている。

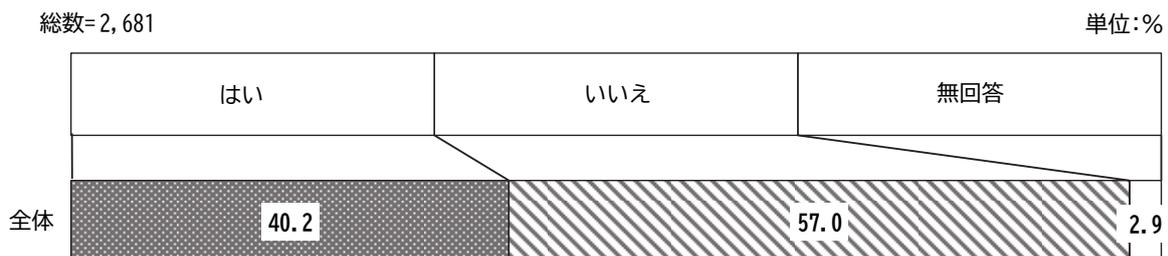
◆幸せの程度、こころの健康状態

- 現在の幸せの程度は、「8点」24.5%、「7点」18.5%、「5点」14.1%となっている。また、中心点を超える「6点」～「10点」と回答した人は77.1%となっている。
- 最近1か月間に気分が沈んだりゆううつな気持ちになったことの有無は、「いいえ（ない）」57.0%、「はい（ある）」40.2%となっている。

図表4-19 現在の幸せの程度



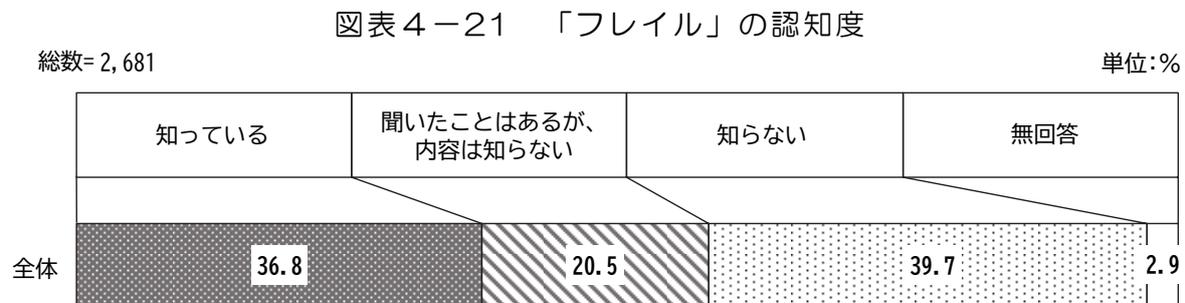
図表4-20 最近1か月間に気分が沈むことがあったか



8 介護予防について

◆「フレイル」の認知度

○「フレイル」について、「知らない」39.7%、「知っている」36.8%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」20.5%となっている。

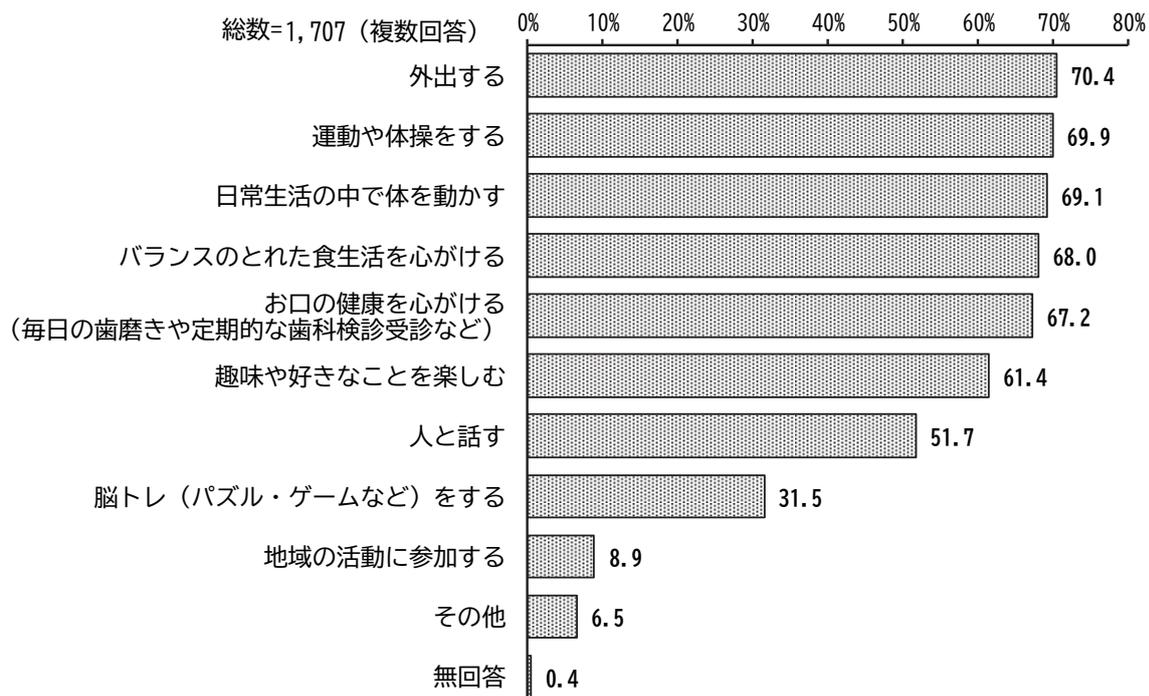


◆加齢による衰え予防のために実践していること

○加齢による身体機能や認知機能の衰えを予防するために実践していることは、「ある」63.7%、「特に気にしていないため、何もしていない」11.4%、「何かしたいと思っているが、何もしていない」11.3%となっている。

○加齢による衰え予防のための実践内容は、「外出する」70.4%、「運動や体操をする」69.9%、「日常生活の中で体を動かす」69.1%となっている。

図表4-22 加齢による衰え予防のための実践内容



9 介護保険制度について

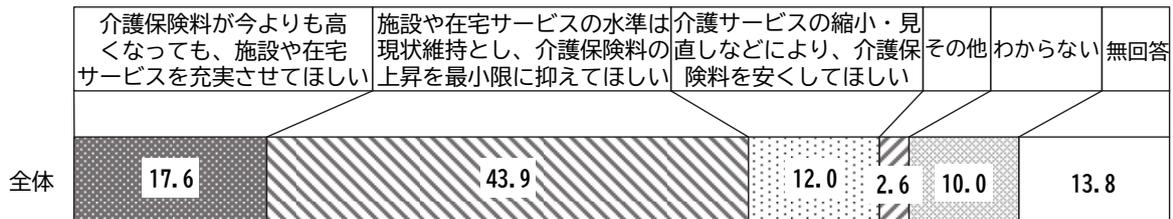
◆介護サービスと介護保険料の関係についての考え

○介護サービスと介護保険料の関係は、「施設や在宅サービスの水準は現状維持とし、介護保険料の上昇を最小限に抑えてほしい」43.9%、「介護保険料が今よりも高くなっても、施設や在宅サービスを充実させてほしい」17.6%、「介護サービスの縮小・見直しなどにより、介護保険料を安くしてほしい」12.0%となっている。

図表4-23 介護サービスと介護保険料の関係についての考え

総数=2,681

単位:%



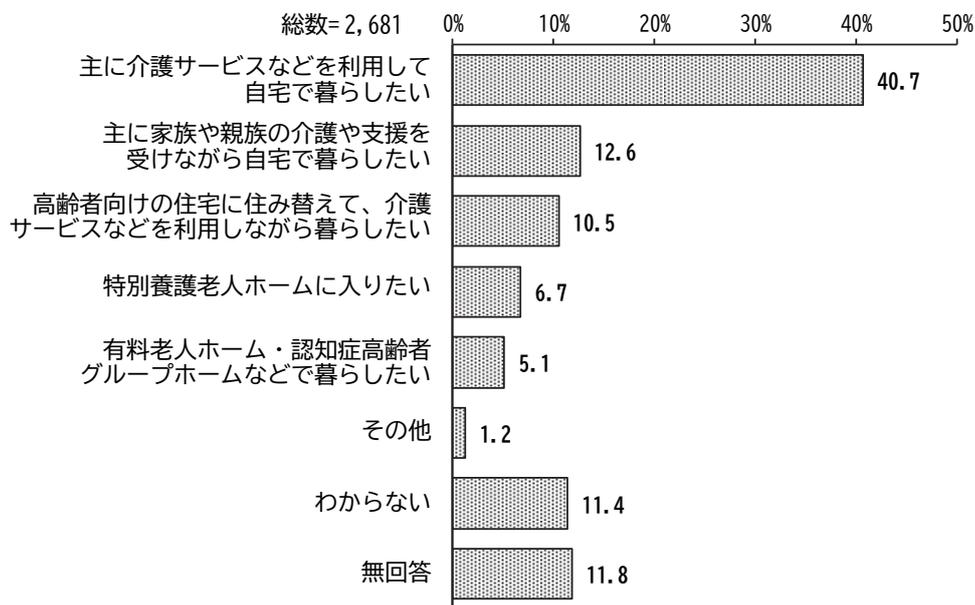
10 今後の暮らし方などについて

◆今後の暮らし方、人生の最期を迎えたい場所

○介護が必要になった場合に希望する暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」40.7%で、「主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい」12.6%、「わからない」11.4%となっている。

○人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」44.4%、「わからない」22.8%、「病院」11.9%となっている。

図表4-24 介護が必要となった場合に希望する暮らし方

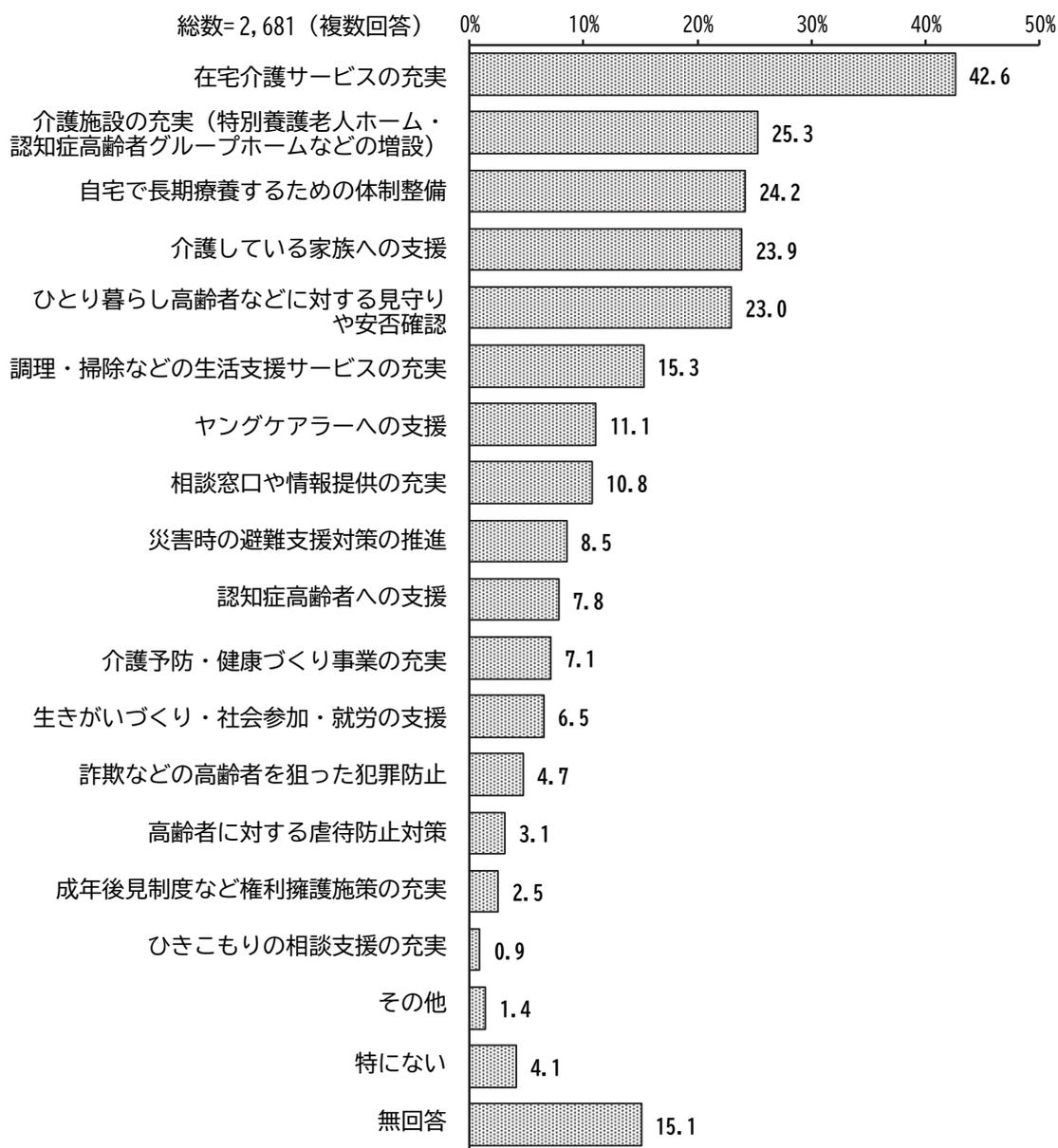


11 高齢者施策全般について

◆区において優先的に取り組む必要があると思う高齢者施策

○区で優先して取り組む必要があると思う高齢者施策は、「在宅介護サービスの充実」42.6%、「介護施設の充実（特別養護老人ホーム・認知症高齢者グループホームなどの増設）」25.3%、「自宅で長期療養するための体制整備」24.2%となっている。

図表4-25 区において優先的に取り組む必要があると思う高齢者施策



12 リスク項目該当者の判定結果

【リスク項目該当者】

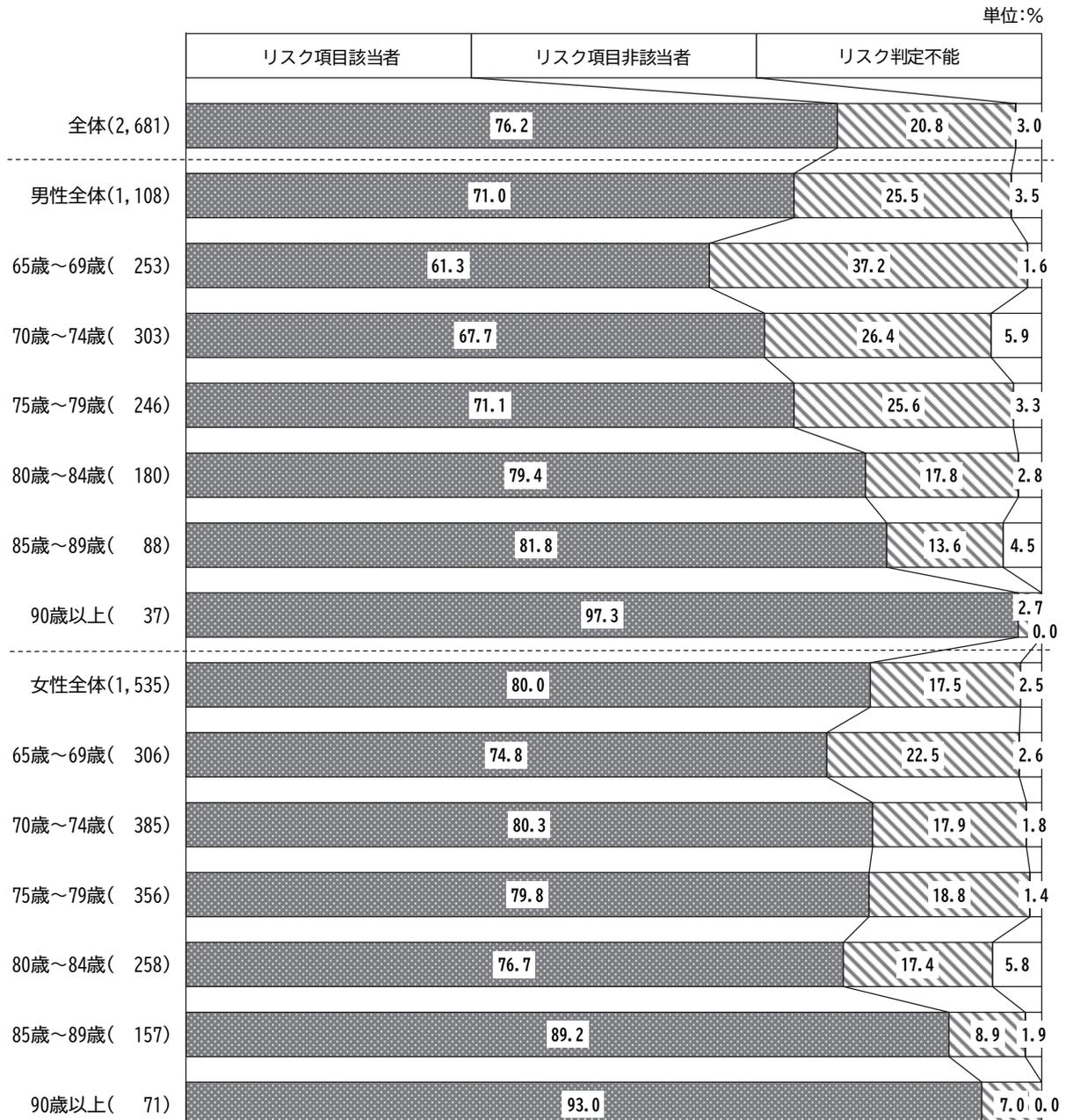
「運動機能リスク」、「栄養改善リスク」、「咀嚼機能リスク」、「閉じこもりリスク」、「認知症リスク」、「うつリスク」、「IADLが低い高齢者」、「転倒リスク」の各項目について、以下の判定基準により判定した結果、いずれか1項目以上に該当した者。

※ IADL…手段的日常生活動作 (instrumental activity of daily living) の略で、買い物、調整、洗濯、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作がどの程度可能かを示す指標。

◆リスク項目該当者出現率

○リスク項目該当者は全体では76.2%、リスク項目非該当者は20.8%となっている。

図表4-26 リスク項目該当者出現率（性別・年齢階級別）

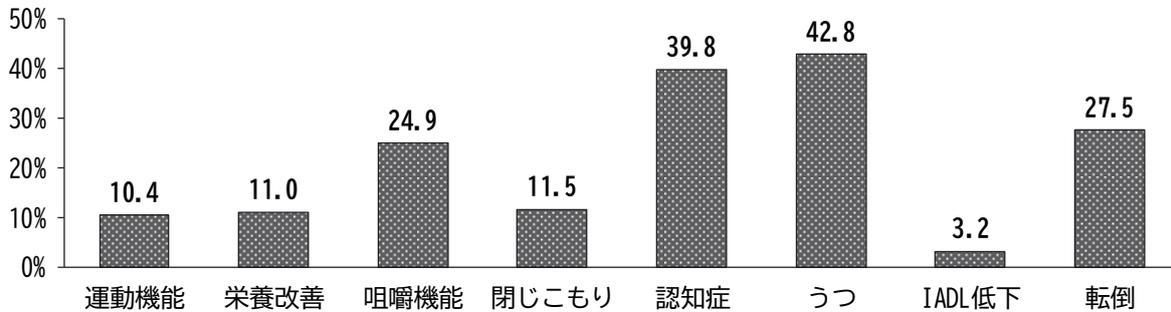


◆リスク項目別出現率

○リスク項目別に出現率は、「うつリスク」42.8%、「認知症リスク」39.8%、「転倒リスク」27.5%、「咀嚼機能リスク」24.9%となっている。

図表4-27 リスク項目別出現率

総数=2,681人



図表4-28 リスク項目別出現率（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	運動機能	栄養改善	咀嚼機能	閉じこもり	認知症	うつ	IADL低下	転倒	
		リスク	リスク	リスク	リスク	リスク	リスク	高齢者が	リスク	
全体	2,681 100.0	279 10.4	295 11.0	668 24.9	308 11.5	1,066 39.8	1,147 42.8	86 3.2	736 27.5	
性別・年齢階級	男性全体	1,108 100.0	88 7.9	60 5.4	264 23.8	124 11.2	426 38.4	412 37.2	49 4.4	276 24.9
	65～69歳	253 100.0	3 1.2	5 2.0	27 10.7	16 6.3	80 31.6	91 36.0	3 1.2	49 19.4
	70～74歳	303 100.0	14 4.6	20 6.6	66 21.8	23 7.6	116 38.3	112 37.0	5 1.7	59 19.5
	75～79歳	246 100.0	17 6.9	14 5.7	71 28.9	20 8.1	90 36.6	85 34.6	8 3.3	53 21.5
	80～84歳	180 100.0	24 13.3	9 5.0	55 30.6	33 18.3	83 46.1	69 38.3	14 7.8	58 32.2
	85～89歳	88 100.0	17 19.3	7 8.0	31 35.2	18 20.5	36 40.9	37 42.0	9 10.2	37 42.0
	90歳以上	37 100.0	13 35.1	5 13.5	14 37.8	14 37.8	20 54.1	18 48.6	10 27.0	20 54.1
	女性全体	1,535 100.0	188 12.2	231 15.0	396 25.8	180 11.7	625 40.7	721 47.0	37 2.4	448 29.2
	65～69歳	306 100.0	11 3.6	51 16.7	58 19.0	17 5.6	96 31.4	137 44.8	2 0.7	66 21.6
	70～74歳	385 100.0	25 6.5	65 16.9	84 21.8	32 8.3	155 40.3	193 50.1	5 1.3	90 23.4
	75～79歳	356 100.0	38 10.7	51 14.3	85 23.9	37 10.4	150 42.1	164 46.1	4 1.1	100 28.1
	80～84歳	258 100.0	35 13.6	34 13.2	73 28.3	32 12.4	98 38.0	117 45.3	5 1.9	80 31.0
	85～89歳	157 100.0	43 27.4	20 12.7	57 36.3	30 19.1	83 52.9	71 45.2	7 4.5	75 47.8
90歳以上	71 100.0	36 50.7	10 14.1	39 54.9	32 45.1	43 60.6	38 53.5	14 19.7	35 49.3	
その他・無回答	38 100.0	3 7.9	4 10.5	8 21.1	4 10.5	15 39.5	14 36.8	-	12 31.6	

図表4-29 他のリスクとの重複状況

(上段；回答数、下段；構成比)

		全体	運動機能 リスク	栄養改善 リスク	咀嚼機能 リスク	閉じこもり リスク	認知症 リスク	うつ リスク	IADLが 低い 高齢者	転倒 リスク
全体		2,681 100.0	279 10.4	295 11.0	668 24.9	308 11.5	1,066 39.8	1,147 42.8	86 3.2	736 27.5
リスク項目別出現率	運動機能リスク	279 100.0	279 100.0	35 12.5	140 50.2	97 34.8	173 62.0	174 62.4	57 20.4	202 72.4
	栄養改善リスク	295 100.0	35 11.9	295 100.0	85 28.8	36 12.2	126 42.7	147 49.8	14 4.7	84 28.5
	咀嚼機能リスク	668 100.0	140 21.0	85 12.7	668 100.0	138 20.7	357 53.4	369 55.2	48 7.2	265 39.7
	閉じこもりリスク	308 100.0	97 31.5	36 11.7	138 44.8	308 100.0	156 50.6	175 56.8	52 16.9	112 36.4
	認知症リスク	1,066 100.0	173 16.2	126 11.8	357 33.5	156 14.6	1,066 100.0	601 56.4	56 5.3	394 37.0
	うつリスク	1,147 100.0	174 15.2	147 12.8	369 32.2	175 15.3	601 52.4	1,147 100.0	52 4.5	393 34.3
	IADLが低い高齢者	86 100.0	57 66.3	14 16.3	48 55.8	52 60.5	56 65.1	52 60.5	86 100.0	53 61.6
	転倒リスク	736 100.0	202 27.4	84 11.4	265 36.0	112 15.2	394 53.5	393 53.4	53 7.2	736 100.0

図表4-30 地区別出現率（リスク項目別）

(上段；回答数、下段；構成比)

		全体	北部 地区	東部 地区	中央 地区	南部 地区	西部 地区
全体		2,681 100.0	336 12.5	532 19.8	561 20.9	542 20.2	669 25.0
リスク項目別出現率	運動機能リスク	279 10.4	31 9.2	59 11.1	62 11.1	58 10.7	65 9.7
	栄養改善リスク	295 11.0	35 10.4	71 13.3	56 10.0	55 10.1	73 10.9
	咀嚼機能リスク	668 24.9	101 30.1	124 23.3	138 24.6	139 25.6	157 23.5
	閉じこもりリスク	308 11.5	36 10.7	62 11.7	72 12.8	60 11.1	74 11.1
	認知症リスク	1,066 39.8	141 42.0	207 38.9	209 37.3	215 39.7	281 42.0
	うつリスク	1,147 42.8	138 41.1	235 44.2	249 44.4	232 42.8	278 41.6
	IADLが低い高齢者	86 3.2	8 2.4	15 2.8	20 3.6	20 3.7	23 3.4
	転倒リスク	736 27.5	96 28.6	145 27.3	158 28.2	141 26.0	182 27.2

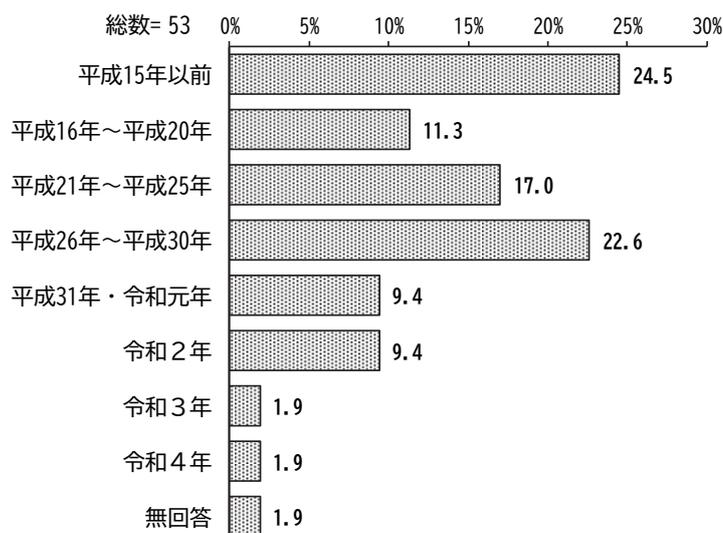
第5章 居宅介護支援事業所調査

1 事業所の概要について

◆事業所の開設年

○事業所の開設年は、「平成15年以前」24.5%、「平成26年～平成30年」22.6%、「平成21年～平成25年」17.0%となっている。

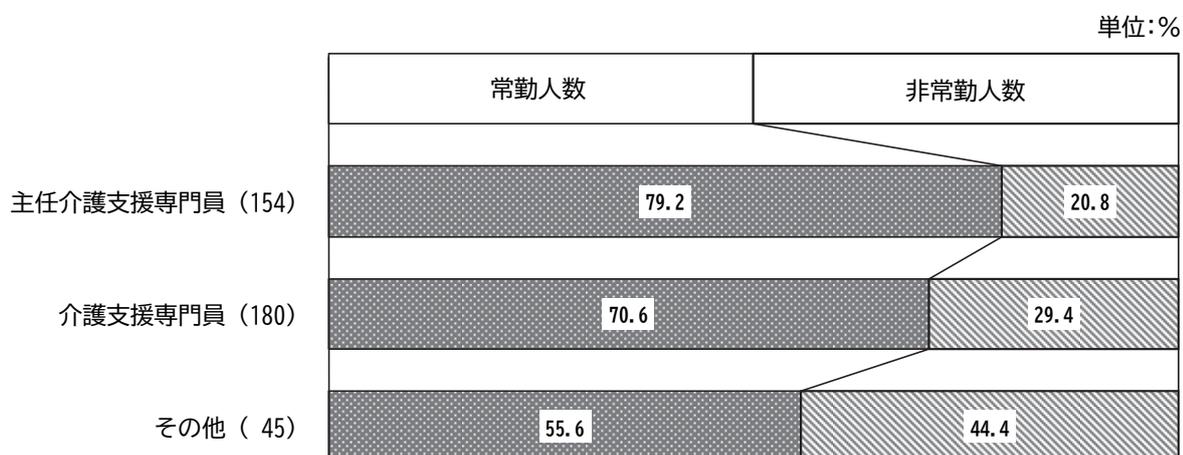
図表5-1 事業所の開設年



◆職種別・勤務形態別職員数

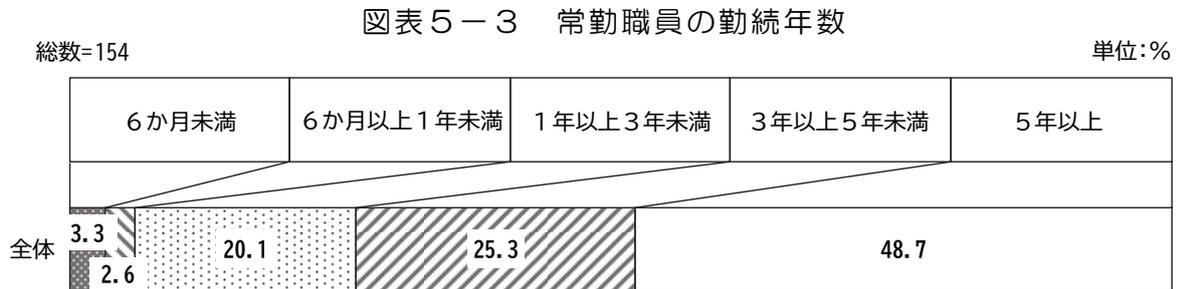
○職種ごとの常勤・非常勤の比率をみると、「主任介護支援専門員」では「常勤」79.2%、「非常勤」20.8%、「介護支援専門員」では「常勤」70.6%、「非常勤」29.4%となっている。

図表5-2 職種別勤務形態別人数



◆常勤職員の勤続年数

○常勤職員の勤続年数は、「5年以上」48.7%、「3年以上5年未満」25.3%、「1年以上3年未満」20.1%となっている。

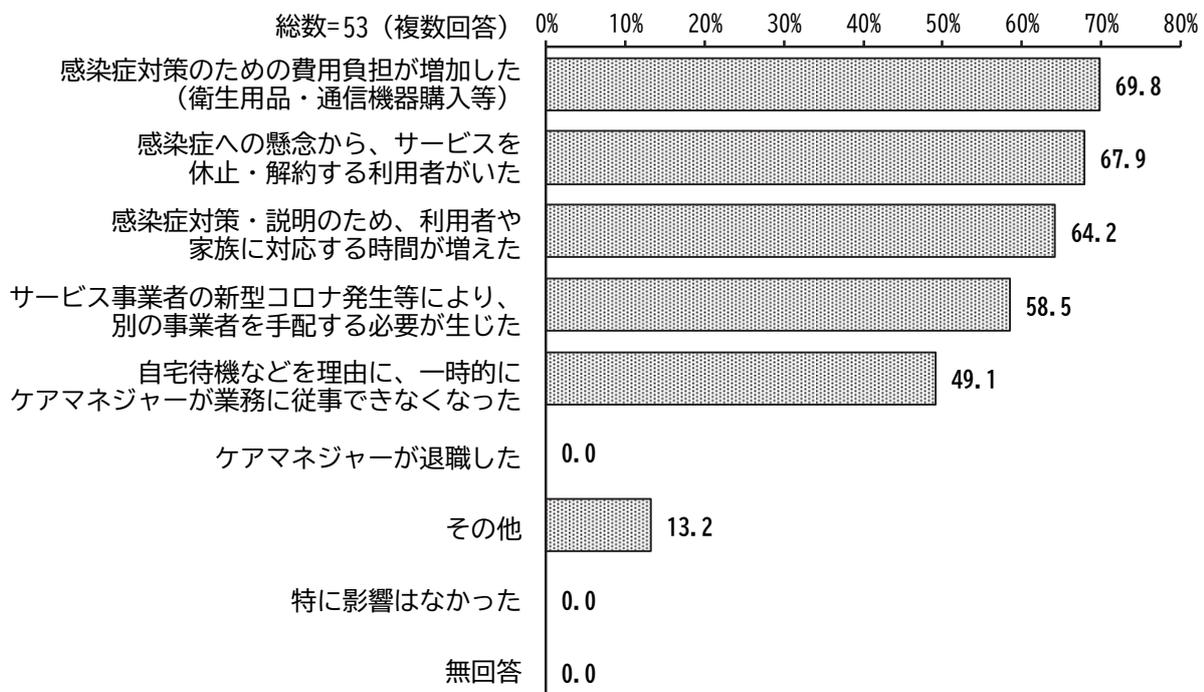


2 事業所運営における課題等について

◆新型コロナウイルスの感染拡大による事業所運営への影響

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業所運営への影響は、「感染症対策のための費用負担が増加した（衛生用品・通信機器購入等）」69.8%、「感染症への懸念から、サービスを休止・解約する利用者がいた」67.9%、「感染症対策・説明のため、利用者や家族に対応する時間が増えた」64.2%となっている。

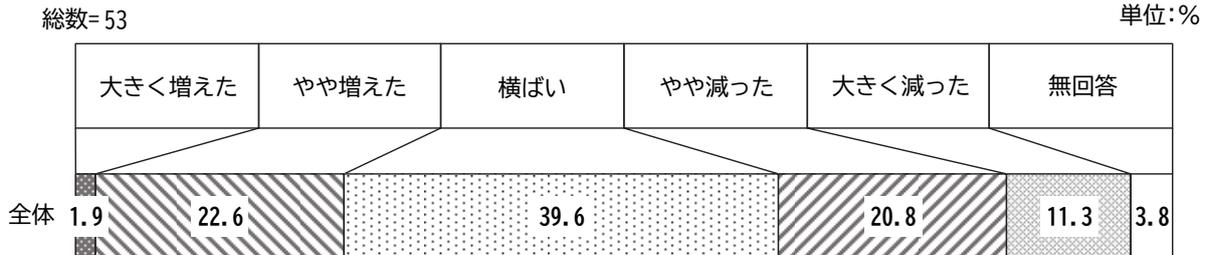
図表5-4 新型コロナウイルスの感染拡大による事業所運営への影響



◆事業所の収入額の変化

○令和3年度の収入額は令和元年度（新型コロナウイルス感染症の感染拡大前）に比べ、「横ばい」39.6%、「やや増えた」22.6%、「やや減った」20.8%となっている。
 ○収入額が増減した理由は、「利用者人数の増減」73.3%、「利用者1人当たりの単価の増減」13.3%、「事業規模の拡大・縮小」10.0%、「加算の取得・取下」10.0%となっている。

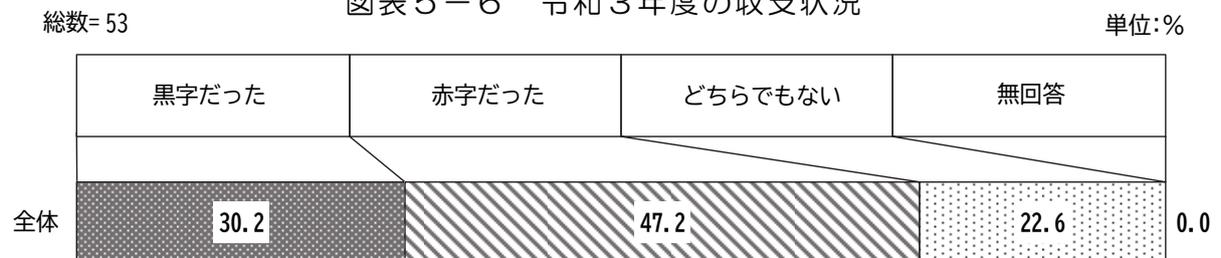
図表5-5 令和3年度の収入額の変化



◆令和3年度の収支状況、今後の事業規模の予定

○事業所の収支は、「赤字だった」47.2%、「黒字だった」30.2%、「どちらでもない」22.6%となっている。
 ○今後の事業規模は、「現状維持」50.9%、「拡大を検討」30.2%、「未定、わからない」15.1%となっている。

図表5-6 令和3年度の収支状況



◆職員の早期退職の防止や定着促進の取組み

○職員の早期退職の防止や定着促進の取組みは、「年次有給休暇の取得促進」58.5%、「労働時間、業務内容の希望を考慮」52.8%、「職場内のコミュニケーションの円滑化」47.2%となっている。

◆事業所運営にあたっての課題

○事業所運営にあたっての課題は、「ICT化（情報通信技術活用）への対応」56.6%、「介護報酬の低さ、採算性」52.8%、「主任介護支援専門員の配置・更新」30.2%となっている。

3 ケアマネジメントについて

◆居宅介護サービス計画（ケアプラン）の作成数

○事業所全体のケアプラン作成総数（居宅介護支援と介護予防支援等の受託を合わせた数）は、「101件以上」37.7%、「50件未満」、「50～75件」20.8%となっている。

図表5-7 令和4年9月のケアプラン作成件数

（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	50件未満	50～75件	76～100件	101件以上	無回答
総数（居宅介護支援+介護予防支援等）	53 100.0	11 20.8	11 20.8	9 17.0	20 37.7	2 3.8
うち目黒区被保険者	53 100.0	13 24.5	16 30.2	9 17.0	13 24.5	2 3.8

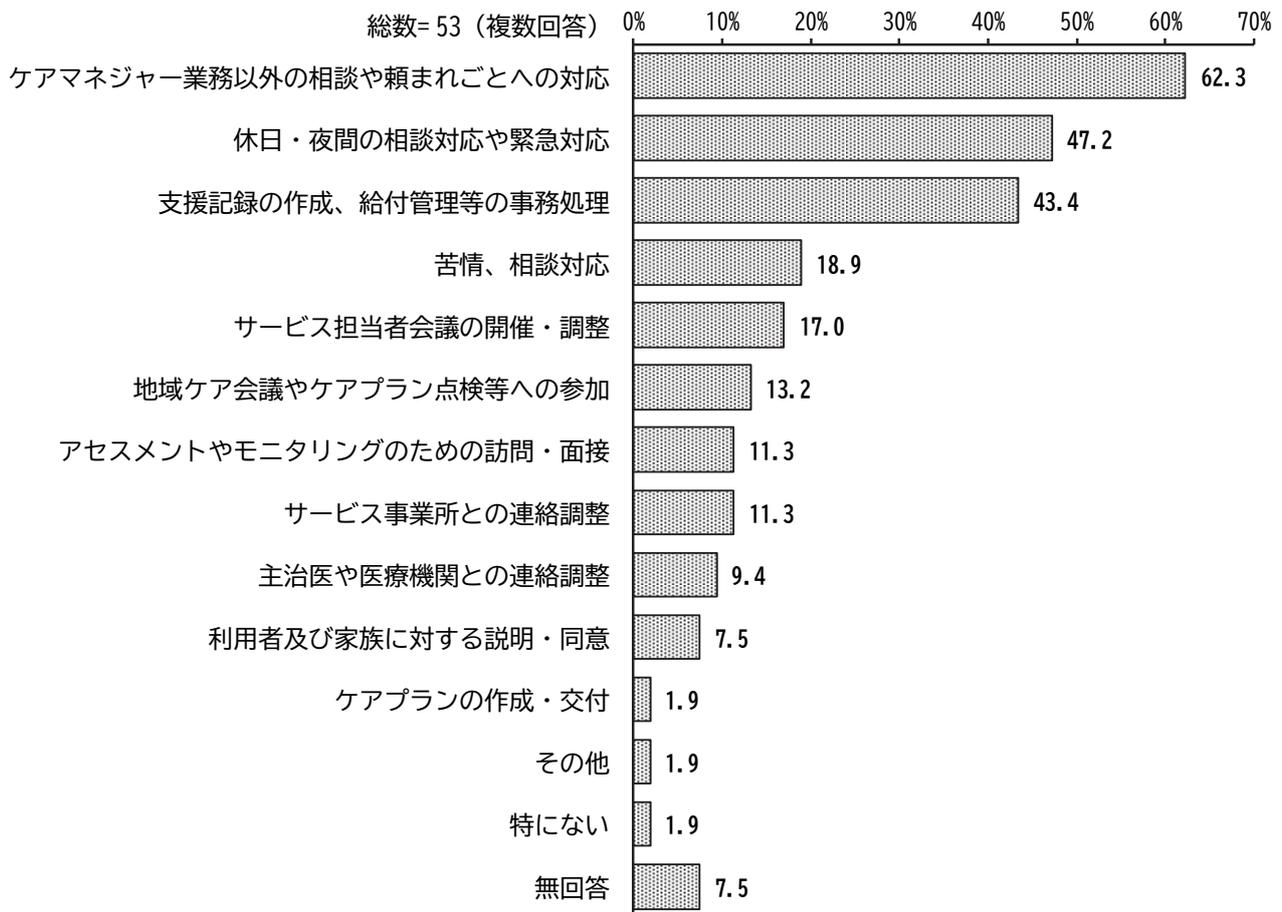
	全体	50件未満	50～75件	76～100件	101件以上	無回答
居宅介護支援	53 100.0	12 22.6	15 28.3	9 17.0	15 28.3	2 3.8
うち目黒区被保険者	53 100.0	18 34.0	16 30.2	7 13.2	10 18.9	2 3.8

	全体	0件	1～10件	11～20件	21件以上	無回答
介護予防支援等の受託	53 100.0	1 1.9	24 45.3	19 35.8	7 13.2	2 3.8
うち目黒区被保険者	53 100.0	2 3.8	28 52.8	15 28.3	6 11.3	2 3.8

◆ケアマネジャーが負担が大きいと感じる業務内容

○ケアマネジャーが業務の中で特に負担が大きいと感じることは、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごとへの対応」62.3%、「休日・夜間の相談対応や緊急対応」47.2%、「支援記録の作成、給付管理等の事務処理」43.4%となっている。

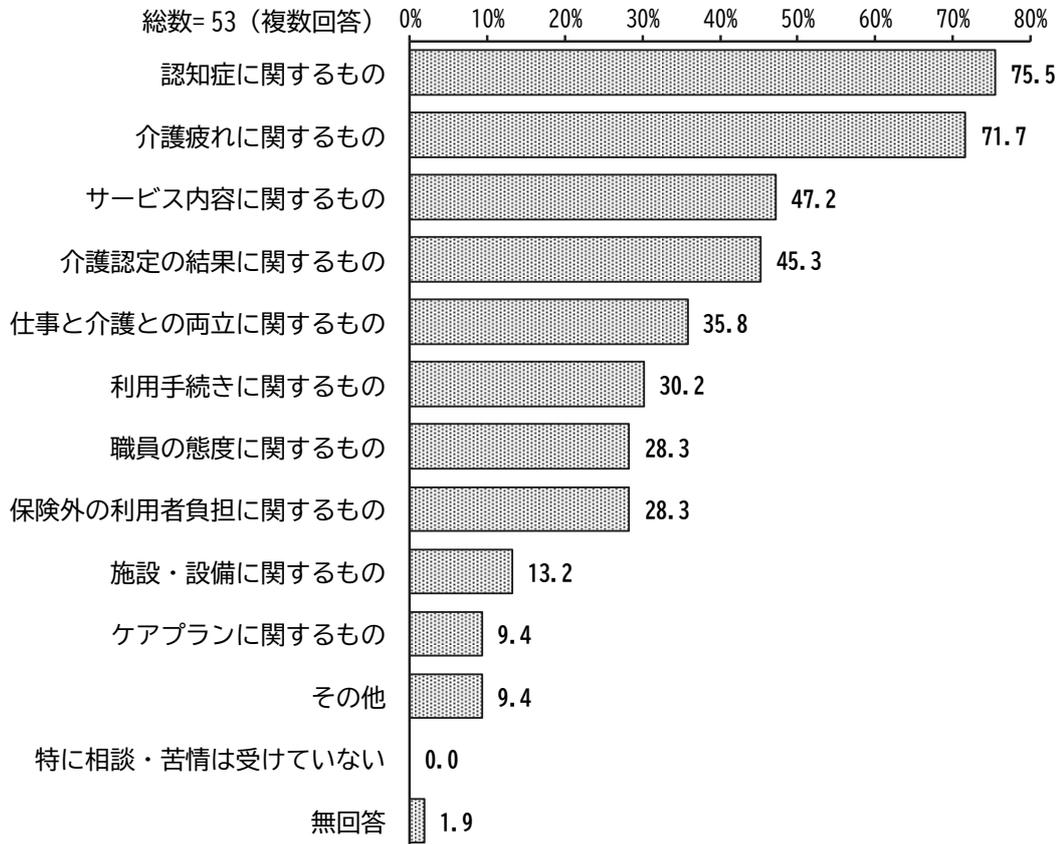
図表5-8 ケアマネジャーが負担が大きいと感じる業務内容



◆利用者・利用者家族から受ける相談や苦情

○利用者・利用者家族から受ける相談や苦情は、「認知症に関するもの」75.5%、「介護疲れに関するもの」71.7%、「サービス内容に関するもの」47.2%となっている。

図表5-9 利用者・利用者家族から受ける相談や苦情

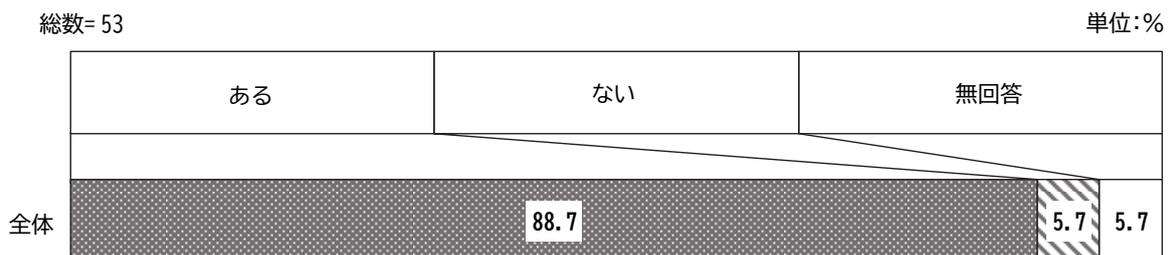


◆介護関係以外の相談事例の有無

○利用者・利用者家族またはその他の区民からの介護関係以外の相談事例の有無は、「ある」88.7%、「ない」5.7%となっている。

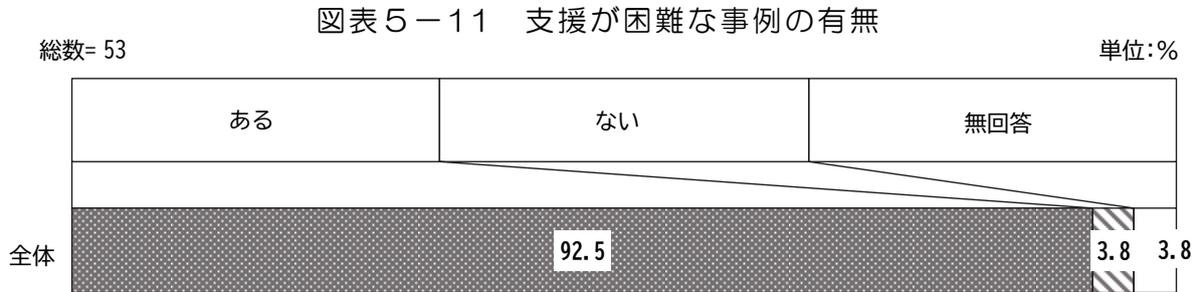
○介護関係以外の相談事例の内容は、「家族の問題に関するもの（ひきこもり以外）」68.1%、「生活困窮に関するもの」63.8%、「疾病に関するもの」55.3%となっている。

図表5-10 介護関係以外の相談事例の有無



◆支援が困難な事例の有無、困難事例の内容

- 支援が困難な事例の有無は、「ある」92.5%、「ない」3.8%となっている。
 ○支援が困難と感じた点は、「サービス利用の拒否がある」75.5%、「ご家族が協力的ではない」73.5%、「ご本人とご家族の考えが異なる」71.4%となっている。



4 利用者の状況及び区の介護・福祉サービスについて

◆新型コロナウイルスの感染拡大による利用者の心身への影響

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が利用者の心身に与えたと思う影響は、「非常に影響を与えた」では「運動機能の低下」58.5%、「閉じこもり」52.8%、「認知機能の低下」50.9%となっている。
 ○「非常に影響を与えた」と回答したもののうち最も懸念される事項は、「運動機能の低下」40.0%、「認知機能の低下」28.6%、「閉じこもり」、「精神状態の悪化」14.3%となっている。

図表5-12 新型コロナウイルスの感染拡大による利用者の心身への影響
 (上段：回答数、下段：構成比)

	全体	非常に影響を与えた	若干影響を与えた	影響はなかった	わからない	無回答
運動機能の低下	53 100.0	31 58.5	20 37.7	1 1.9	-	1 1.9
認知機能の低下	53 100.0	27 50.9	21 39.6	3 5.7	2 3.8	1 1.9
閉じこもり	53 100.0	28 52.8	24 45.3	1 1.9	-	-
栄養状態の悪化	53 100.0	7 13.2	26 49.1	13 24.5	5 9.4	2 3.8
健康状態の悪化	53 100.0	18 34.0	24 45.3	8 15.1	2 3.8	1 1.9
精神状態の悪化	53 100.0	20 37.7	29 54.7	3 5.7	-	1 1.9
その他	53 100.0	1 1.9	3 5.7	3 5.7	10 18.9	36 67.9

◆在宅生活の継続が困難な利用者の状況

- 在宅での生活の継続が困難であり施設等への入所・入居が必要と思われるケースは、「ある」79.2%、「ない」15.1%となっている。
- 施設等への入所・入居が必要と思われる利用者の施設への申し込み状況は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）に申し込んでいるが、入所の見込は立っていない」では「1～5件」が61.9%であり、件数の累計は95件となっている。また、「認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）に申し込んでいるが、入居の見込は立っていない」では、件数の累計は5件となっている。

図表5-13 施設等への入所・入居が必要と思われる利用者の施設申し込み状況
(上段：回答数、下段：構成比)

	件数 累計	全 体	0 件	1 ～ 5 件	6 ～ 1 0 件	1 1 件 以 上	無 回 答
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）に申し込んでいるが、入所の見込は立っていない	95	42 100.0	5 11.9	26 61.9	3 7.1	1 2.4	7 16.7
認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）に申し込んでいるが、入居の見込は立っていない	5	42 100.0	19 45.2	5 11.9	- -	- -	18 42.9
今後、施設等への入所・入居を申し込む予定	179	42 100.0	3 7.1	24 57.1	3 7.1	2 4.8	10 23.8
経済的な理由により施設等への入所・入居は申し込んでいない	48	42 100.0	13 31.0	12 28.6	1 2.4	1 2.4	15 35.7
本人・家族の意向により施設等への入所・入居は申し込んでいない（経済的な理由以外）	55	42 100.0	11 26.2	13 31.0	- -	2 4.8	16 38.1
その他	2	42 100.0	12 28.6	2 4.8	- -	- -	28 66.7

◆目黒区で不足していると感じる介護サービス

- 介護支援専門員が目黒区で最も不足していると感じる介護サービスは、「短期入所生活介護」24.5%、「訪問介護」13.2%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」11.3%となっている。
- その他に不足していると感じる介護サービスは、「介護老人保健施設」22.6%、「夜間対応型訪問介護」18.9%、「通所リハビリテーション」17.0%となっている。

◆介護予防・日常生活支援総合事業で必要とされているサービス内容や機能

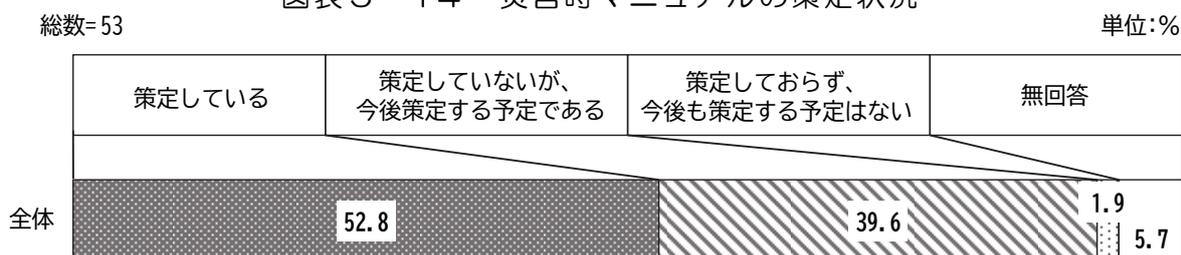
- 総合事業の訪問型サービスで主に必要とされている内容や機能は、「掃除」73.6%、「買い物」45.3%、「入浴・洗身」24.5%となっている。
- 総合事業の通所型サービスで、主に必要とされている内容や機能は、「人との関わりや交流」77.4%、「機能訓練」62.3%、「外出の機会の確保」54.7%となっている。

5 災害対策について

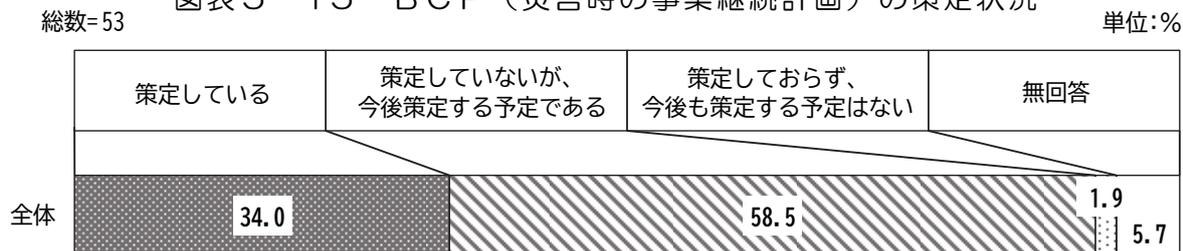
◆災害時マニュアル・BCP（災害時の事業継続計画）の策定状況

- 災害時マニュアルの策定は、「策定している」52.8%、「策定していないが、今後策定する予定である」39.6%、「策定しておらず、今後も策定する予定はない」1.9%となっている。
- BCP（災害時の事業継続計画）の策定は、「策定している」34.0%、「策定していないが、今後策定する予定である」58.5%、「策定しておらず、今後も策定する予定はない」1.9%となっている。

図表5-14 災害時マニュアルの策定状況



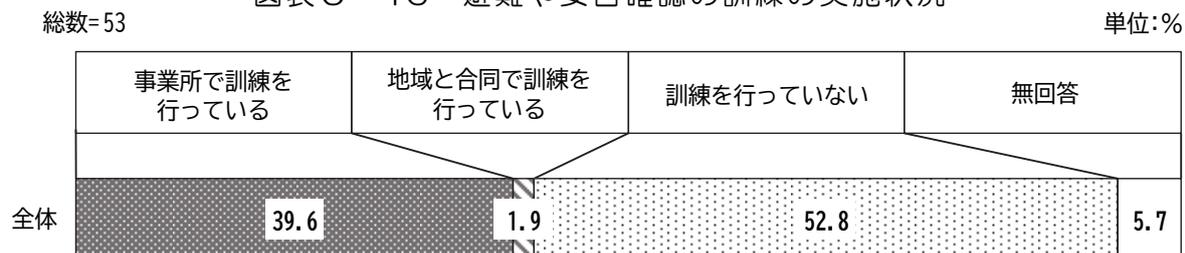
図表5-15 BCP（災害時の事業継続計画）の策定状況



◆避難や安否確認の訓練の実施状況、非常時に自宅から30分以内に駆けつけられる職員数

- 災害発生時の避難や安否確認の訓練の実施は、「訓練を行っていない」52.8%、「事業所で訓練を行っている」39.6%、「地域と合同で訓練を行っている」1.9%となっている。
- 非常時に30分以内に駆けつけられる職員数は、「1人」37.7%、「2人」22.6%、「0人」18.9%となっている。

図表5-16 避難や安否確認の訓練の実施状況

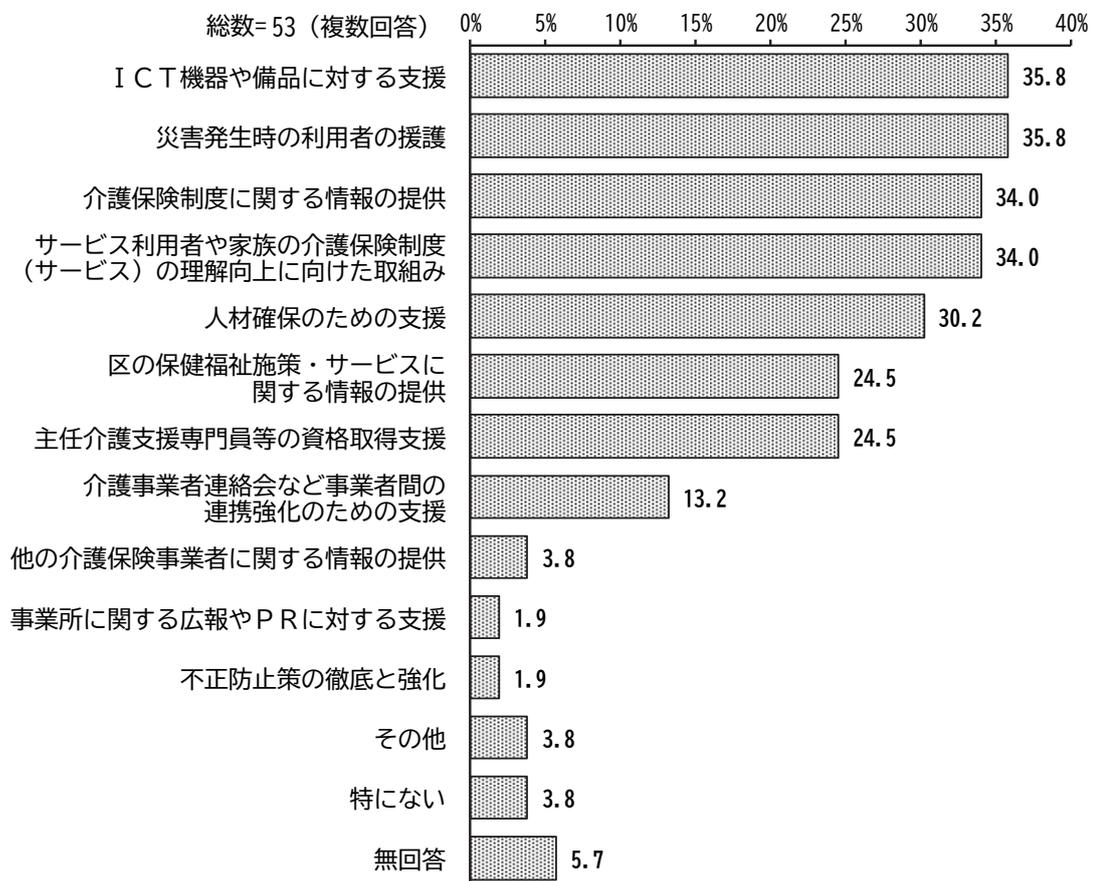


6 区に対する要望について

◆サービスの質の向上または事業を運営する上で必要な区からの支援

- サービスの質の向上のために区に望む支援は、「支援困難者への対応とサポート」69.8%、「地域内の組織やボランティア等地域資源との連携強化のための支援」47.2%、「ケアマネジャーや事業所のための相談体制の充実」39.6%となっている。
- 事業を運営する上で区に望む支援は、「ICT機器や備品に対する支援」、「災害発生時の利用者の援護」35.8%、「介護保険制度に関する情報の提供」、「サービス利用者や家族の介護保険制度（サービス）の理解向上に向けた取組み」34.0%、「人材確保のための支援」30.2%となっている。

図表5-17 事業を運営する上で必要な区からの支援



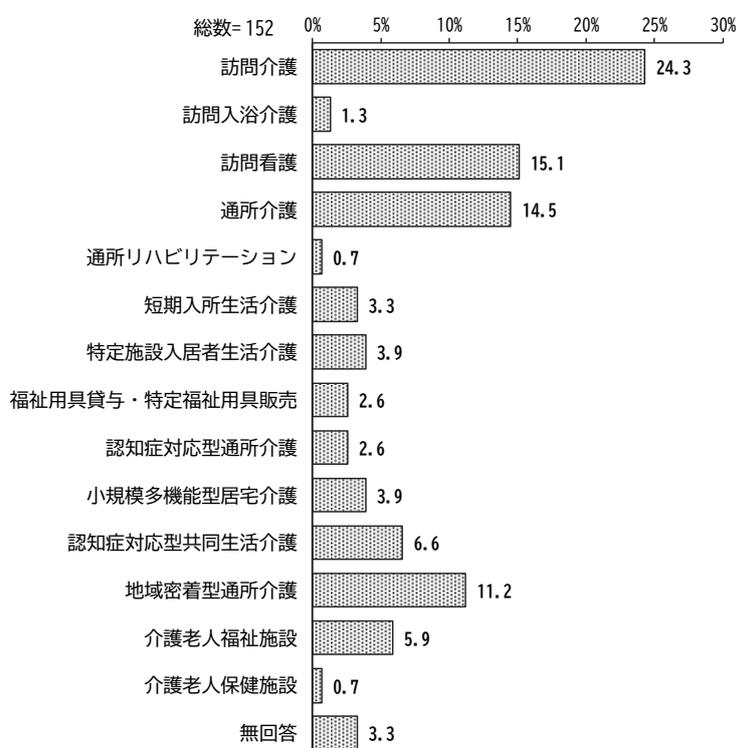
第6章 サービス提供事業所調査

1 事業所の概要について

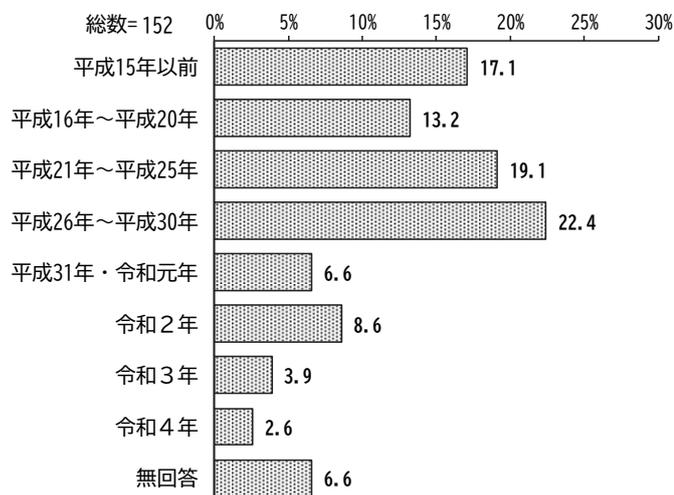
◆事業所が提供している介護サービスおよび提供開始年月

- サービス種別は、「訪問介護」24.3%、「訪問看護」15.1%、「通所介護」14.5%となっている。
- サービスの提供開始年は、「平成26年～平成30年」22.4%、「平成21年～平成25年」19.1%、「平成15年以前」17.1%となっている。

図表6-1 事業所が提供しているサービス種別



図表6-2 サービス提供開始年



2 人材確保や雇用管理について

◆従事職員数

○事業所の職員数は、「訪問介護」、「通所介護」では「11人～20人」の割合が最も高く、「訪問看護」では「6～10人」が最も高い。また、「介護老人福祉施設」などの施設サービスでは「50人以上」が最も高い。

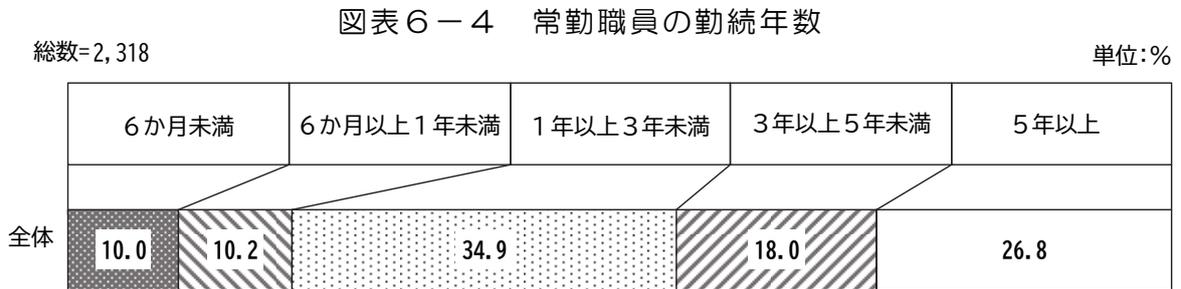
図表6-3 従事職員数（サービス種別）

（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	1 ～ 5 人	6 ～ 10 人	11 人 ～ 20 人	21 ～ 30 人	31 人 ～ 50 人	50 人 以上	無 回 答
全体	152 100.0	10 6.6	36 23.7	56 36.8	25 16.4	9 5.9	16 10.5	-
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	37 100.0	1 2.7	9 24.3	14 37.8	7 18.9	3 8.1	3 8.1
	訪問入浴介護	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-
	訪問看護	23 100.0	3 13.0	9 39.1	8 34.8	2 8.7	-	1 4.3
	通所介護	22 100.0	1 4.5	4 18.2	13 59.1	4 18.2	-	-
	通所リハビリテーション	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-
	短期入所生活介護	5 100.0	-	-	1 20.0	-	1 20.0	3 60.0
	特定施設入居者生活介護	6 100.0	-	-	-	3 50.0	3 50.0	-
	福祉用具貸与・ 特定福祉用具販売	4 100.0	2 50.0	2 50.0	-	-	-	-
	認知症対応型通所介護	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-
	小規模多機能型居宅介護	6 100.0	-	1 16.7	5 83.3	-	-	-
	認知症対応型共同生活 介護	10 100.0	-	2 20.0	4 40.0	3 30.0	1 10.0	-
	地域密着型通所介護	17 100.0	-	8 47.1	8 47.1	1 5.9	-	-
	介護老人福祉施設	9 100.0	-	-	-	-	1 11.1	8 88.9
	介護老人保健施設	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0
	無回答	5 100.0	-	-	1 20.0	4 80.0	-	-

◆常勤職員の勤続年数

○常勤職員の勤続年数ごとの人数は、「1年以上3年未満」34.9%、「5年以上」26.8%、「3年以上5年未満」18.0%となっている。



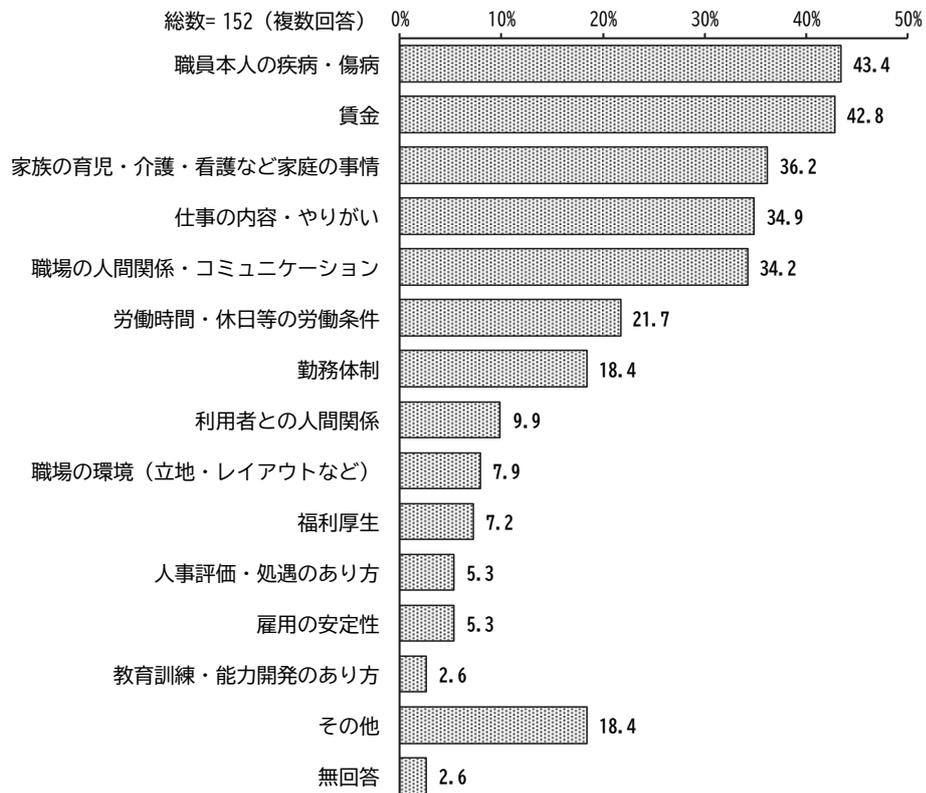
◆職員の離職理由、早期離職の防止や定着促進の取組み、特に確保が困難な職・職種

○職員の離職理由として考えられることは、「職員本人の疾病・傷病」43.4%、「賃金」42.8%、「家族の育児・介護・看護など家庭の事情」36.2%となっている。

○職員の早期離職の防止や定着促進の取組みは、「職場内の交流を深め、コミュニケーションの円滑化を図る」67.1%、「賃金・労働時間等の労働条件を改善する」59.2%、「職員に労働時間の希望を聞く」56.6%となっている。

○特に確保が困難な職種は、「介護職員（介護福祉士）」55.9%、「介護職員（初任者研修等修了者）」36.8%、「看護師、准看護師、保健師」34.9%となっている。

図表6-5 職員の離職理由

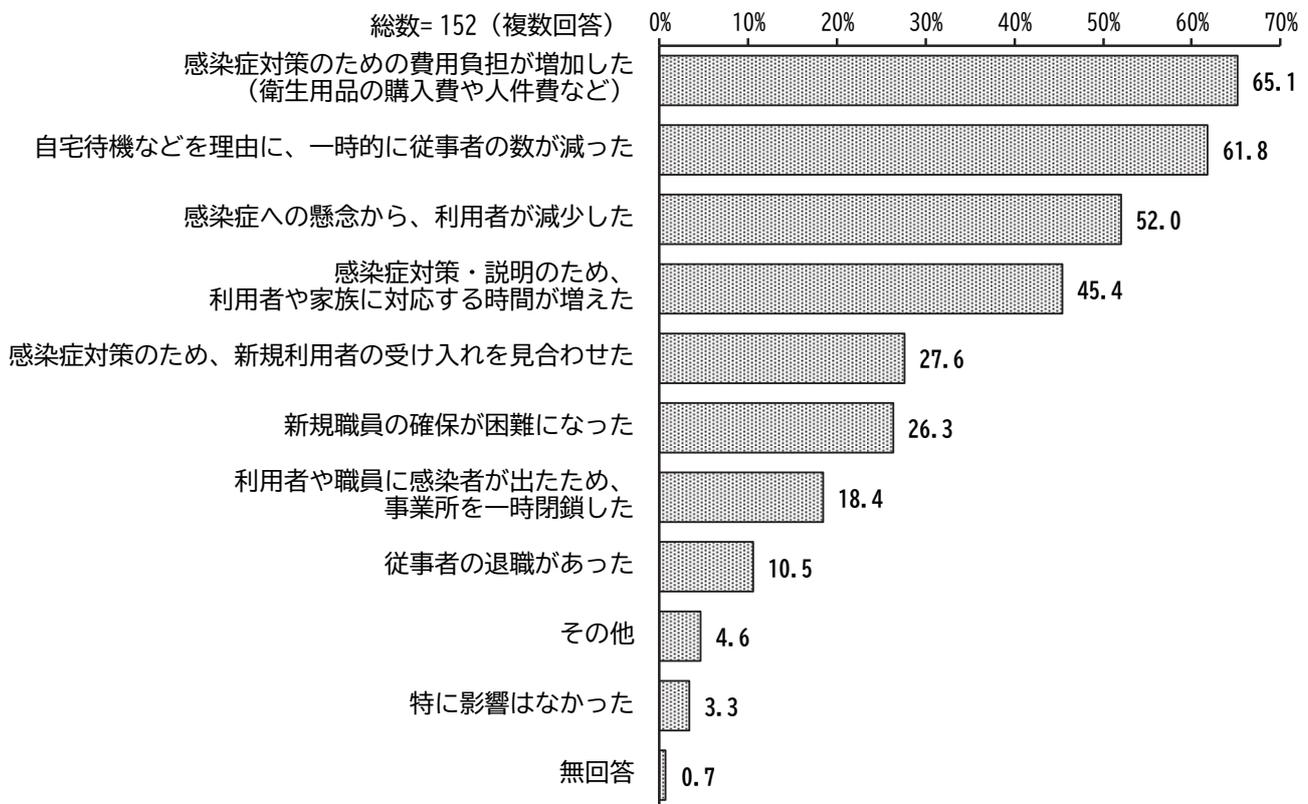


3 事業所運営の状況・課題等について

◆新型コロナウイルスの感染拡大による事業所運営への影響

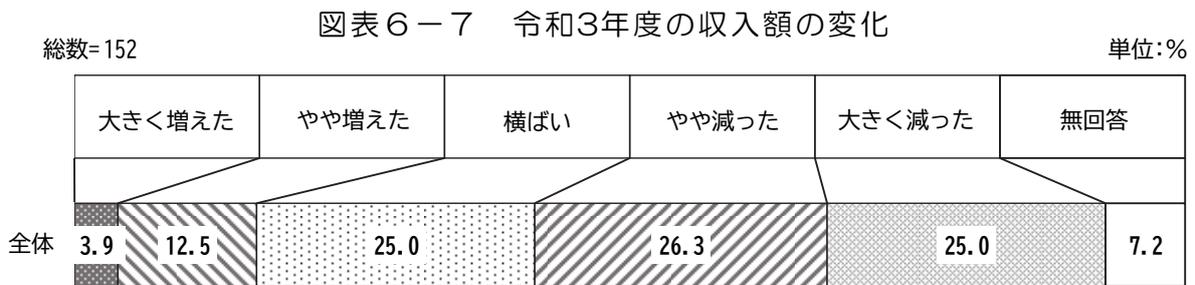
○新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業所運営への影響は、「感染症対策のための費用負担が増加した（衛生用品の購入費や人件費など）」65.1%、「自宅待機などを理由に、一時的に従事者の数が減った」61.8%、「感染症への懸念から、利用者が減少した」52.0%となっている。

図表6-6 新型コロナウイルスの感染拡大による事業所運営への影響



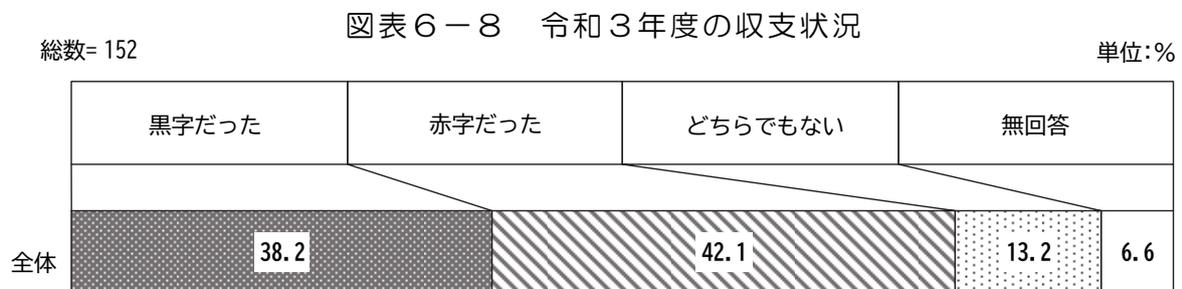
◆事業所の収入額の変化

- 令和3年度の収入額は令和元年度（新型コロナウイルス感染症の感染拡大前）に比べ、「やや減った」26.3%、「横ばい」、「大きく減った」25.0%、「やや増えた」12.5%となっている。
- 収入額が増減した理由は、「利用者人数の増減」77.7%、「提供サービスの拡大・縮小」20.4%、「利用者1人当たりの利用単価の増減」15.5%となっている。



◆令和3年度の収支状況、当該サービスの今後の予定

- 事業所の収支は、「赤字だった」42.1%、「黒字だった」38.2%、「どちらでもない」13.2%となっている。
- 提供しているサービスの今後の予定は、「現状維持」59.2%、「提供拡大を検討」26.3%、「未定、わからない」7.2%となっている。



◆事業所運営にあたっての課題

- 事業所運営にあたっての課題は、「職員の確保、離職対策」63.8%、「職員の育成」57.9%、「人員不足などにより、利用者のニーズに対応できない」51.3%となっている。

◆事故防止や再発防止の取組み

- サービス提供中の事故防止や再発防止のための取組みは、「ヒヤリ・ハット事例の情報共有」80.9%、「ヒヤリ・ハット報告の徹底」78.9%、「感染症予防マニュアルの作成」78.3%となっている。

4 サービス提供及び利用者の状況について

◆支援が困難な事例の有無、対応の相談先

- 利用者や家族との対応において、自らの事業所だけでは解決が困難な事例は、「ない」56.6%、「ある」39.5%となっている。
- 困難事例の相談先は、「ケアマネジャー」80.0%、「地域包括支援センター」58.3%、「同じサービスを運営するほかの事業者」21.7%となっている。

◆サービスを提供する上での課題

- サービス提供上の課題は、「職員の人数不足」66.4%、「職員の技術不足」40.8%、「利用者の都合による内容変更」27.0%となっている。

◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大による利用者の心身への影響

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が利用者の心身に与えたと思う影響は、「非常に影響を与えた」では「運動機能の低下」42.8%、「認知機能の低下」33.6%、「閉じこもり」27.6%となっている。
- 「非常に影響を与えた」と回答したもののうち最も懸念される事項は、「運動機能の低下」54.3%、「精神状態の悪化」13.6%、「認知機能の低下」11.1%となっている。

図表6-9 新型コロナウイルスの感染拡大による利用者の心身への影響
(上段：回答数、下段：構成比)

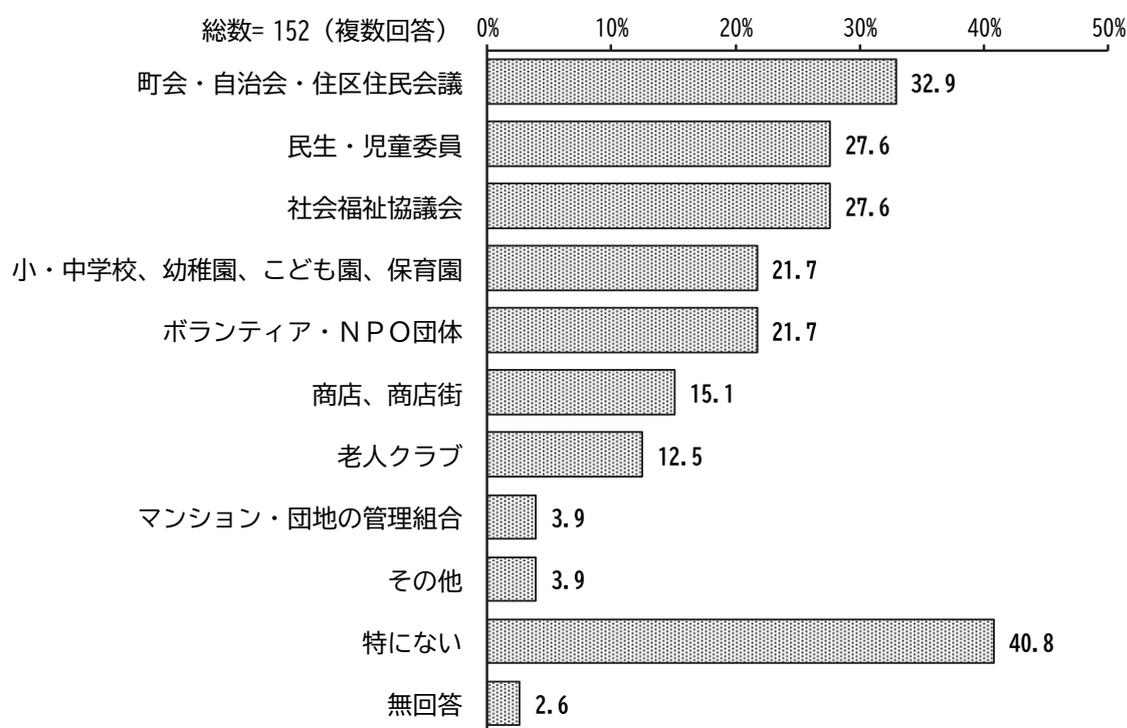
	全体	非常に影響を与えた	若干影響を与えた	影響はなかった	わからない	無回答
運動機能の低下	152 100.0	65 42.8	74 48.7	4 2.6	6 3.9	3 2.0
認知機能の低下	152 100.0	51 33.6	77 50.7	15 9.9	6 3.9	3 2.0
閉じこもり	152 100.0	42 27.6	71 46.7	26 17.1	10 6.6	3 2.0
栄養状態の悪化	152 100.0	17 11.2	51 33.6	59 38.8	20 13.2	5 3.3
健康状態の悪化	152 100.0	26 17.1	83 54.6	23 15.1	16 10.5	4 2.6
精神状態の悪化	152 100.0	37 24.3	81 53.3	21 13.8	10 6.6	3 2.0
その他	152 100.0	7 4.6	6 3.9	11 7.2	32 21.1	96 63.2

5 介護サービス以外のことについて

◆地域の団体や組織との関わり

- 事業所が関わりを持つ地域の団体や組織は、「町会・自治会・住区住民会議」32.9%、「民生・児童委員」、「社会福祉協議会」27.6%、「小・中学校、幼稚園、こども園、保育園」、「ボランティア・NPO団体」21.7%となっている。また、「特にない」40.8%となっている。
- 地域の団体や組織との関わりの内容は、「地域のまつりへの参加」43.7%、「利用者に関する相談対応や情報共有」42.5%、「介護や福祉についての専門知識や情報の提供・共有」40.2%となっている。

図表6-10 地域の団体や組織との関わりの有無



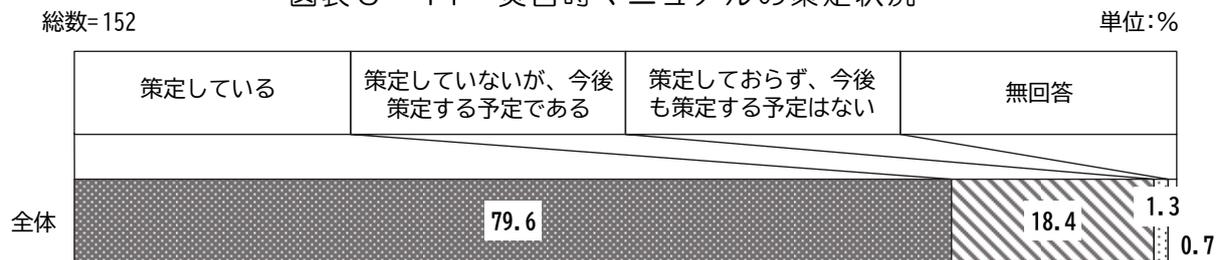
6 災害対策について

◆災害時マニュアル・BCP（災害時の事業継続計画）の策定状況

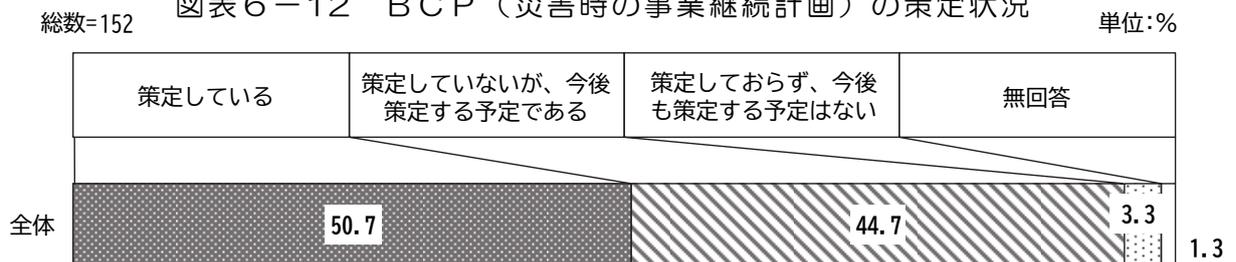
○災害時マニュアルの策定は、「策定している」79.6%、「策定していないが、今後策定する予定である」18.4%、「策定しておらず、今後も策定する予定はない」1.3%となっている。

○BCP（災害時の事業継続計画）の策定は、「策定している」50.7%、「策定していないが、今後策定する予定である」44.7%、「策定しておらず、今後も策定する予定はない」3.3%となっている。

図表6-11 災害時マニュアルの策定状況



図表6-12 BCP（災害時の事業継続計画）の策定状況



◆避難や安否確認の訓練の実施状況、非常時に自宅から30分以内に駆けつけられる職員

○災害発生時の避難や安否確認の訓練の実施は、「事業所で訓練を行っている」65.8%、「地域と合同で訓練を行っている」5.3%、「訓練を行っていない」27.6%となっている。

○非常時に30分以内に駆けつけられる職員数は、「2人」、「5～9人」21.1%、「10人以上」14.5%、「3人」、「4人」13.2%となっている。

図表6-13 避難や安否確認の訓練の実施状況

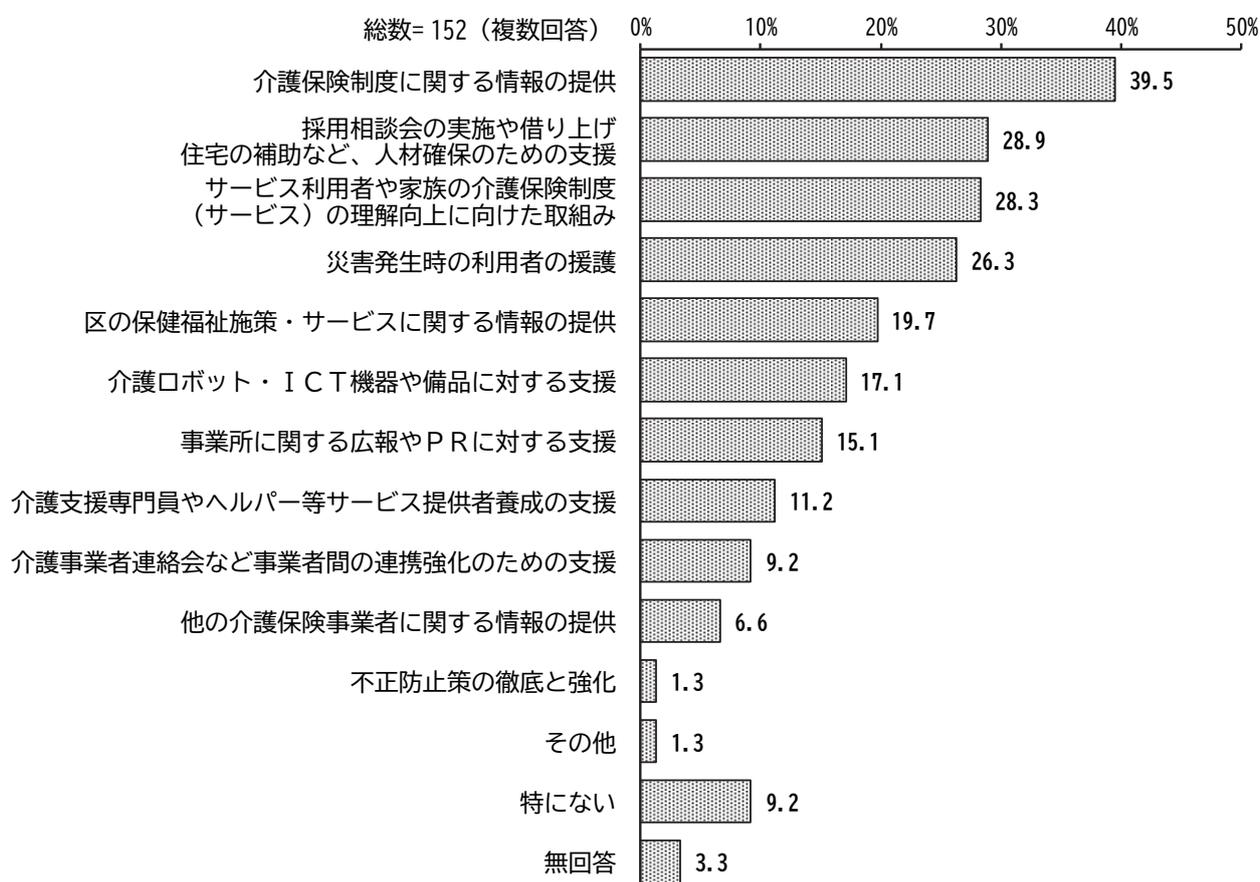


7 区に対する要望について

◆サービスの質の向上または事業を運営する上で必要な区からの支援

- サービスの質の向上のために区に望む支援は、「支援困難者への対応とサポート」31.6%、「事業所向け研修の充実」30.3%、「ケアマネジャーや事業所のための相談体制の充実」25.7%となっている。
- 事業を運営する上で区に望む支援は、「介護保険制度に関する情報の提供」39.5%、「採用相談会の実施や借り上げ住宅の補助など、人材確保のための支援」28.9%、「サービス利用者や家族の介護保険制度（サービス）の理解向上に向けた取組み」28.3%となっている。

図表6-14 事業を運営する上で必要な区からの支援



第7章 高齢者の生活に関する調査

1 本人や家族の状況について

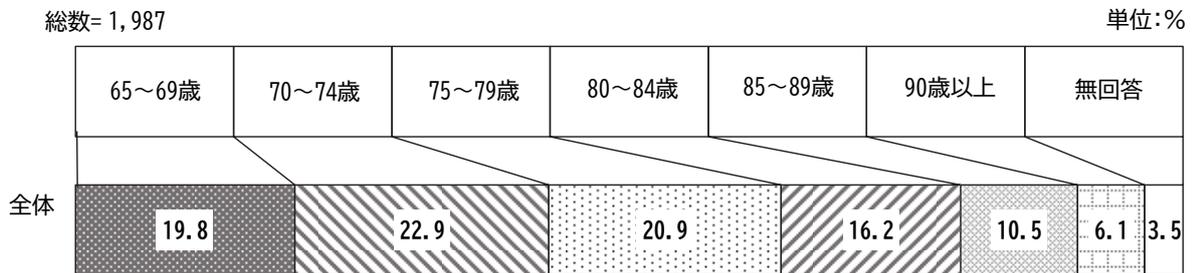
◆性別、年齢

○性別は、「男性」41.3%、「女性」55.3%

○年齢は、「70～74歳」22.9%、「75～79歳」20.9%、「65～69歳」19.8%、「80～84歳」16.2%となっている。

全体では、前期高齢者（74歳以下）42.7%、後期高齢者（75歳以上）53.7%

図表7-1 年齢

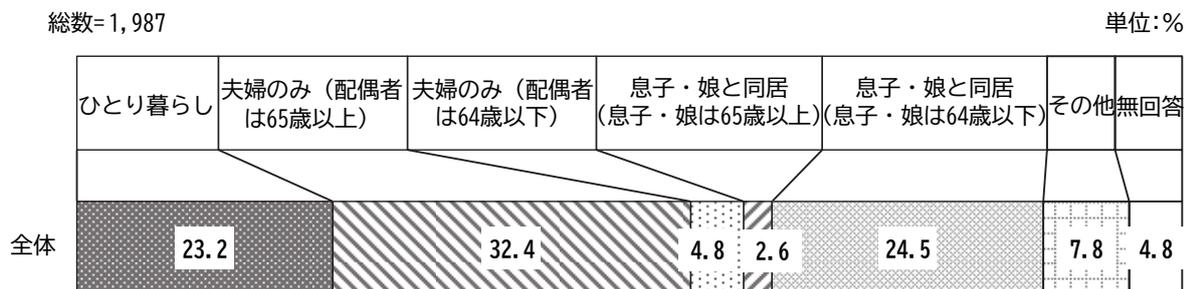


◆家族構成、日中の家族の状況

○家族構成は、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）」32.4%、「息子・娘と同居（息子・娘は64歳以下）」24.5%、「ひとり暮らし」23.2%となっている。

○日中の家族の状況は、「いつも誰かいる」33.4%、「誰かがいることが多い」27.8%、「自分一人のことが多い」17.7%、「いつも自分一人である」15.8%となっている。

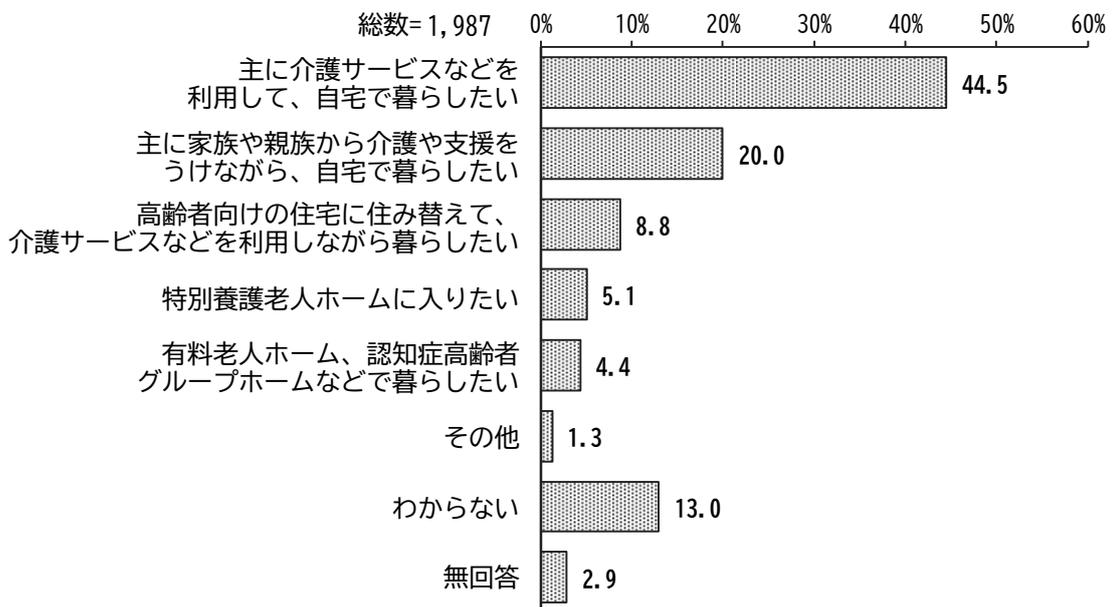
図表7-2 家族構成



◆住まいの種類、介護などが必要になったときの暮らし方

○住まいの種類は、「持家（一戸建て）」56.6%、「持家（集合住宅）」26.3%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」9.3%となっている。持家は82.9%と高くなっている。
 ○介護などが必要になったときの暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」44.5%、「主に家族や親族から介護や支援を受けながら、自宅で暮らしたい」20.0%、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」8.8%となっている。高齢者向けの住宅への住み替えを含めると、自宅等での暮らしを希望する割合が73.3%となっている。

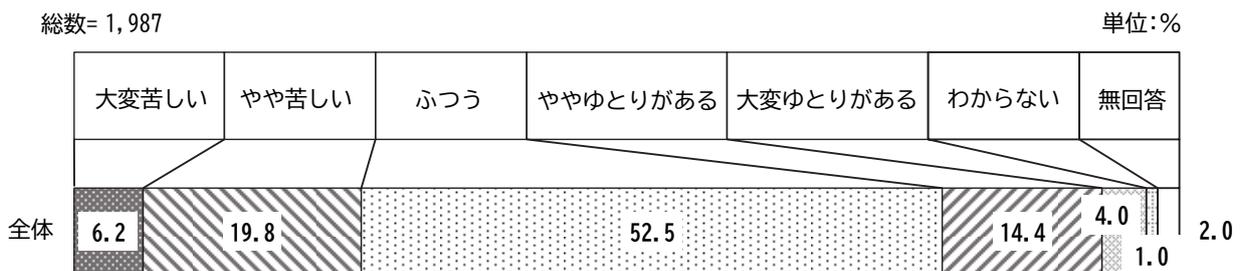
図表7-3 介護などが必要になったときの暮らし方



◆職業、暮らしの状況

○就労の有無は、「仕事はしていない（年金収入のみを含む）」64.1%、就労している人の職業では割合の高い順に、「自営業、自由業」12.2%、「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」11.3%、「常勤の社員・職員」4.3%となっている。
 ○経済状況は、「ふつう」52.5%、「やや苦しい」19.8%、「ややゆとりがある」14.4%、「大変苦しい」6.2%となっている。

図表7-4 経済状況

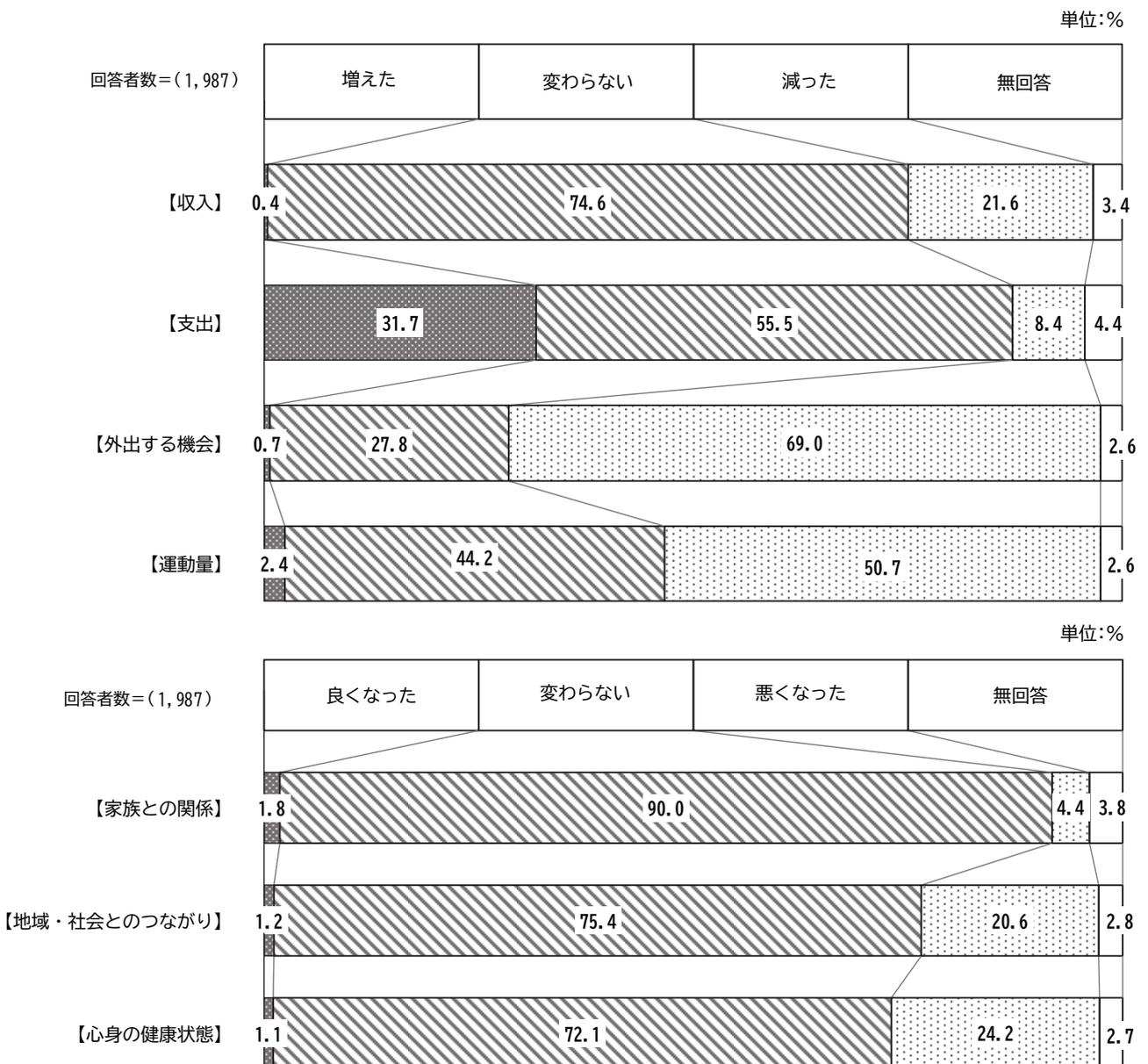


2 新型コロナウイルス感染症による影響について

◆感染拡大前と現在の暮らしの変化

○新型コロナウイルス感染拡大の前と後での暮らしの変化では、【収入】【支出】【家族との関係】【地域・社会とのつながり】【心身の健康状態】でそれぞれ「変わらない」が最も高く、【外出する機会】【運動量】では「減った」が最も高くなっている。
【支出】では「変わらない」55.5%、「増えた」31.7%となっており、【地域・社会とのつながり】【心身の健康状態】では、いずれも「変わらない」に次いで、「悪くなった」の割合が高くなっている。

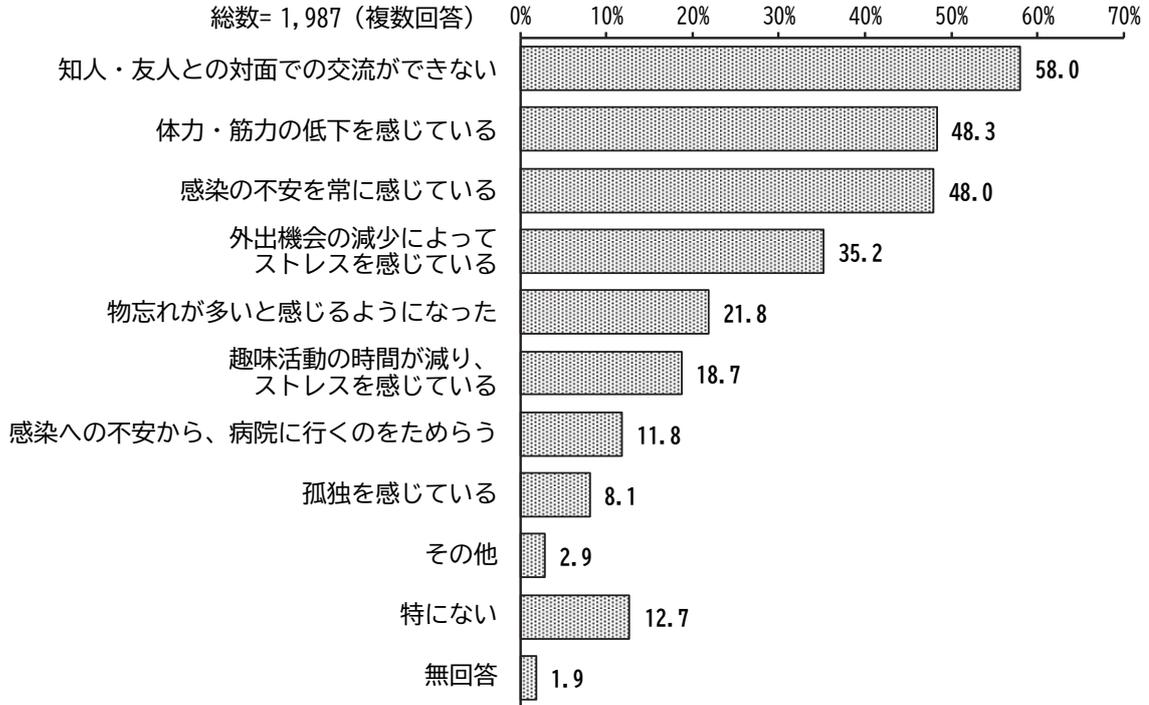
図表7-5 感染拡大前と現在の暮らしの変化



◆長期間の感染症流行による困りごと

○新型コロナウイルス感染症の長期流行による困りごとでは、「知人・友人と対面での交流ができない」58.0%、「体力・筋力の低下を感じている」48.3%、「感染の不安を常に感じている」48.0%となっている。

図表 7-6 長期間の感染症流行による困りごと



3 近隣や知人・友人との付き合いについて

◆人と話す回数、外出回数

○人と話す回数は、「ほぼ毎日」73.9%、「週に2、3回程度」11.4%、「週に1回程度」、「月に数回」、「ほとんど話をしない」約4%となっている。

○外出回数では、「ほぼ毎日」53.2%、「週に2、3回程度」30.0%、「週に1回程度」5.9%となっている。

◆隣近所との交流、孤独と感じる度合い

○隣近所との交流は、「顔を合わせたときにあいさつ（会釈）をする」37.6%、「家を行き来することはないが、立ち話などはする」が35.1%、「つきあいはほとんどなく、どんな人が住んでいるかもあまり知らない」が8.1%となっている。

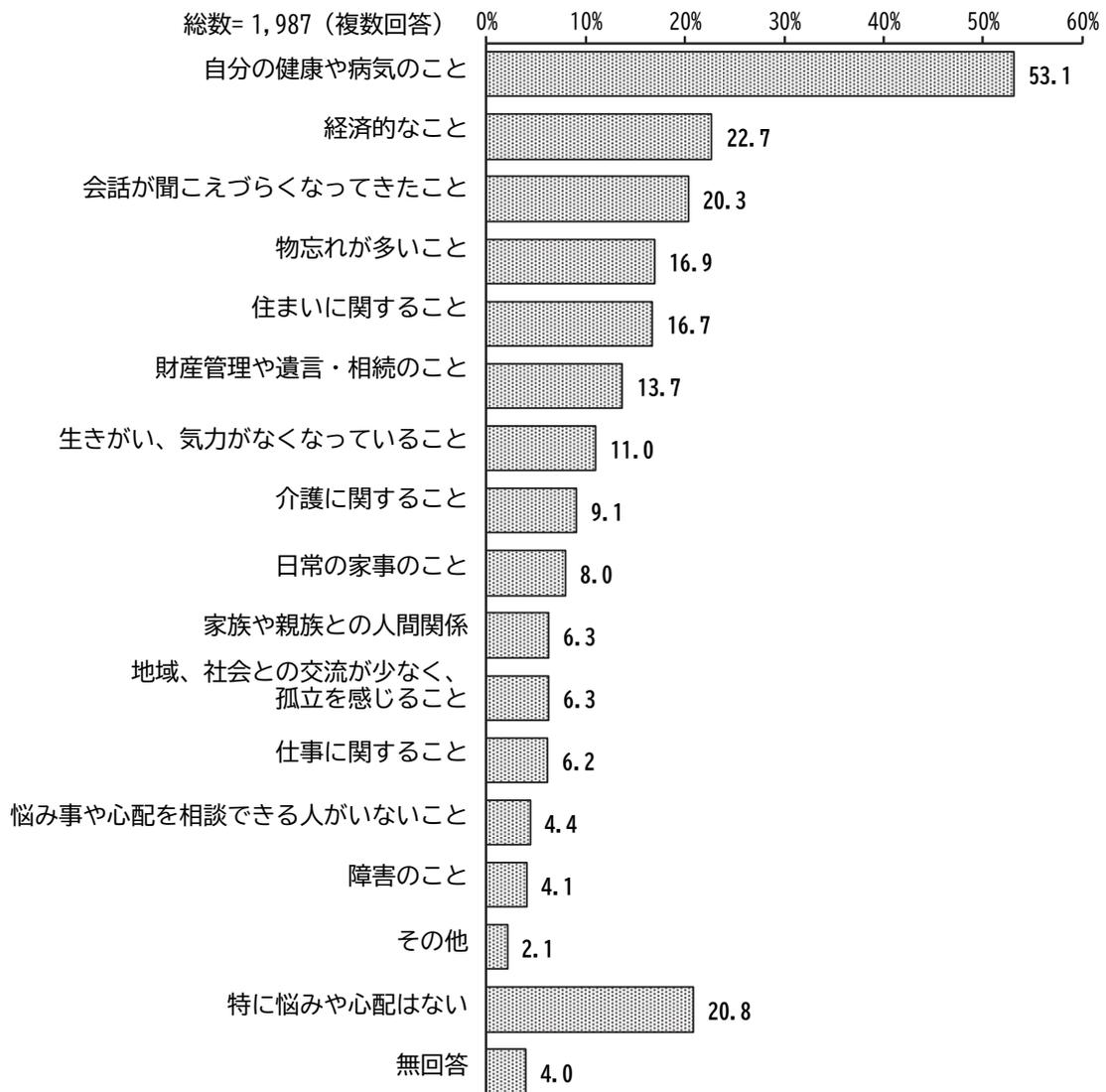
○孤独とを感じる度合いは、「ほとんどない」42.8%、「ない」28.3%、「たまにある」16.0%となっている。「たまにある」「時々ある」「常にある」を合わせた『孤独と感じたことがある』26.5%となっている。

4 日常生活上で困っていることや不安について

◆日常生活上の悩み、心配

○日常生活での悩みや心配は、「自分の健康や病気のこと」53.1%、「経済的なこと」22.7%、「会話が聞こえづらくなってきたこと」20.3%、「物忘れが多いこと」16.9%となっている。一方で、「特に悩みや心配はない」は20.8%となっている。

図表7-7 日常生活上の悩み、心配



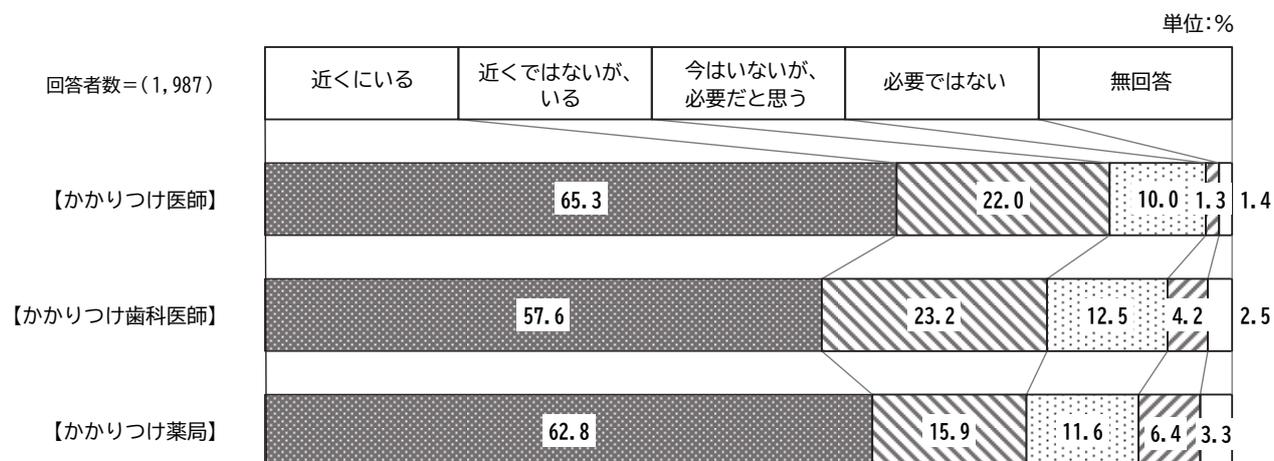
5 健康状態や在宅での療養などについて

◆健康状態、かかりつけ医師などの有無

○健康状態では、「まあよい」66.3%、「あまりよくない」17.6%、「とてもよい」9.5%と続いている。

○かかりつけ医師などの有無では、【かかりつけ医師】、【かかりつけ歯科医師】、【かかりつけ薬局】とともに、全体的な傾向は変わらない。「近くにいる」では、【かかりつけ医師】65.3%、【かかりつけ薬局】62.8%、【かかりつけ歯科医師】57.6%となっている。

図表7-8 かかりつけ医師などの有無



◆長期療養の場所、自宅での長期療養に必要なサービスや体制

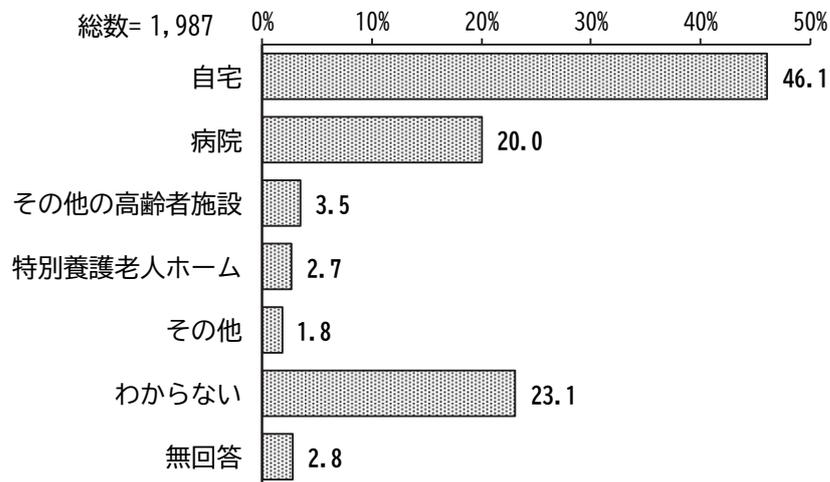
○長期療養の場所では、「自宅で療養し、悪化したときには入院して治療を受けたい」44.2%、「医療機関に入院して療養したい」33.9%、「わからない」8.1%となっている。

○長期間の在宅療養に必要なサービス・体制では、「医師の往診や訪問診療」65.7%、「訪問看護による医療的な支援」63.0%、「訪問介護・訪問入浴などの介護サービス」54.4%、「体の状態の改善を図るためのリハビリサービス」44.5%となっている。

◆人生の最期の場所

○人生の最期の場所では、「自宅」46.1%、「わからない」23.1%、「病院」20.0%、「その他の高齢者施設」3.5%となっている。

図表7-9 人生の最期の場所



6 権利擁護について

◆成年後見制度利用の意向

○成年後見制度の利用意向は、「必要になったら利用したい」52.0%、「わからない」28.8%、「利用したくない」16.6%、「すでに利用している」0.8%となっている。

◆介護者からの虐待の有無、虐待を受けたときの相談相手

○介護者からの虐待では、「特にない」と「介護されていない」を合わせた『介護者からの虐待経験はない』の割合は、全体の85.9%となっている。一方で、「大声で怒鳴られたことがある」1.4%、「プライドを傷つけられたことがある」1.1%、「無視されたことがある」0.3%、「暴力を振るわれたことがある」と「脅されたことがある」0.2%となっている。

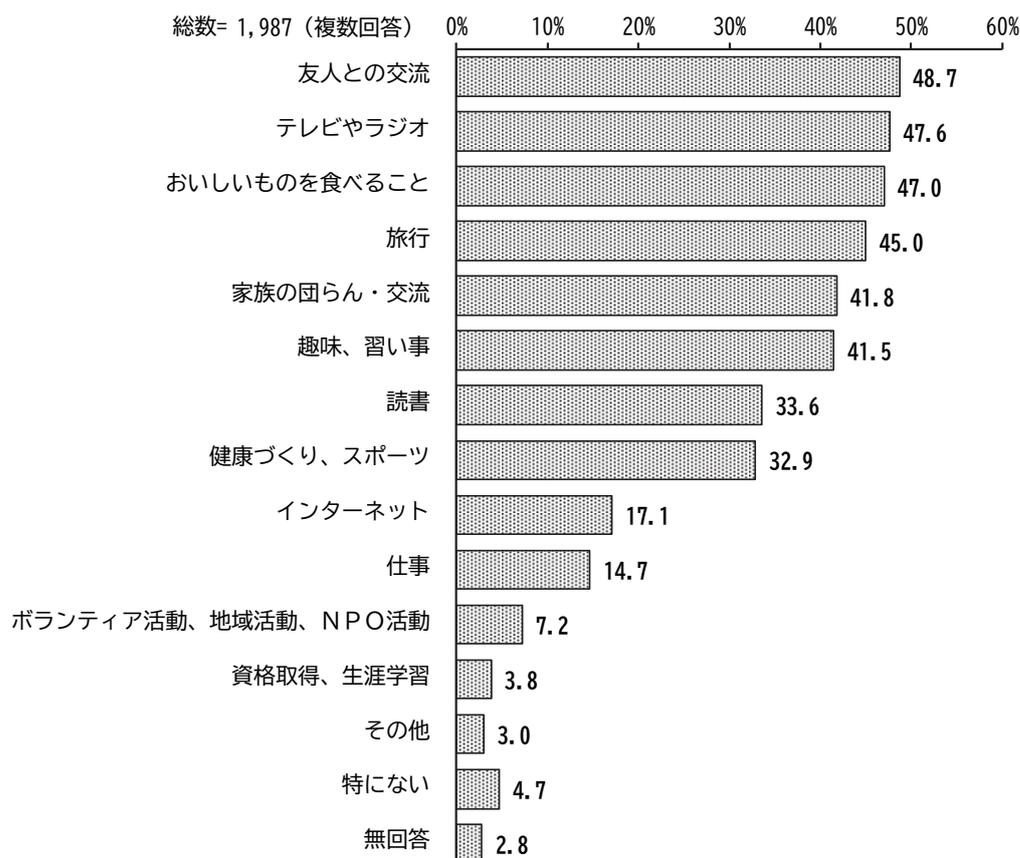
○虐待を受けたときの相談相手については、「誰にも相談していない」50.0%、「家族・親族」31.0%、「介護サービス事業者（ケアマネジャーやヘルパー等）」16.7%、「友人・知人」7.1%となっている。

7 生きがい、社会参加について

◆楽しみや生きがい

○楽しみや生きがいについては、「友人との交流」48.7%、「テレビやラジオ」47.6%、「おいしいものを食べること」47.0%、「旅行」45.0%、「家族の団らん・交流」41.8%などとなっている。

図表7-10 楽しみや生きがい



◆参加したい、参加してもよいボランティア活動

○参加したい、参加してもよいボランティア活動では、「特にない」55.1%、「話し相手や趣味の手伝い」16.0%、「地域交流サロンなど、高齢者の交流の支援」10.3%、「電球の取り替えなど、日常のちょっとした手伝い」7.6%などとなっている。

8 就労意向について

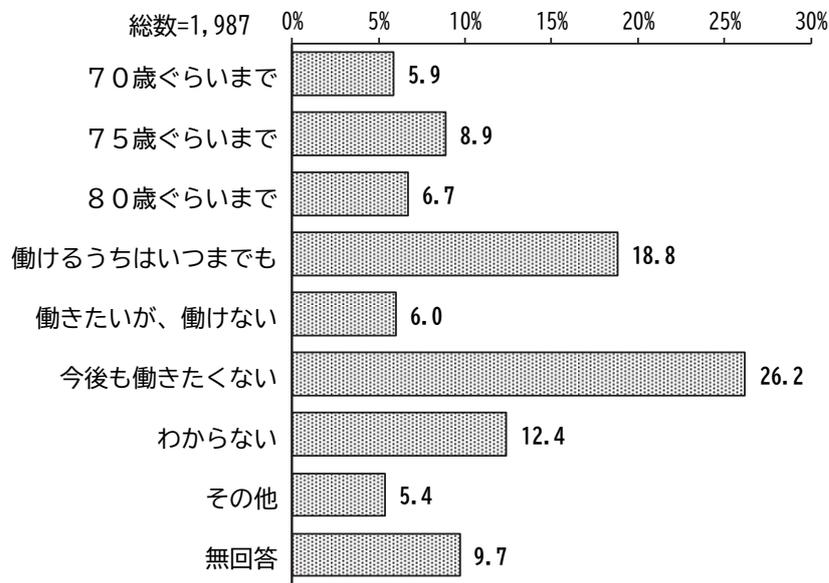
◆今後の就労意向

○今後の就労意向については、「働きたくない」41.6%、「わからない」16.0%、「短時間で働きたい（週35時間未満）」14.6%、「不定期で働きたい」7.7%となっている。

◆何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいか

○何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいかは、「今後も働きたくない」26.2%、「働けるうちはいつまでも」18.8%、「わからない」12.4%、「75歳ぐらいまで」8.9%となっている。

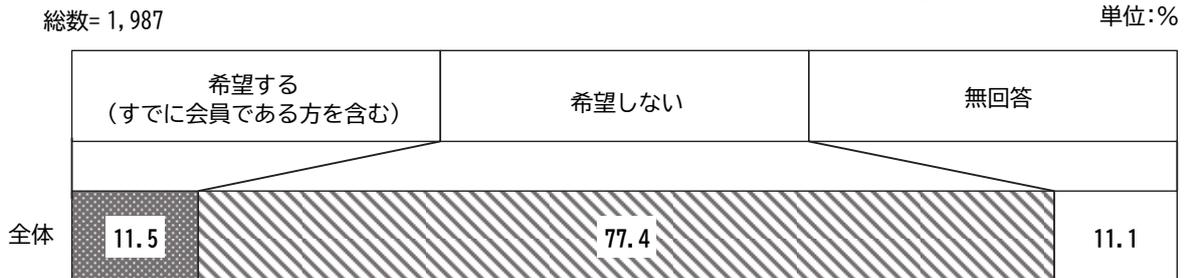
図表7-11 何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいか



◆シルバー人材センターでの就労意向

○シルバー人材センターでの就労意向は、「希望しない」77.4%、「希望する」11.5%を大幅に上回っている。

図表7-12 シルバー人材センターでの就労意向

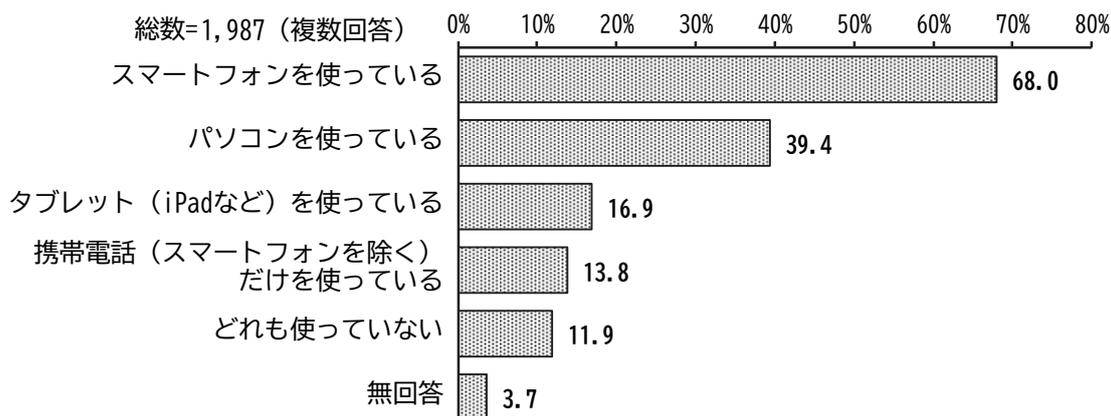


9 デジタル技術の活用について

◆通信・通話機器の日常的な使用

○通信機器等の使用については、「スマートフォンを使っている」68.0%、「パソコンを使っている」39.4%、「タブレット（iPadなど）を使っている」16.9%となっている。また、携帯電話も含めて「どれも使っていない」11.9%となっている。

図表7-13 通信・通話機器の日常的な使用



◆スマートフォン、タブレット、パソコンを使っていない理由

○スマートフォン、タブレット、パソコンを使っていない理由については、「自分の生活に必要性を感じない」52.1%、「使い方がわからない」40.6%、「必要な時は家族に頼むことができる」37.5%、「どのようなことができるのかわからない」14.3%、「情報漏えいや詐欺被害等のトラブルに遭うのではないかと不安」13.1%となっている。

◆スマートフォン、タブレット、パソコンをどのようなことに使用しているか

○スマートフォン、タブレット、パソコンをどのようなことに使用しているかでは、「通話」87.2%、「メール」85.3%、「インターネット検索（ニュース閲覧、天気予報など）」71.5%、「LINE（ライン）」68.0%、「写真・動画の撮影」65.4%となっている。

10 地域での見守りや支え合いについて

◆見守りネットワークの認知度、「高齢者見守り訪問事業」の利用意向

- 「見守りネットワーク」の認知度については、「名前も内容も知らない」46.1%、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」37.1%、「名前も内容も知っているが、ネットワーク参加団体には所属していない」10.6%となっている。
- 「高齢者見守り訪問事業」の利用意向については、「今は見守りを受けたいと思わないが、将来利用したい」62.5%、「見守りを受けたいと思わない」28.5%となっている。

11 目黒区の高齢者への生活支援サービスについて

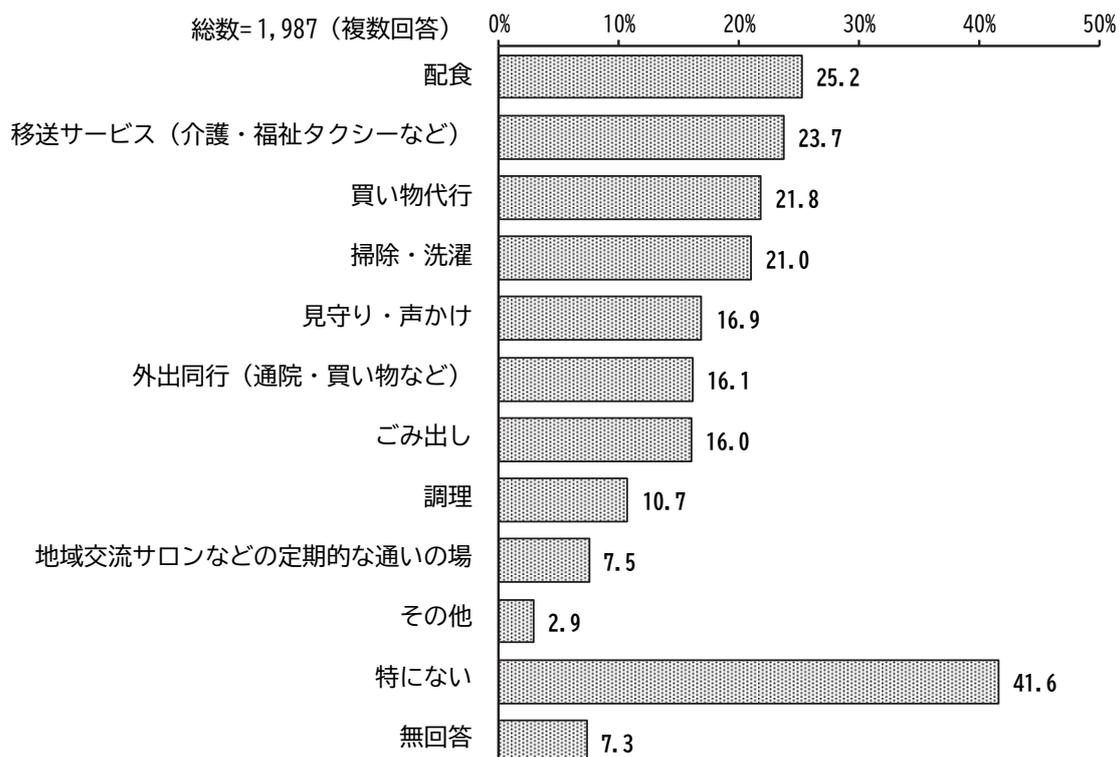
◆ひとり暮らし等高齢者登録の有無

- ひとり暮らし高齢者登録の有無については、「登録していない」77.5%、「わからない」8.0%、「登録している」6.7%となっている。

◆自宅での生活を続けるために必要な支援やサービス

- 自宅での生活を続けるために必要な支援やサービスでは、「特にない」41.6%、「配食」25.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシーなど）」23.7%、「買い物代行」21.8%、「掃除・洗濯」21.0%となっている。

図表7-14 自宅での生活を続けるために必要な支援やサービス



12 家族介護について

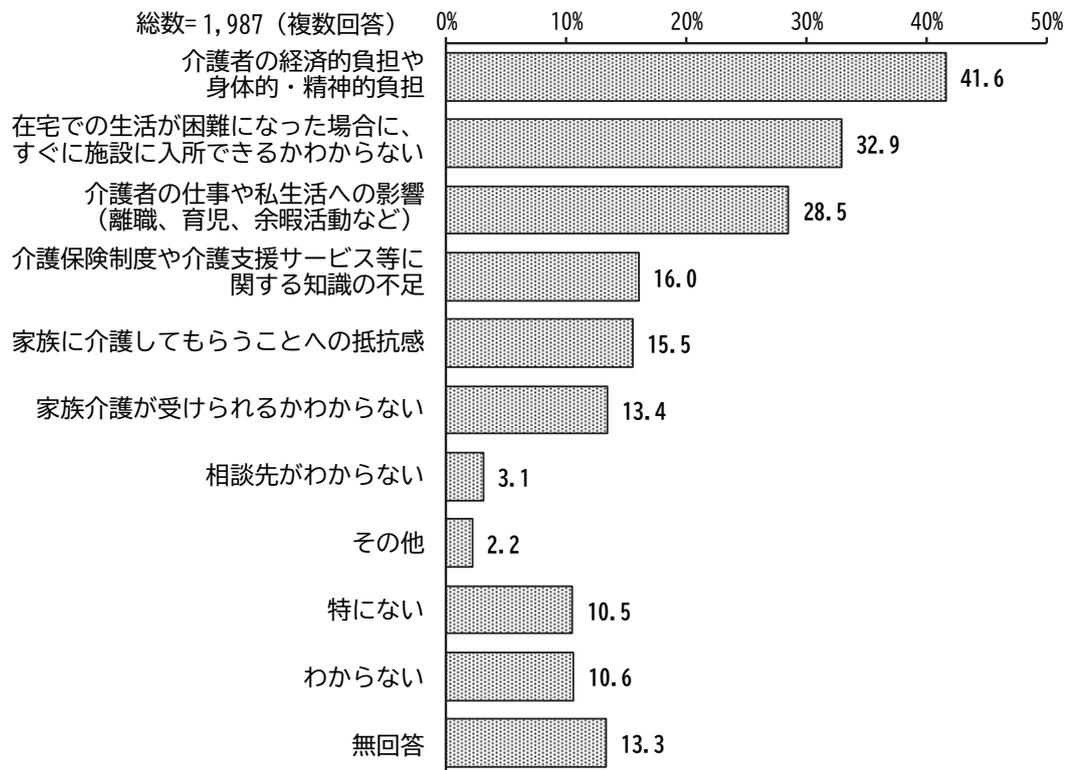
◆家族からの介護の状況、主な介護者の年齢、主な介護者との関係

- 家族からの介護の状況は、「受けている」11.5%、「受けていない」82.7%となっている。
- 主な介護者の年齢は、「50歳代」24.9%、「70歳代」23.6%、「80歳以上」19.2%、「65～69歳」10.9%となっている。
- 主な介護者との関係は、「子ども」53.3%、「配偶者」36.7%、「兄弟・姉妹」が1.7%となっている。

◆家族介護を受けながらの生活で不安に感じること

- 家族介護を受けながらの生活上の不安は、「介護者の経済的負担や身体的・精神的負担」41.6%、「在宅での生活が困難になった場合に、すぐに施設に入所できるかわからない」32.9%、「介護者の仕事や私生活への影響（離職、育児、余暇活動など）」28.5%、「介護保険制度や介護支援サービス等に関する知識の不足」16.0%となっている。

図表7-15 家族介護を受けながらの生活で不安に感じること



13 災害時の対応について

◆緊急時や事前の備えに必要な支援

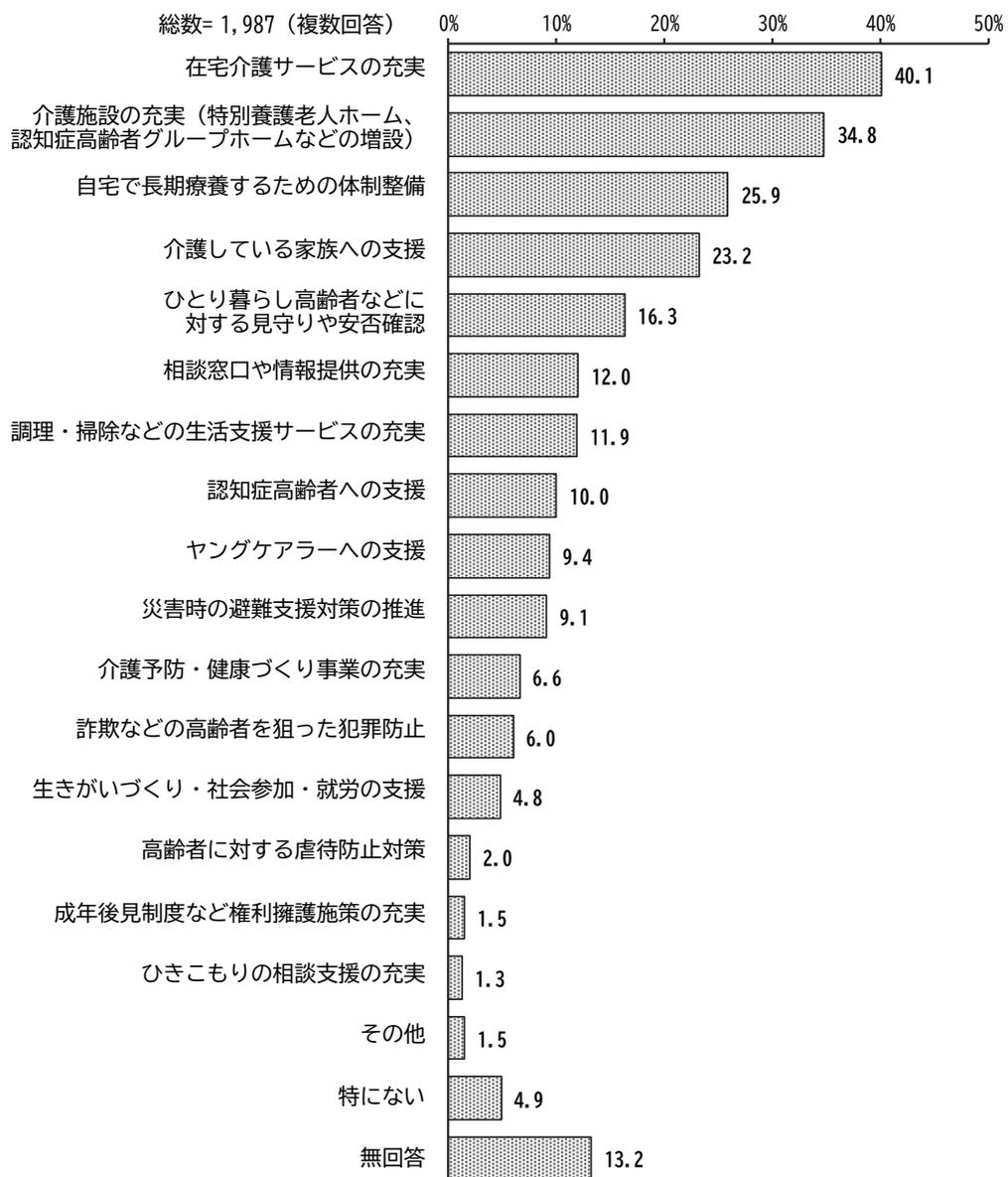
○緊急時や事前の備えに必要な支援は、「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」60.9%、「安否確認の支援」54.5%、「避難所までの移動支援」42.8%となっている。

14 高齢者施策全般について

◆優先的に取り組む必要がある高齢者施策

○優先的に取り組む必要がある高齢者施策は、「在宅介護サービスの充実」40.1%、「介護施設の充実（特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホームなどの増設）」34.8%、「自宅で長期療養するための体制整備」25.9%となっている。

図表7-16 優先的に取り組む必要がある高齢者施策



第9期介護保険事業計画基礎調査
高齢者の生活に関する調査 報告書 <<概要版>>

主要印刷物番号
4-34号

令和5年3月発行

発行 目黒区

編集 目黒区 健康福祉部 介護保険課・高齢福祉課

〒153-8573 東京都目黒区上目黒二丁目19番15号

電話 介護保険課 03(5722)9840(直通)

高齢福祉課 03(5722)9607(直通)

調査委託先 株式会社コクドリサーチ

